



鄭 栢 良
抄 輯
登 高 自 卑
四

登高自卑卷之下末

静岡 村松良肅抄

藥井川

○植物説

天地間ニ於テ、其形ヲ現ハス者、森羅万象カギリナシ
 トイヘズ、之ヲ大別シテ、有機體無機體ノ二綱ト為シ
 無機體ナル者ハ、凡テ自然造化ノ力ニ賴リテ生育シ
 自己固有ノ活機ナク、其生育スルモ、唯同質同性ノ者、
 其外面ヨリ附着凝聚シ、次第ニ増大スルノミニシテ、
 榮枯死生ノ變リナキ者ヲ云フ、金石ノ類是ナリ、有機
 體ナル者ハ、自然造化力ノ外、更ニ各物自主ノ生活力

登高自卑卷下末



蓋正自身下寸

ナル者アリテ、自己ノ營養ヲナシ運用ヲナシ、長育繁茂シ、且種子アリテ生々相繼ギ、繼令其身ハ枯死スル、其種子ヨリシテ、又同性同形ノ物ヲ相續シテ、永世絶エザル者ヲ云フ、草木人畜ノ類是ナリ、有機體ヲ又區別シテ、植物動物ノ二類トナス、動物トハ鳥獸魚介ノ總稱ニシテ、植物トハ草木ノコトナリ、草木ハ苔蘚菌蕈ノ類ヨリ灌木喬木ニ至ルマデ、凡テ八万餘種アリト云フ、先哲ノ詩ニ、植物ハ地球ノ毛服ナリト云ヘリ、實ニ高山深谷海底水面赤道ノ熱沙兩極ノ積雪ヲ撰ハズ、悉ク之ヲ生ジテ、些シノ裸體ヲ遺ラレバナ

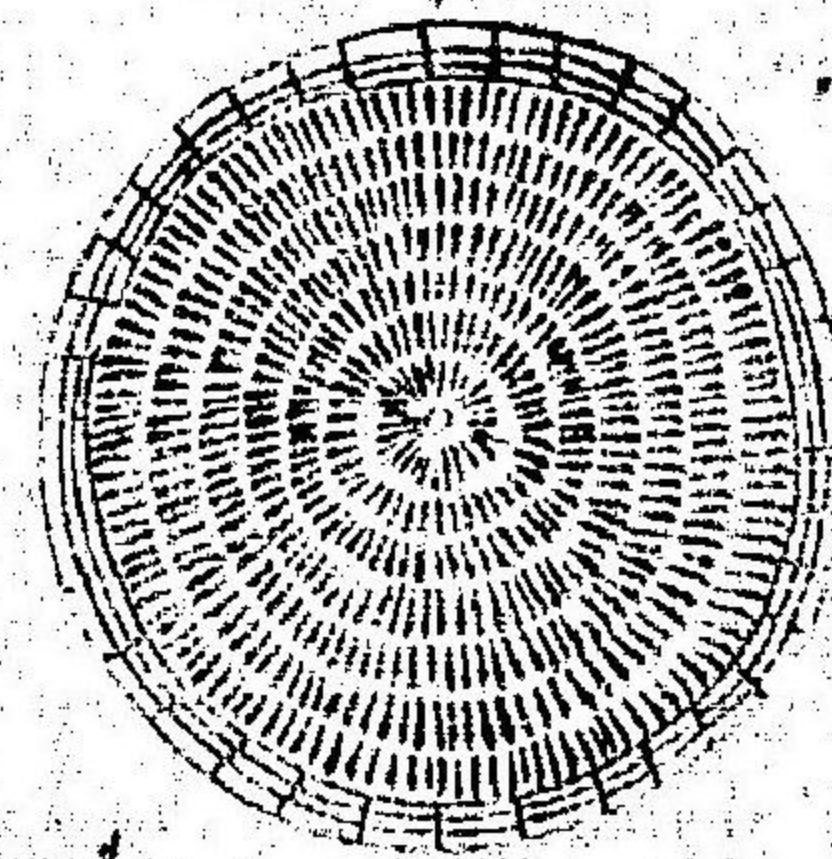
リ、然レモ植物ハ人ノ衣服ノ如ク、只其外表ヲ被フノミナラス、粘粉セシ後或ハ腐敗或ハ化石シテ、隨テ地球ノ土質ヲ増益スル者ナレバ、地球ニ於テハ尤モ緊要ナル者ナリ、喻ヘバ今海中ニ純石ノ小嶋アラニ、其上ニ先ヅ石藓ヲ生ゼシ、藓根石ニ入り、雨露之ヲ瀉シ、積濕ノ久シキ、石ノ外皮ヲシテ腐爛セシム、石ノ爛ル、者ト藓ノ濕フ者ト、雜糅シテ泥土トナリ、泥又草ヲ生ジ、草根石ニ入ル、益深ク、石ノ爛ル、益甚シク、雜糅シテ泥土トナル、亦益々多シ、是ノ如クスル、千百年ナレバ、泥土愈多クシテ、終ニ百穀草木ヲ生

蓋正自身下寸

スルニ至ル、大東洋諸嶋ノ初ヲ推セバ、皆然クシテ成
シモノナリ、又火山ノ噴石流出ノ沙礫之ヲ望メバ、磊
ゴトシテ皆石ナレバ、亦必ス先ヅ石藓ヲ生ジ、久フシ
テマ々艸木ヲ生ズベシ、故ニ石藓ハ諸植物ノ先路ト
云フヘシ

○植物ノ内體ハ第百十七圖ノ如ク木幹ヲ横截シテ

第百十七圖



之ヲ見レバ、其中心ハ木ノ髓ナ
リ、其次ハ心皮ナリ、次ハ肉層ナ
リ、次ハ外皮ナリ、盡ク細長ナル
小管相聚湊シテ成リシ者ナリ、

其中無數ノ細胞アリ、胞中流動物ノ脂油ヲ含ム、之ヲ
聚胞體ト云フ、又細線アリテ其小管ヲ盤フ者アリ、之
ヲ線體ト云フ、植物モ動物ト同シク、食餌ト空氣ヲ以
テ、其身ヲ營養スル者ナリ、其根ノ末梢ゴトニ、年々新
生スル無數ノ微細孔アリ、其ヨリ津液ヲ吸收シ、心皮
ヲ傳ヘテ上昇シ、幹ヨリ枝、枝ヨリ葉ニ至リ、葉ノ表面
ニ布在セル、無數ノ細孔ヨリ、四方ニ三四万孔ヨリ、酸
素ヲ蒸泄シ、炭素ヲ收メテ、マ々葉ヨリ枝ヨリ下行シ、新肉
ヲ造リテ、枝幹ヲ肥シ、餘液ハマ々次皮ヲ傳ヘテ、土中
ニ廻ルナリ、斯ク新陳代謝シテ、フノ肉層年々一層ヅ

ツ、漸々ニ長育ス、然レ皮ハ其比例ニハ長育セズ、
 稍々内部ニ向テ厚肥スル者ユエ、凡テ植物ハ年月ヲ
 歴ルホド、木理緻密ニシテ堅實ナル者也、植物ノ營養
 ハ、多ク春夏温熱ノ時ニ於テス、冬時ニ及テハ、津液ノ
 昇降ヤミ、常青木ノ外ハ、木葉凋落スルヲ常トス
 ○植物ノ培養ニ、糞汁灰藁或ハ鳥獸魚介等ノ骨肉ヲ
 其根ノ周圍ニ埋レバ、其中ニ含メル水素炭素酸素窒
 素及ビ其餘ノ元素等、其細根末梢ノ小孔ヨリ之ヲ吸
 收ス、又植物ハ根ヨリ水液ヲ吸フノミニ非ズ、又葉ノ
 裏面ニ無數ノ細孔アリテ、空氣中ノ炭酸氣アンモニ

ア氣 動物ノ呼吸氣及ビ動物ノ腐ヲ吸收シ、木質ヲ造成ス、
 而ノ晝間ハ葉ノ表面ヨリ酸素水素ヲ蒸發シ、夜間ハ
 炭酸氣窒素等ヲ蒸發ス、故ニ植物ノ常ニ食トスル者
 ハ、水土及ヒ空氣ナリ、其餘ナホ諸種ノ元素ヲ食スレ
 厄、多クハ水ヲ媒介トシテ水ヨリ之ヲ吸收ス、水ハ元
 ト地中ヨリ上湧スル者ユエ、地中ノ諸元素ヲ融和溶
 解シテ、ヨク之ヲ植物ニ吸收セシム、植物ハ其生ズル
 處ノ水土ヲ以テ生育シ、其水土ノ性質ヲ稟有スルニ
 因テ、常ニ鹽類土類等ヲ含メリ、植物ノ水液ヲ吸フ
 ノ多キハ意外ニ出ヅ、喩ヘバ玻璃瓶ニ水ヲ盛り、日花

葉藤能年下

四

向ハ花ノ牽リ花ト云フ挿シ置ケバ、一晝夜ニシテ瓶中ノ水甚ク減少ス、又絲瓜ノ蔓ヲ截テ、斷頭ヲ瓶子ニ挿シ置ケバ、一夜ニシテ多量ノ水ヲ得ベシ、以テ其水ヲ吸収スルノ多ヲシルベシ、吸収スルノ多キ者ハ之ヲ蒸發スルノ亦多シ

○植物生育ノ最要ナル者ハ水土ニシテ、之ニ次者ハ空氣ナリ、空氣中ニ水蒸氣ヲ含ノ多少、又寒暖ニ隨テ氣候ノ變替スル等ハ、大ニ植物ノ關係ヲナセリ、空氣中ニ水分多クレバ、植物ヨリ水氣ヲ蒸發ルノ少ナキユエ、植物ノ地中ヨリ水ヲ吸収スルノ少ク、若シ空氣

中ニ水分少ナクレバ、植物ヨリ多ク水氣ヲ蒸發スルユエ、植物ノ水ヲ吸収用スルノ亦大ナリ、又植物ニヨリテハ、自己ノ滋養ニ供スルヨリ、ナホ多量ノ水ヲ蒸發スル者アリ、之ヲ滋潤植ト云ヒ、又其吸収セシ水分ヲ僅ニ蒸發スル者アリ、之ヲ乾燥植ト云フ、其第一種ニ屬スル者ハ、多ハ其葉薄シテ廣ク、且表被モ甚ダ薄シ、第二種ニ屬スル者ハ、其葉狹クシテ厚ク、或ハ線條ヲナシ、或ハ膜様革様ノ表被ヲ蒙リ、且甚ダ繁密ナリ、甲ハ其組織脆脆ニシテ、長育スルノ自ラ速ニ乙ハ其組織堅韌ニシテ、長育スルノ自ラ遅シ、然シテ其榮

枯ヲ比較スレハ、乙種ノ者ハ猶盛ナルニ甲種ハ枯レ、
 乙種將ニ枯ントスル中、甲種ハ已ニ腐敗スル者ナリ
 ○植物ノ生殖繁茂スルトハ、最モ光ト温トニ關係セ
 リ、赤道近傍ノ地方ハ草木甚ダ盛大ニシテ、南北兩極
 ニ近クニ隨テ漸ク短小ナリ、赤道南北十五度ノ界内
 ニハ、椰樹大棕櫚大芭蕉榕樹西瓜等アリ、花果ノ最モ
 美ナル樹膠ノ最モ香キ者、ミナ此界内ニ在リ十五度
 ヨリ三十四度ニ至リテ、温熱漸ク損殺シ、草木漸ク短
 小ニシテ且ツ疎ナリ、此界内ニハ甘蔗大棗木綿無花
 果栗桂杏梅桃李胡桃橘柚ノ類多シ、三十四度ヨリ四

十五度五十八度ニ至リテハ、橡松杉ノ類多シ、此界内
 ニテ始テ經冬不凋ノ諸木ヲ生ズ、五十八度ヨリ七十
 二度ニ至リテ、槭延胡索等アリ、此界内ニテ苔蘚始メ
 テ濃厚ナリ、七十二度ヨリ兩極下ニ至リテハ、四時氷
 雪消エズ草木生セス、僅ニ苔蘚アルノミ凡テ植物ハ
 ソノ生ズル所ノ地勢ニ隨テ、ヨク其便宜ニ適スル者
 ナリ、喻ヘバ熱帶荒瘠ノ地ニ生ズル草木ハ、其根ト果
 トニ漿汁多シ、且其葉大ニシテ暢茂シ、行人其陰ニ就
 テ暑ヲ避ク、其漿ヲ飲テ渴ヲ醫スベシ、温帶ノ人ハ體
 性肉食スルニ宜シ、故ニ草能ク肥テ牛羊ヲ養ヒ、以テ

人ニ肉食セシム、寒帯ノ人ハ冰雪上ヲ行ハ、恒ニ無輪
 車ニ乗り、鹿ヲシテ車ヲ牽シム、鹿ハ苔ヲ嗜ミ食フ、故
 ニ苔藓ヲ生ジテ鹿ニ飽シム、造化ノ地ニ因テ宜ヲ制
 スル、偶然ニ非ザルナリ、
 ○植物ノ吸收受用スル液質ノ異ナルニ隨テ、各植其
 種族ヲ異ニス、蓋シ其同族ニ等入スル植物ハ、其内部
 外部ニ含有スル元素、ミナ同一ナル者ナリ、凡テ植物
 一般ノ大成分ハ、炭水酸窒ノ四元素ナリ、而シテ其對稱
 量各々不同アルニ因リ、即チ其集合ノ各則アルニ因
 テ、自ラ種族ノ異同ヲ生ズ、而シテ其集合對稱ハ、最モ

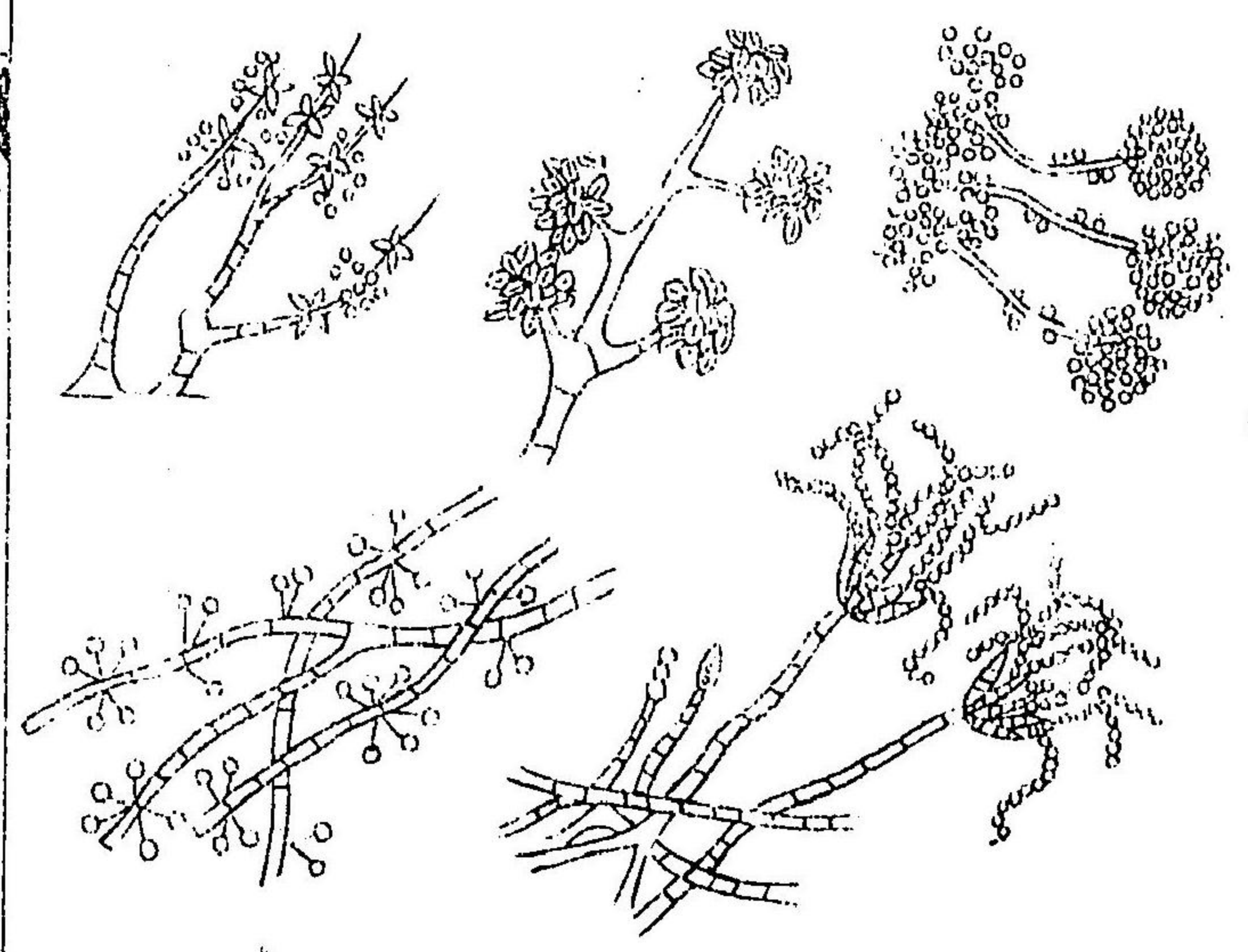
温熱ニ關係スル者ナリ、其地方ノ異ナル、温度ノ同ジ
 カラザルニ隨テ、其元素モ亦自ラ一定ナラズ、故ニ各
 植スベテ其方域ヲ限リテ他方ニ生ゼズ、縱令他方ニ
 生ズルモ多クハ其形ヲ變易スルモノナリ、又植物ノ
 全體ニ含有セル諸元素ヲ總計スレバ、其受用稟有ス
 ル元素ノ分量ハ、必ず確然タル定則アル者ナリ、故ニ
 土壤ノ膏瘠、温度ノ増減、水蒸氣ノ寡多等ハ、植物ニ交
 感スル、少クナラズ、然リトイヘ、亦之ヲ他方ニ移
 シテ、其水上風氣ノ異ナルニ、ヨク、染習スル者アリ、而
 シテ植物其異氣ニ染習スヘキ所ノ領界ハ、各植各廣

狹アリ、葡萄ノ如キハ、其性寒地ニ宜シク、熱地ニ宜シ
 カラザル者ナレバ、其領界甚ダ廣クシテ、佛蘭斯獨乙
 レーラント、ホンガレー子、イスパニヤ、イタリヤ等ノ國
 々、各隔絶シテ、其氣候異ナリトイヘ、何ノ地ニ於テ
 モ能ク成熟スル者ナリ
 ○植物マタ寒暑ヲ經過スルニ、ヨク中庸ノ温度ヲ
 酌スル者アリ、喻ハ、寒日ニ於テ、其温度不足スル者
 ハ、暑日ノ過温ニ之ヲ補ヒ、暑年ノ損ハ、寒年ニ之ヲ
 償フガ如シ、又夏月其氣候寒クシテ、植物ノ生育宜シ
 カラザル者モ、其次月ノ熱ニ因テ、再ビ順良ニ復スル

者アリ、又果穀類ニ於テハ、温度僅ニ變移スレバ、其豊
 凶ヲ異ニシ、中庸ノ年温ニ於テモ、往々少差アル者ア
 リ、又甚シキ寒熱ハ、凡テ植物ヲ枯死セシムル者ナリ
 然レバ、又嚴寒酷暑ニ當テ、少モ其害ヲ蒙ラザル者ア
 リ、又温度氷點ヨリ以下ノ地方ニハ、凡テ草木生セザ
 ル者ナリ、然レ、厄兩極下、高山上等ノ、永劫氷雪ノ消ザ
 ル地ニ於テモ、猶小植物ノ生ズル者アリ、則チ氷雪上
 ヲ望テ、彷彿トシテ、紅色アルハ、無數ノ細苔聚簇セン
 色彩ナリ、其細苔ハ、海藻ノ族ニシテ、肉眼ニテハ之ヲ
 見ルベカラザルモ、精巧ノ顯微鏡ニテ之ヲ照セバ、其

大サ一分ノ十分ノ一ナリト云フ、菌類ノ類又蒸餾酒。
 醋等ニ生スル黴ヲモ、植物ニ算入セリ、蓋シ此類ノ者
 ハ炭酸氣アンモニア氣ヨリ生ゼス、但シ死植ノ腐敗
 液ニ因テ生スル者ナリ、故ニ他ノ植物ノ如ク、炭酸氣
 ヲ吸ヒ、舍密ノ作用アリテ、酸素ヲ分離スル者ニ非ズ、
 只動物ノ如ク酸素ヲ吸入シ、炭素ト和シ炭酸ニ轉化
 スル者ナリ、故ニ菌類ノ類ハ、真正ノ植物ニアラズ、只
 其本植ノ疾病誤形ノ一分ナリト看做シテ可ナリ、蓋
 シ病木ノ枝葉等ニ生スル斑點鱗屑ノ如キ者ナリ、又
 石炭礦或ハ半泥化シタル木類ノ根柢ニ生スル黴

第百十八圖



黴之類

ハリツモルベシ如キノ
 植物ヲ云ノ類ナリ、此
 等ノ者ハミナ光線ヲ
 嫌忌シテ、必ず陰處ニ
 就テ生ズ、故ニ日光ニ
 晒セバ、多クハ枯死ス
 ル者ナリ、
 ○植物其品類多シト
 イハレ、其生スル所ノ
 地ニ隨テ、之ヲ三品ニ

區別ス、其一ハ水植ナリ、凡テ水中ニ生スル者ヲ云フ、
 而シテ或ハ淡水中ニ生スル者アリ、鹹水中ニ生スル
 者アリ、或ハ水面ニ漂浮スル者アリ、或ハ其根ヲ水底
 ニ託シテ、花葉ヲ水上ニ抽ヅル者アリ、浮萍、荇、藻、川骨、
 蓮、昆布等ノ類之ニ屬ス、其二ハ陸植ナリ、凡テ地上ニ
 生スル者ヲ云フ、而メ或ハ粗鬆滋潤ノ地ヲ好ム者ア
 リ、或ハ堅硬乾燥ノ地ヲ好ム者アリ、或ハ沙礫ノ地ニ
 生ジ、或ハ石罅ニ生スル者アリ、其三ハ寄生ナリ、他木
 ニ寄託シテ生スル者ヲ云フ、其最モ微ナル者ハ、動物
 ノ肺中ニモ往々之ヲ生ゼリ、肺中之ヲ生ズレバ、人獸

ミナ病ニ罹ルト云フ、是ソノ本木ノ汁液ヲ吸テ、已ノ
 養ヲナス者ナリ、女蘿、菌、蓴、蠶ノ類之ニ屬ス、
 ○植物其長育スル所以ノ理ニ本ヅトテ、又之ヲ四類
 ニ區別ス、其一ハ外長類ナリ、新肉外ヨリ生ジテ、長育
 スル者ヲ云フ、其二ハ内長類ナリ、新肉内ヨリ生ジテ、
 長育スル者ヲ云フ、其三ハ上長類ナリ、新肉節ヲ逐テ
 上部ヨリ、長育スル者ヲ云フ、其四ハ通長類ナリ、全體
 齊シク日々ニ長育スル者ヲ云フ、而メ外長類ハ、毎歳
 一層ヅ、長育スル故ニ、之ヲ横截シテ其肉層ヲ數フ
 レバ、幾年ヲ經シ、舊木タルヲ微知ス、バシ蓋シ植物

十ノ八九ハ此類ニ屬ス、内長類ハ初生ノ年ハ其幹中
 虚ナリ、明年ソノ内部ヨリ新肉ヲ生シ、外面ノ舊肉ヲ
 擠テ肥大ラシム、年々斯ノ如クニ長大スルユ、舊
 肉愈久フシテ愈堅シ、此類ハ心ナク皮ナク、之ヲ截テ
 其肉層ヲ見ス、椰樹竹等ノ如キ是ナリ、上長類ハ毎年
 ソノ葉落ルノ後、其幹一節ヲ增長ス、東印度ノ背陰艸
 ノ類是ナリ、

第九十第



背陰草

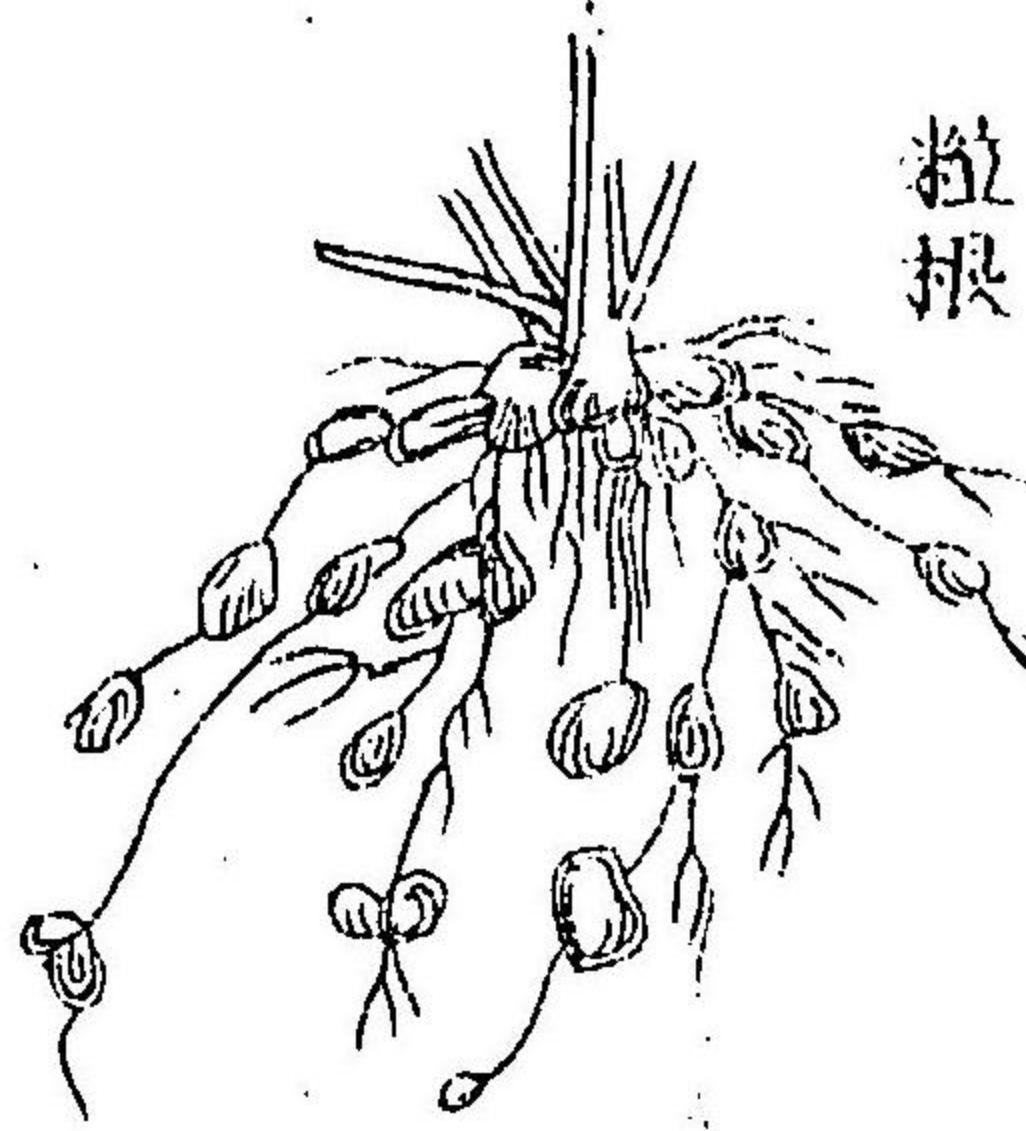
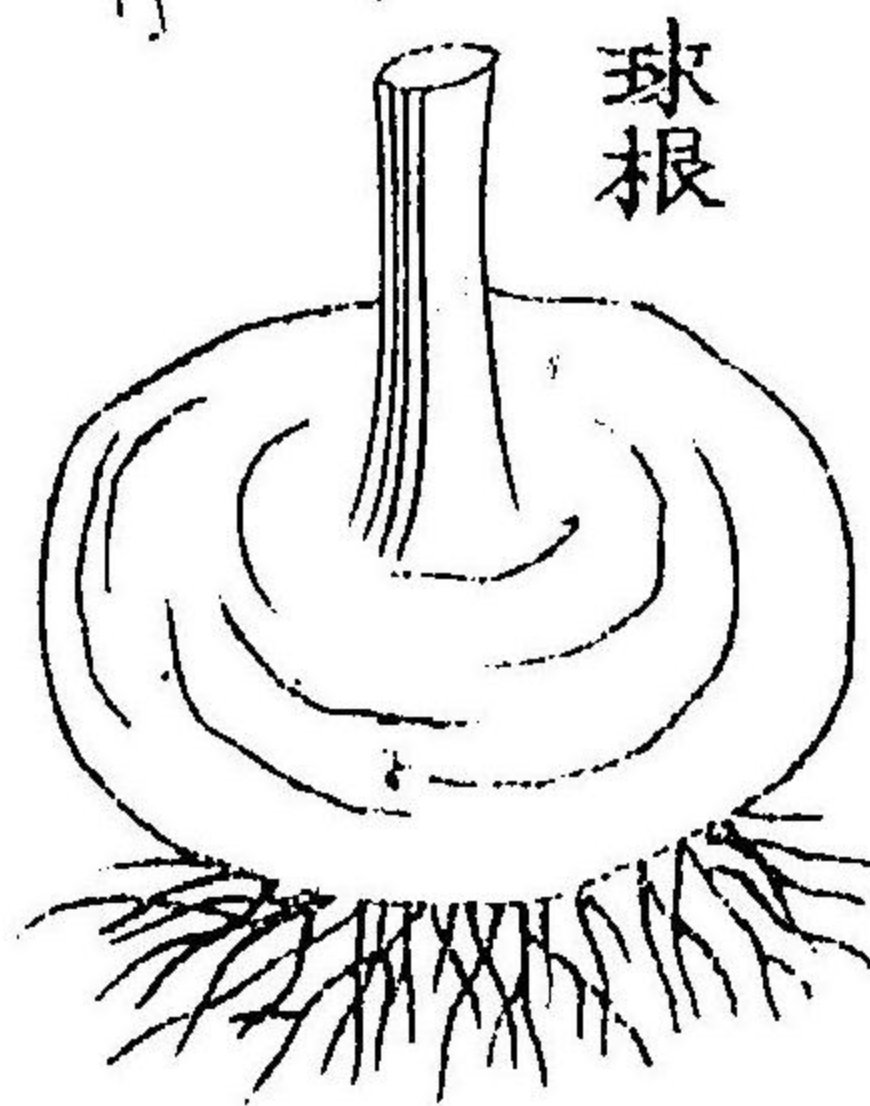
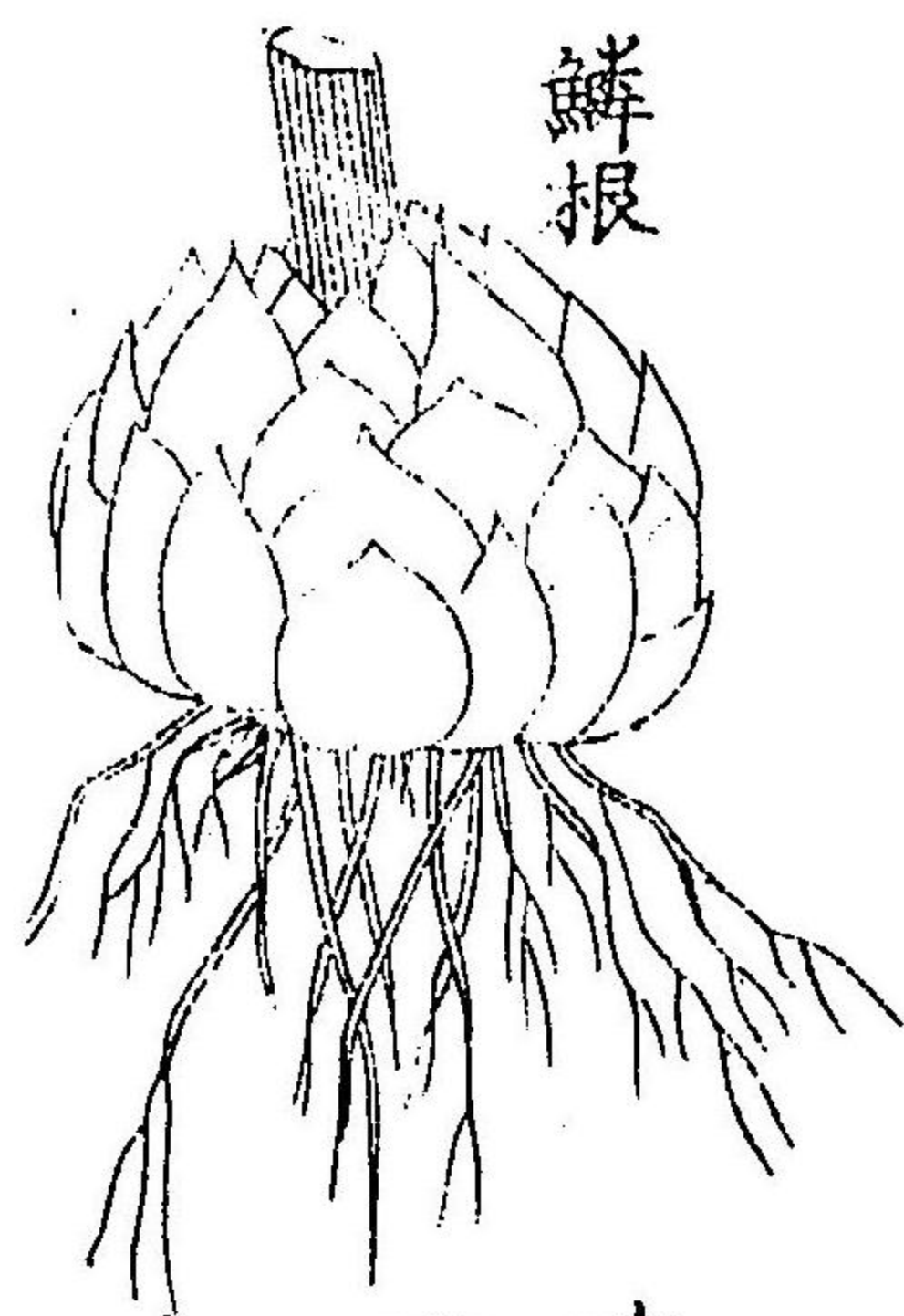
此木ソノ初
 ハ中實ニシ
 テ、久ク經テ

中幹ナリ、長キ者ハ數百尺、頂上ニ長毛ヲ生シテ下垂
 シ、又長葉アリテ四周ニ散布ス、第百十九圖ヲ見ルベ
 シ、通長類ハ全體齊ク長育ス、聚胞體其中心ニアリテ、
 四面ニ長條ヲ生ジ、次第ニ増大スル者ナリ、葦木耳ノ
 類之ニ屬ス、

○植物ノ根、幹、枝、葉、花、果、種子、コレヲ外體ト云フ、根ハ
 一ニハ樹幹ヲ保持シ、二ニハ其細根末梢ノ小孔ヨリ、
 土中ノ津液ヲ吸ヒ、以テ全體ヲ營養スル者ナリ、根ノ
 土中ニ在テ四面ニ蔓延スル、恰モ其枝葉ト相應ス、
 故ニ枝葉上ヨリ雨露湧下スレバ、根末ノ小孔スナハ

子之ヲ吸収ス、石罅或ハ沙礫ノ中ニ生スル者ハ其根
 甚ダ長クシテ、速ニ土汁ヲ吸フニ便ナラシム、根末
 ノ小口ハ、年々ニ一タビ代謝ス、或ハ脱シ或ハ爛レ或
 ハ鞭根ト為ル、榕樹ハ枝間ニ、徑ハマタ條ヲ生ジ、下垂
 シテ土中ニ入り、化シテ根トナル、細根土中ニ蔓延ス
 レバ、其餘漸ク粗大トナリ、又變ジテ幹トナル、印度ニ
 大榕樹アリ、大幹三百小幹三千アリ、兵隊此ヲ過レバ、
 全軍其下ニ駐マルベシト云フ、又其根ノ四面ニ蔓延
 セザル植物ハ本幹ノ下ニ必ズ一個ノ團球體アリ、球
 中ニ漿アリテ以テ其身ヲ養フ、百合、薔薇、芋ノ類是也

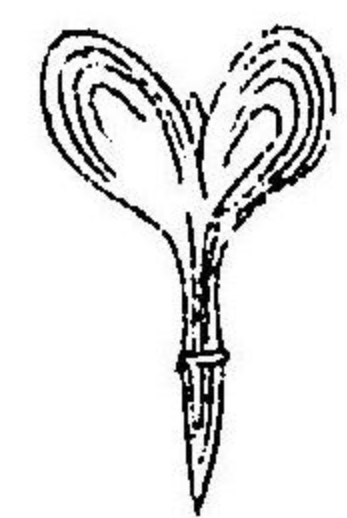
第百二十圖



○ 幹ハ種子土上ニ萌出シテ、第百二十一圖ノ如ク、初
 メテ一芽ヲ生ジ、其芽葉トナリテ、マタ一芽ヲ生ス、此
 ノ如ク次第ニ漸長シテ、遂ニ幹トナル、蓋シ根末ノ小

孔ヨリ、土中ノ津液ヲ吸收シ、上昇シテ葉ニ至リ、酸素ヲ蒸散シ、ソノ炭素ハ日光ヲ受テ、化シテ肉層トナリ、

第百二十一圖



芽出成ニ胞葉者

餘液ハマタ次皮中ニ溶フテ土中ニ廻ル、斯ノ如ク凡テ木質ノ長育ハ上ヨリ肥大スル

者ユエニ、試ニ小刀ヲ以テ幹ヲ周割シ、或ハ絲ヲ以テ

緊縛スレバ、縛處ノ下ハ未ダ肥ガルニ、上部ハ已ニ肥

沃ナル者ナリ、

○枝ハ外長類ノ者ハ、幹傍ヨリ芽ヲ發シ、幹ノ四面ニ

横出ス、其位置下ヨリ上ヘト、盤旋シテ次第ヲ亂サズ、

然レモ枝ノ生ズベト處或ハ傷ヲ受レバ、則チ變ノ刺

トナル、或ハ枝ノ萌出スル者中途ニシテ萎衰シ、木質

中ニ其節ヲ遺ス者アリ、然レテ根類ノ刺ハ即チ枝ナ

ナレモ、薔薇類ノ刺ハ乃チ硬毛也

○葉ハ枝ニ生ズ、葉ノ中真ニ總管アリ、總管枝管ヲ生

シ、枝管マタ細管ヲ生ズ、亦各次第アリテ亂レザル下、

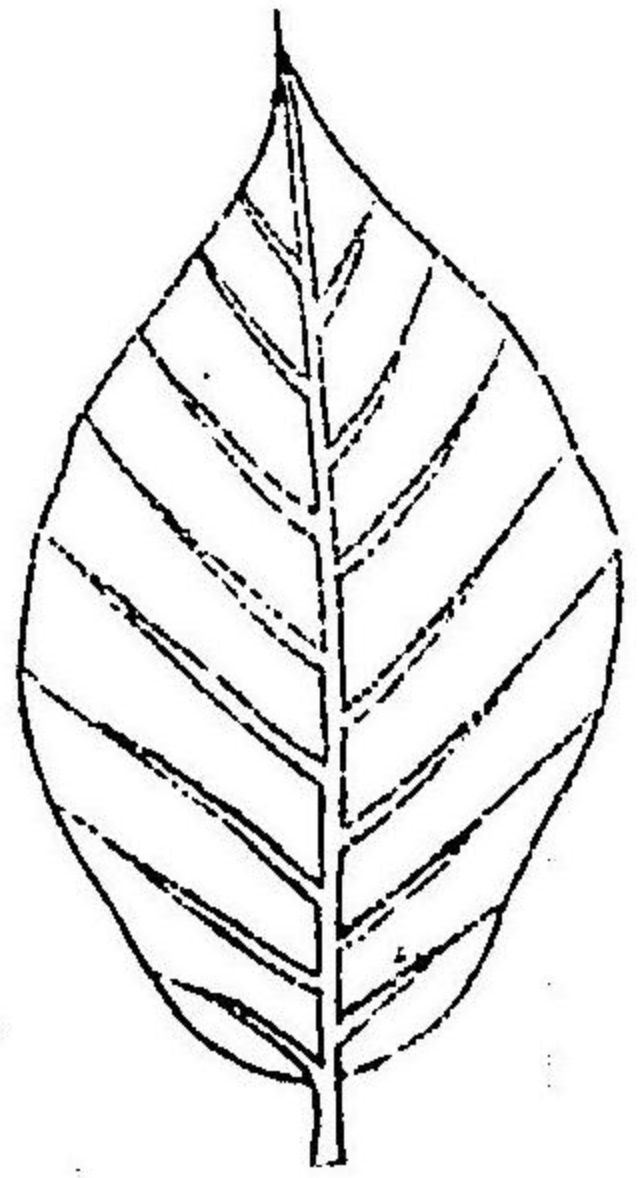
幹ノ枝ニ於ル、枝ノ葉ニ於ルガ如シ、故ニ葉ハ各々其

本樹ノ形ニ肖タリ、葉ニ莖ニ總管ナキ者ハ、樹本幹ナク

シテ叢生スル者ナリ、第百二十二圖ノ如シ、又葉ノ莖

長キ者ハ、樹ノ本幹モマタ長シ、第百二十三圖ノ如シ、

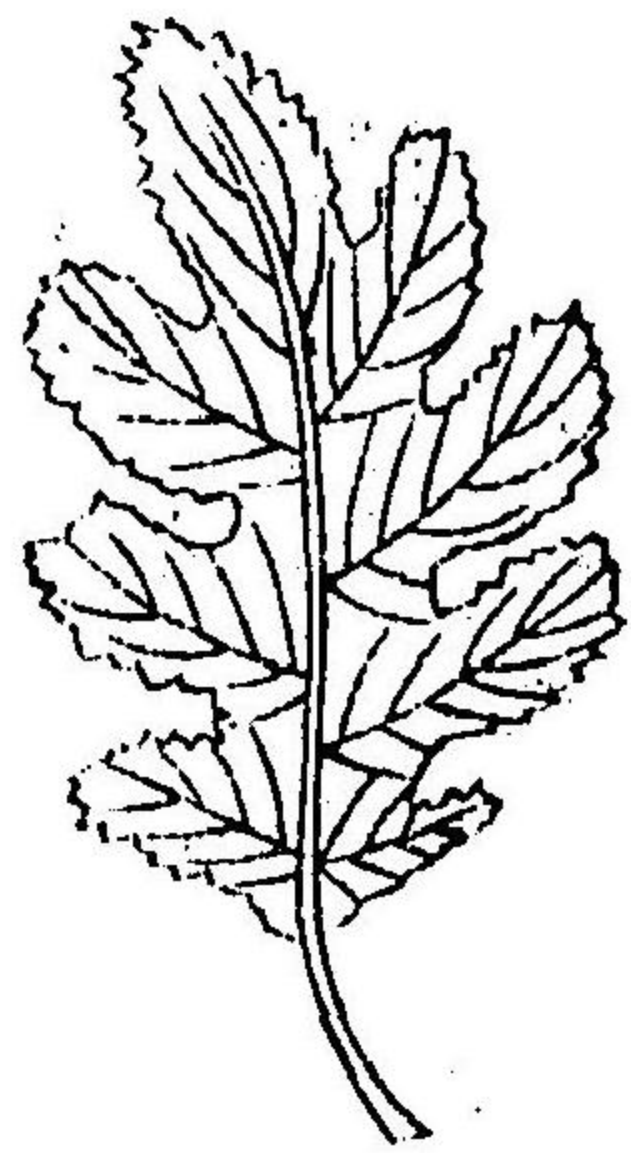
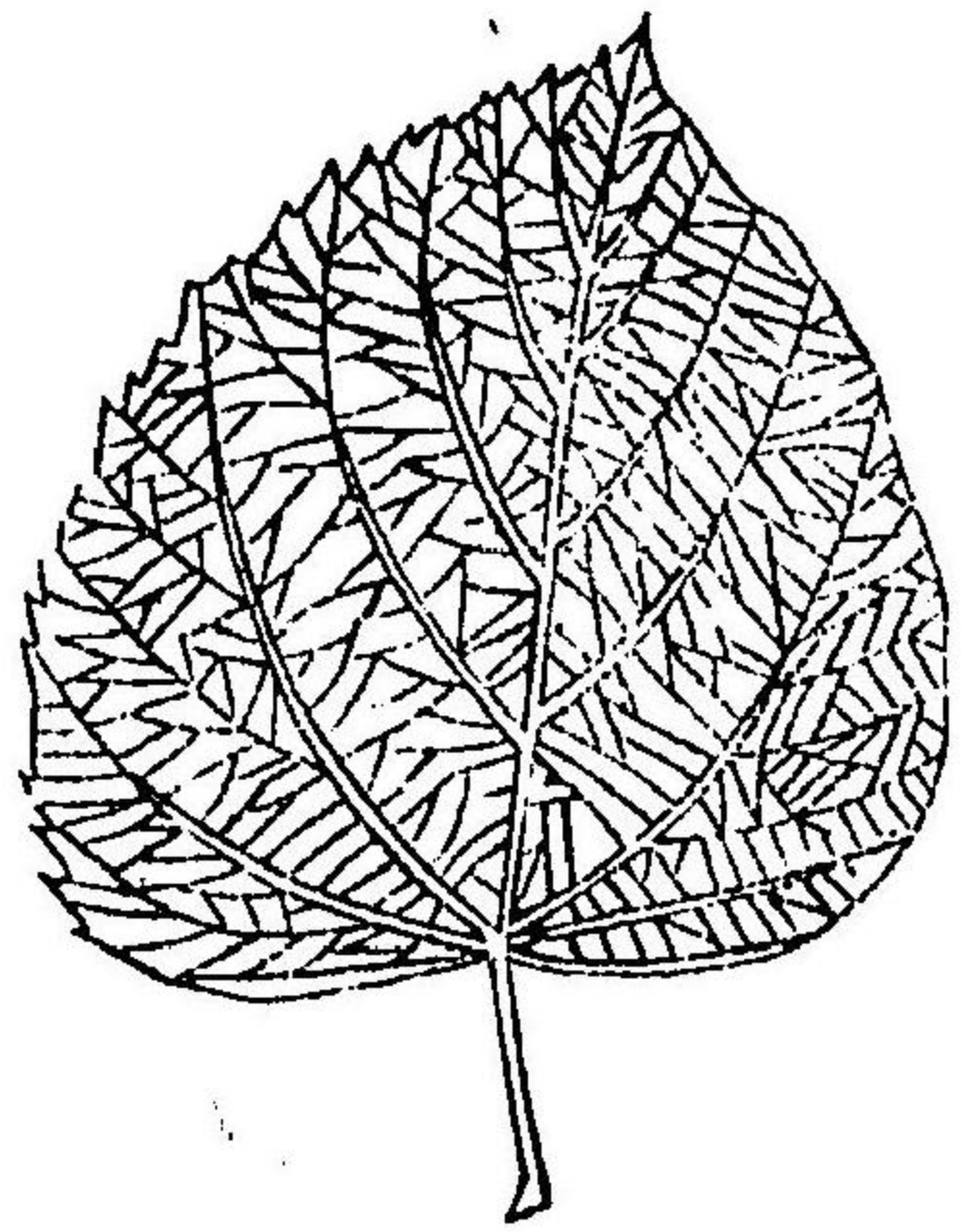
第二百二十二圖



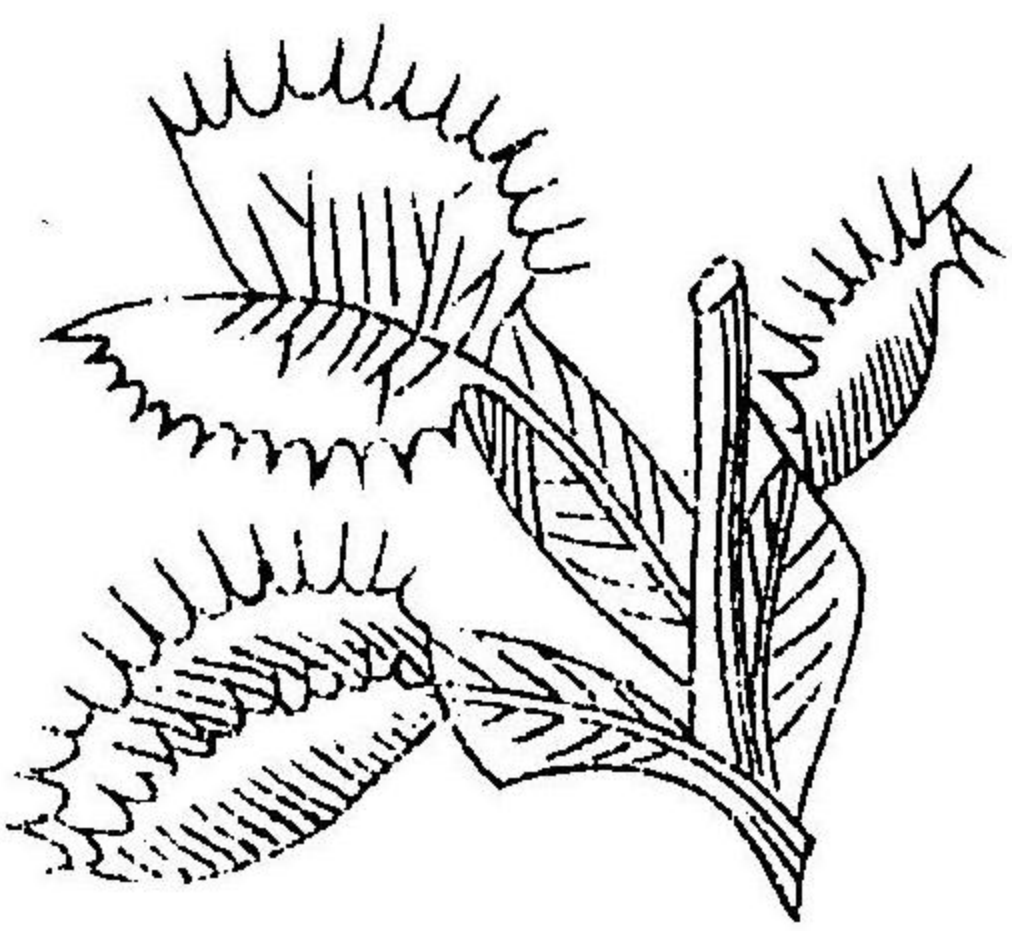
第二百二十四圖



第二百二十三圖



第二百二十五圖

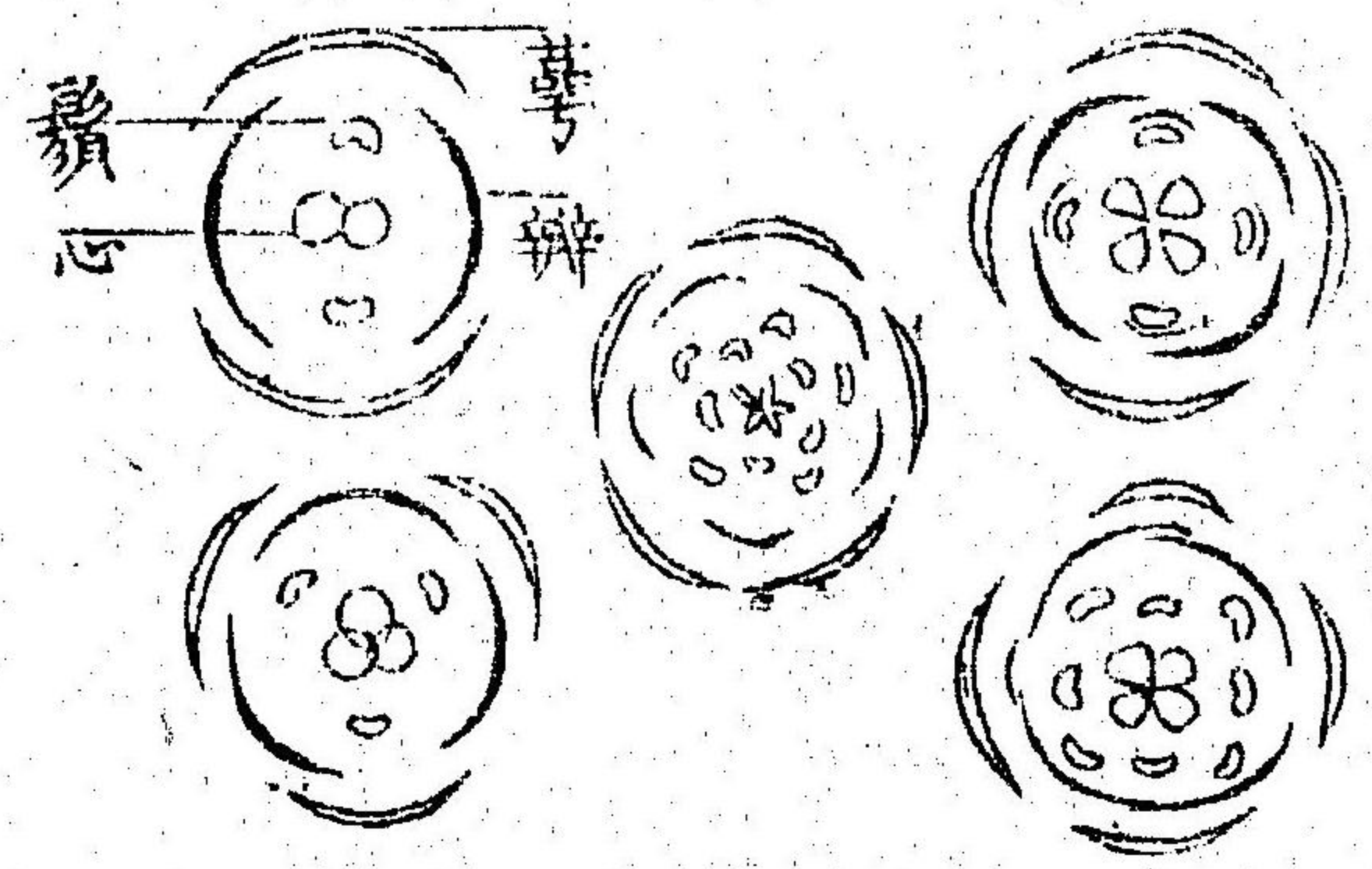


其孔開モ、晴レバ閉ヅ、風氣濕氣ヲ
出入セシメ、炭素ヲ取り酸素ヲ洩

又葉縫ノ末多ク枝管ヲ分ツ者ハ、幹ノ末亦多クノ枝
ヲ分シ、第二百二十四圖ノ如シ、又葉自ラヨク運動スル
者アリ、合歡草、怕羞草ノ類ハ如シ、輕ク之ニ觸ルバ、其葉
忽ニ斂合シ、良久レテ徐々ニ自ラ舒起ス、又アメリカカ
澤中ニ艸アリ、第二百二十五圖ノ如ク、其葉上ニ蛤殼ノ
如キ者アリ、兩殼中ニ數毛アリ、蚊蠅之ニ觸レバ、即チ
合メ之ヲ殺ス、凡テ葉ニハ其表面
上ニ無數ノ細孔アリテ、雨フレバ
其孔開キ、晴レバ閉ヅ、風氣濕氣ヲ

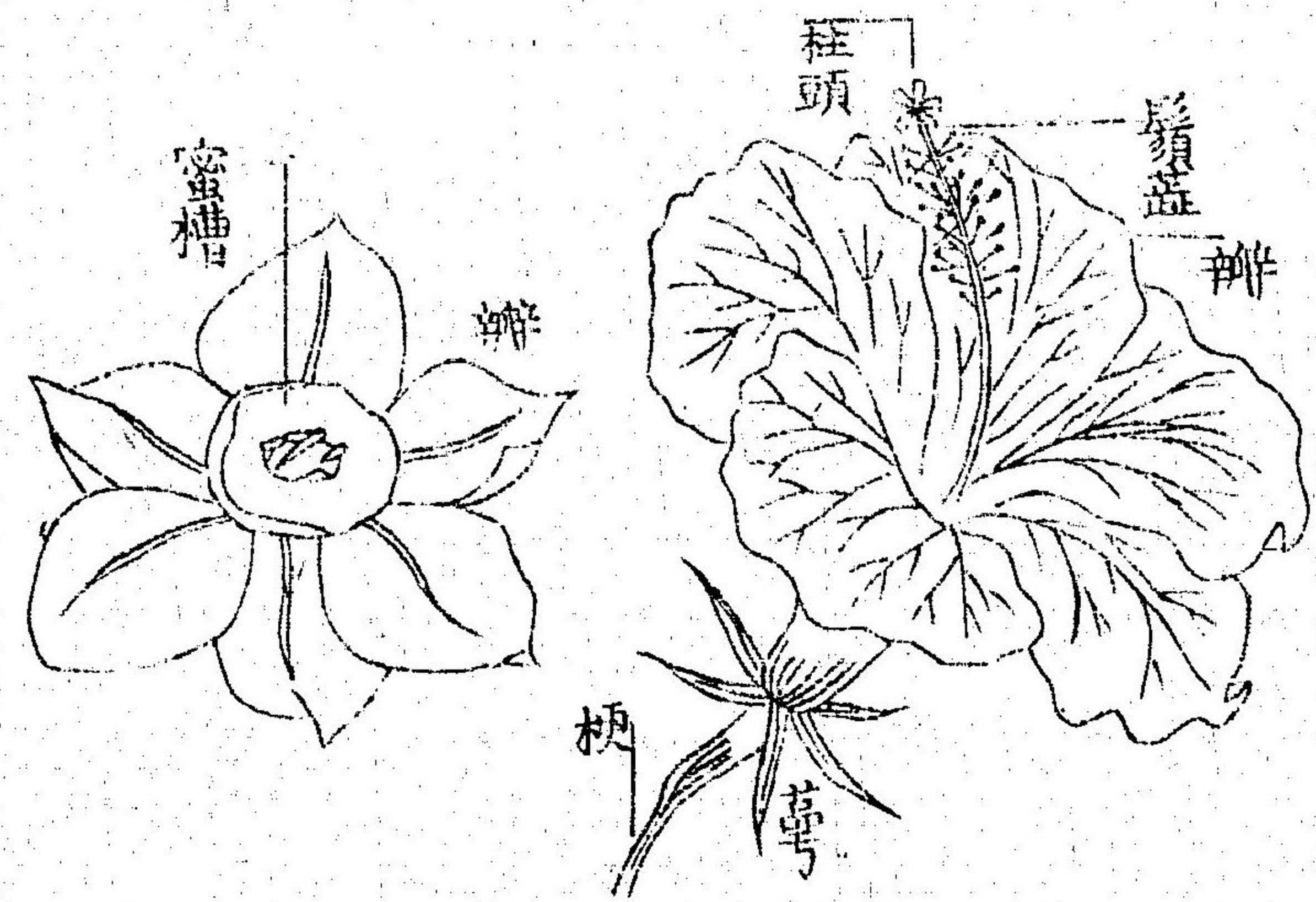
ス所以ナリ、故ニ葉ハ猶人ノ肺臟ニテ呼吸スルガ如
 シ、而シテ其葉上ノ孔大ナル者ハ容易ニ流質ヲ發散
 ス、故ニ乾キヤスシ、其孔ノ小ナル者ハ流質ヲ發散シ
 難シ、故ニ澀暑トイヘ、其葉乾カズ、葉ノ邊縁堅クシ
 テ厚ク、或ハ毛多キ者ハ尤モ乾カズ、
 ○花ハ四層ノ輪狀ヨリナル、萼ハ鬚心是ナリ、其花未
 ダ開カズシテ諸層包裏スル者之ヲ苞ト云ヒ、其枝ニ
 着ク處ヲ根ト云ヒ、花ヲ包ム處ヲ苞ト云ヒ、花頭ノ各
 片ヲ瓣ト云ヒ、甘漿ヲ貯フル處ヲ蜜槽ト云フ、蓋シ鬚
 ト心トハ果實ノ結ブ處ニシテ最モ至要ノ部ナリ、萼

第二百二十六圖四輪相應之圖



トハ其鬚心ヲ擁護スル
 所以ノ者ナリ、而シテ第百二
 十六圖ノ如ク萼ハ鬚ト相對
 シ、瓣ハ心ト相對ス、四者數恒
 ニ相應ズ、則チ萼ノ三出ナル
 者ハ、瓣モ心モ三出ニシ
 テ、鬚ハ三出六出、或ハ九出ナ
 リ、萼ノ五出ナル者ハ、瓣モ心
 毛皆五出ニシテ、鬚ハ五出十出、或ハ二十出ナリ、瓣ノ
 數ハ恒ニ三ト五トノ數ヲ以テ本トナス、又二數ヲ以

第百二十七圖



テ本トナシ、二出或ハ四出。八出ノ者アリ、然レモ甚ダ稀ナリトス。艸木ノ萼ハ恒ニ葉莖ノ本ニ傍フテ出ス、又只幹末ニ發スル者アリ、芍藥ノ如キ是ナリ、又一萼上ニ無數ノ細花ヲ聚メ、一花ヲ為ス者アリ、之ヲ聚成花ト云フ、菊花、繡花ノ如キ是

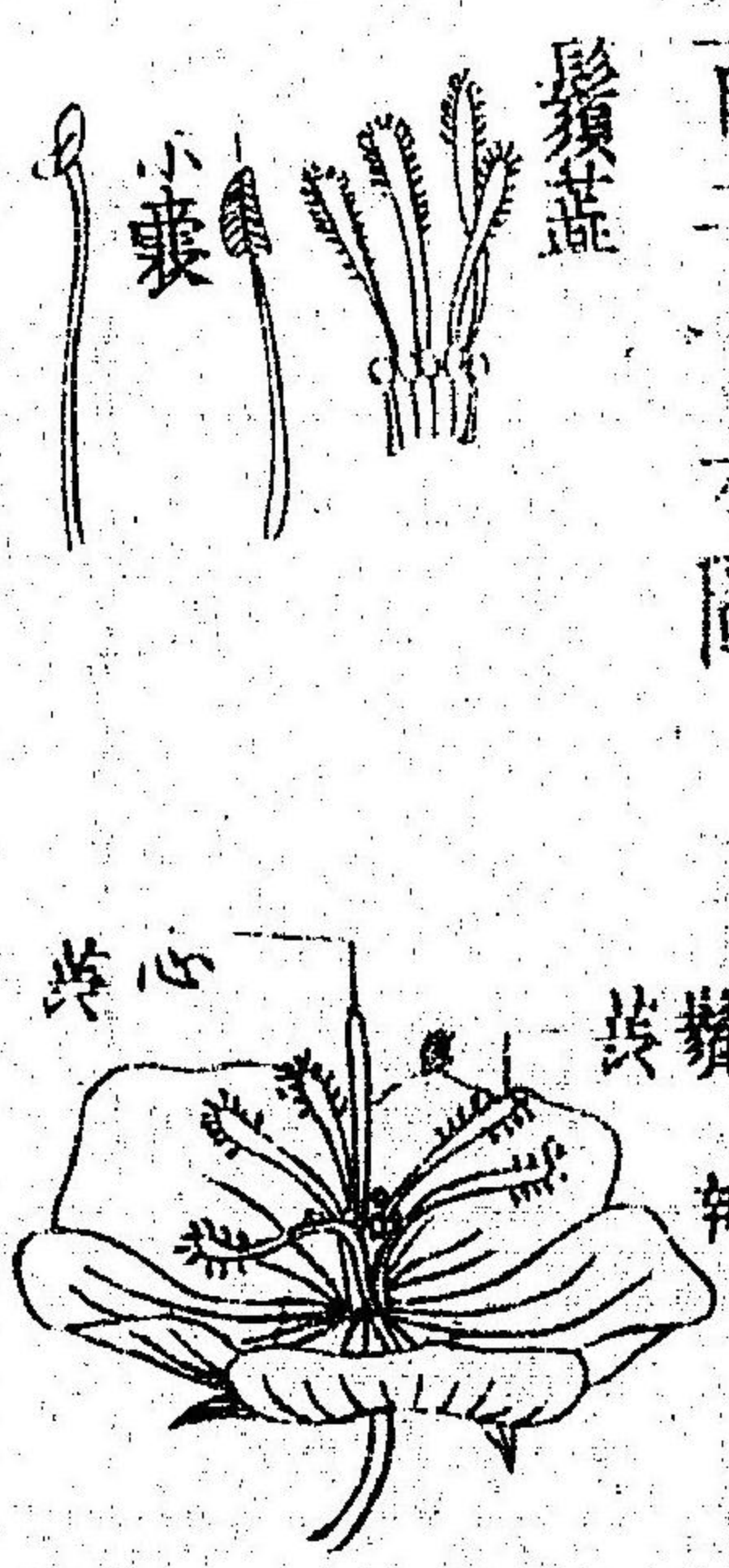
第百二十八圖



ナリ、瓣ノ形狀ハ、大小長短同シカラズ、又單瓣アリ、複瓣アリ、又端ニ刻蝕アル者アリ、凡ソ花ノ麗艶ニシテ目ヲ悦バシメ、芳香ニシテ神ヲ爽ニスル者、ミナ此瓣ニアリ、而シテ其香、色共ニ皆光温ノ力ニ頼

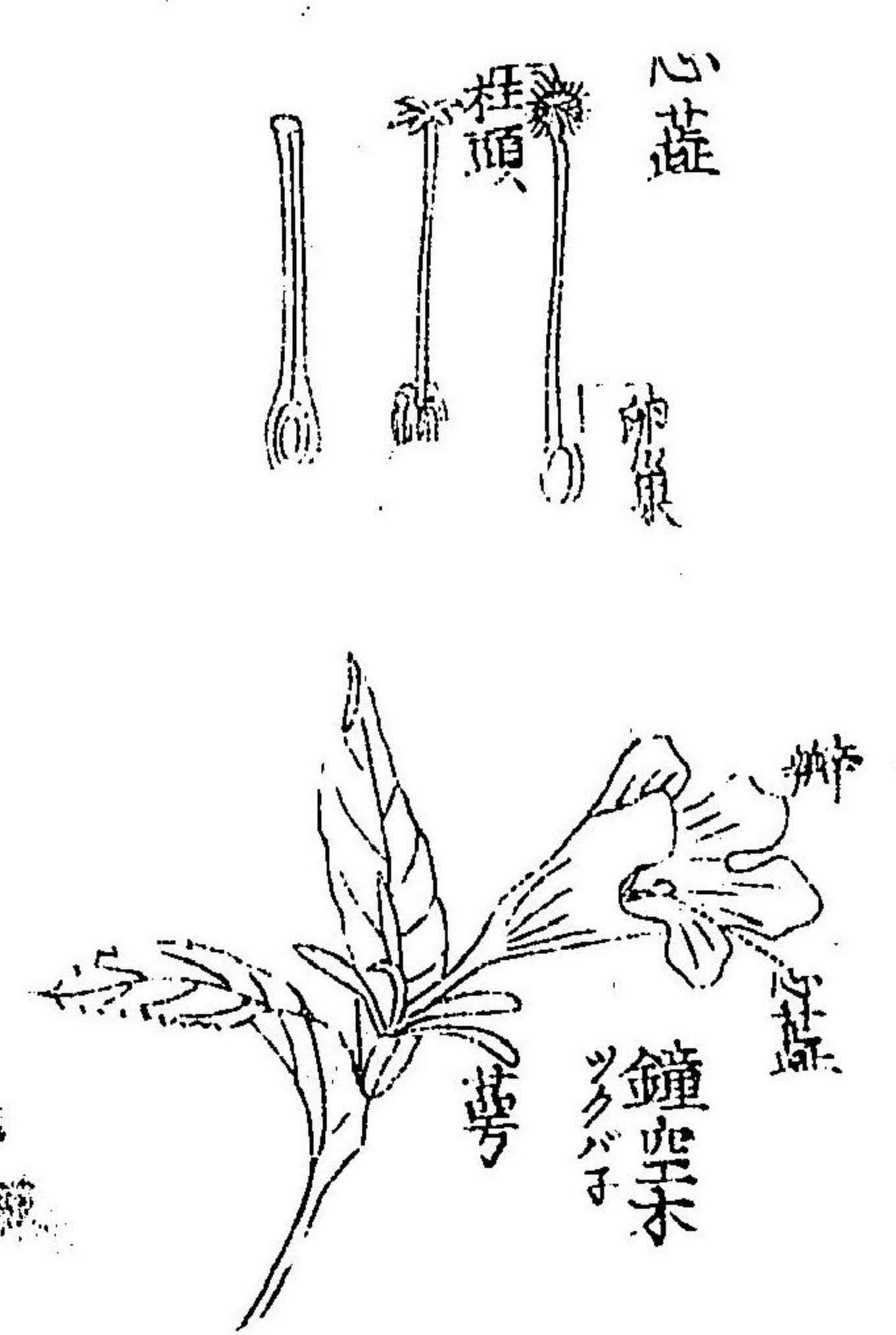
生ハ故ニ赤道近傍燥熱ノ地ハ花ノ香色甚ダ濃烈
 ナリ又雨少ク氣候暖ナル年ハ百花殊ニ芳香妖美ナ
 ル者ナリ又花ハ多ク日光ニ隨フ者ニテ日出ニハ東
 ニ向ヒ午時ニハ南ニ向ヒ日晡ニハ西ニ傾久向日葵
 聚成花ノ諸花ハ特ニ著シトス又海朝花ヲ發キテ日
 暮ニ閉ル者アリ又晴日ニハ開キテ陰夜ニハ開カザ
 ル者アリ又豆ノ花ハ恒ニ風ニ背キ南風ナレバ北ニ
 向ヒ北風ナレバ南ニ向フ蓋シ其蓋ヲ護ル為メナリ
 又豆莢中ニ茸々タル細絲アルハ豆ヲ温ムル為ナリ
 木綿ノ如キモ又其實ヲ温ムル為ナリ

○鬚ハ雄蕊正云ハ花ノ雄體ナリ第百二十九圖ノ如
 ク瓣内ニ在テ雌蕊ヲ圍繞シ芒々トシテ絲ノ如シ
 第百二十九圖
 鬚蕊
 小囊
 花心
 鬚柄
 花ノ精ナリ、仰面ニ
 テ粉ヲ吐ク之ヲ
 花粉ト云フ、是花
 花ハ雌蕊長ク雄蕊ノ下ニ垂ル、是其花粉ヲ雌蕊ヘ傳
 へ易カラシ為メナリ、



蓬蒿類下

○心ハ雌蕊トモ云フ、花ノ雌體ナリ、第三百十圖ノ如ク其本ニ卵巢アリ、其末ニ柱頭アリ、柱頭ノ細口ニ短毛蜜布シテ鷲絨ノ如シ、短毛ハミナ細管ニシテ、常ニ滑液ヲ滲漏ス、時到レバ花粉柱頭ヨリ卵巢中ノ卵ニ妙契シ、陰陽交感シ、種子ヲシテ發生ノ神氣ヲ含マシム、花ハ精ヲ卵巢へ傳へ、種子ヲ結



第三百十三圖

バシムレバ、自ラ凋脱ス、而シテ植物雌雄ツノ所在ヲ異ニシテ、亦能ク種子ヲ結ブ者アリ、是ツノ雄木ノ花精風ニ駕シテ以テ雌木ニ達スル者ナリ、其速キ十餘里ニモ届ルベシ、又花ニ蜜アル者ハ、只蜂ヲ養フ爲ノミナラズ、蜂足ヲ借り雄蕊ノ粉ヲ、雌蕊ニ傳ヘシムル為メナリ、又歐羅巴洲ノ南ニ草アリ、哇里斯涅羅乙德斯ト云フ、湖中ニ生ズ、雄蕊ハ水面ニ浮ミ、雌蕊ハ水底ニ沈ム、雄花ノ囊綻ントスル片、雌花乃チ水面ニ至リ、其花粉ヲ受ケ、種子ヲ孕メバ、マタ縮シテ水底ニ入ル、蓋シ花ハ動物ノ陰處ノ如シ、乃チ鬚蓋ハ陽根ニシ

テ、心蕊ハ牝門ナリ、乃チ胚胎生殖ノ係ル所ナリ、但動物ノ陰處ハ、其臭腥膻ナレド植物ノ花ハ芳香馥郁甚ダ愛スベシ、然レト粟ノ花ハ、其精ヤ、動物ノ精ニ近シ、故ニ其香腥臭ヲ帶ブ、又花ニ葉萼ナル者アリ、狀狗尾ノ如シ、其實ハ小萼鱗簇シ、粗細長短一ナラス鱗簇ヲ萼間ニ莖葯ヲ垂レ茸トシテ軟毛ノ如シ、亦自ラ雌雄ノ別アリ、栗胡桃楓榛赤楊楊

第三百三十一圖

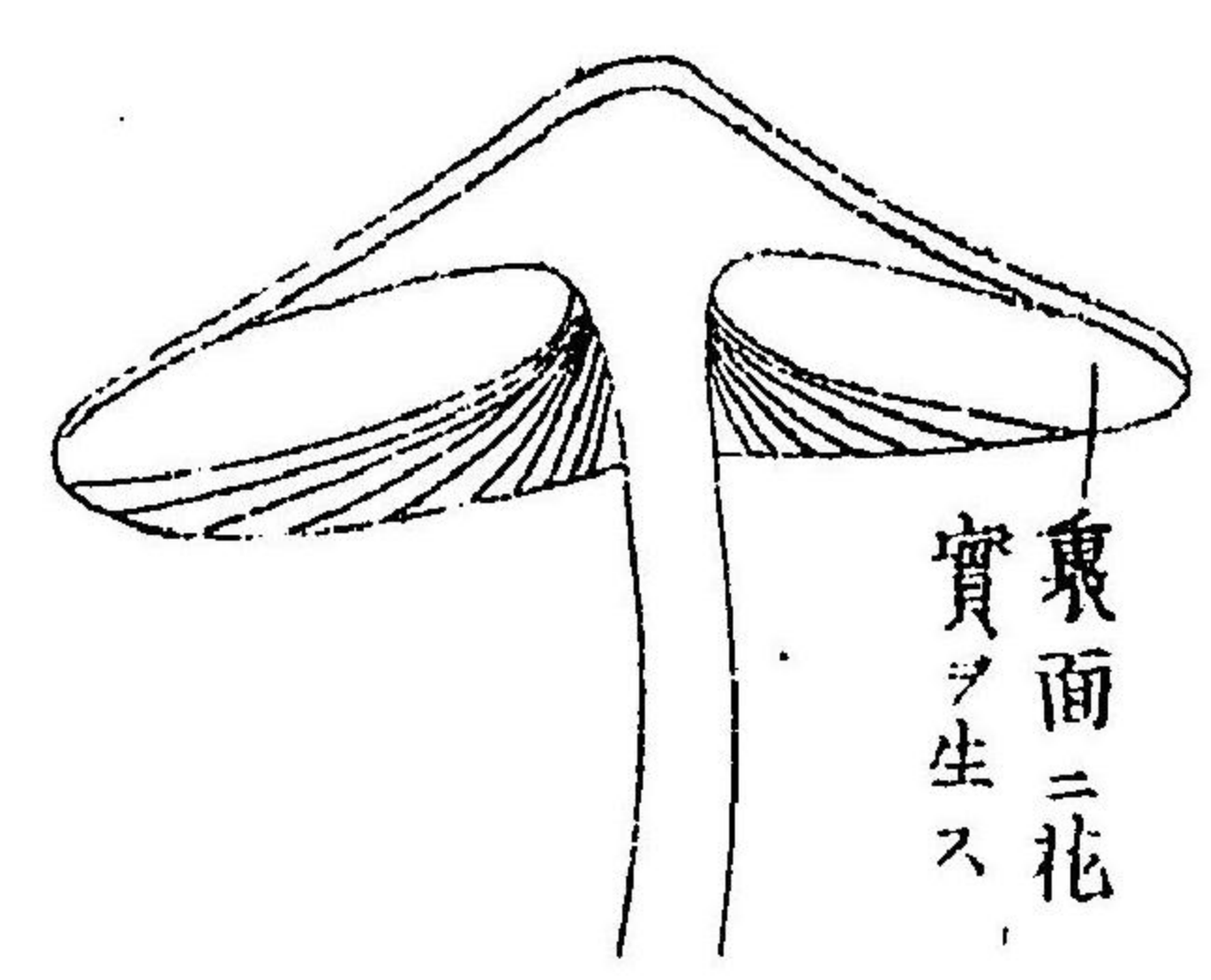
蒸萼粗者



萼間ニ莖葯ヲ垂レ茸トシテ軟毛ノ如シ、亦自ラ雌雄ノ別アリ、栗胡桃楓榛赤楊楊

柳等ノ花是ナリ、第三百三十一圖ノ如シ、又花其枝ニ在ラスレテ、容易ニ知ルベカラサル者アリ、喩ヘバ密果ハ實中ニ花サキ、蒴其ハ葉背ニ花サキ、葉ハ土中ニ

第三百三十二圖



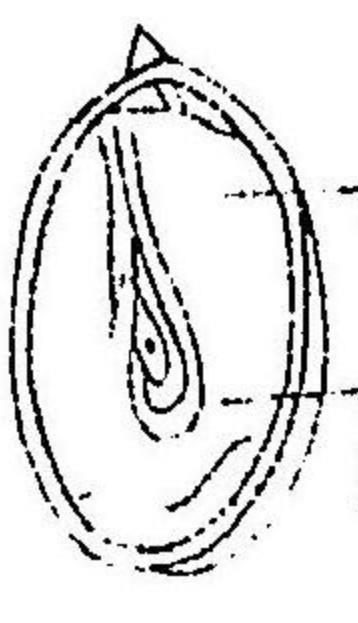
○果ハ卵巢ノ花精ヲ得テ、臆大老熟セシ者ナリ、又卵

花サキ、葯類ハ笠ノ裏面ニ花サク、第三百三十二圖ノ如シ

巢ト萼トヲ合シテ成ル者アリ、果ノ蒂ハ即チ花ノ萼
 ナリ、果ノ頂ハ即チ心ノ蓋ナリ、凡テ花謝スレバ果實
 ヲ結スハ植物ノ常ナリ但其成熟ニ遅速アリ、喻ヘハ
 格爾悉究母ノ類ハ、七月ニ花ヲ開キ明年三四月ニ其
 實始メテ熟ス、榛ハ冬月ニ葉落シ生シ、明年ノ秋ニテ
 始メ熟ス、而シテ植物生機ノ蘊蓄スル所ノ者ヲ種子
 ト云ヒ、種子ヲ保護安着スル者ヲ子室ト云、豆類ノ莢
 梅、桃等ノ核、橘、柚等ノ沙瓢ハミナ子室ナリ、種子ノ子
 室中ニ在ル、其數少キ者ハ一二粒、多キ者ハ量ルベカ
 ラズ、烟草ノ子ハ一蒴ニ九ツ、四万粒、罌粟ノ子ハ一蒴

二凡ツ三万二千粒、芭蕉ノ子ハ一核ニ八千粒アリト
 云フ、
 ○種子ハ卵巢中ノ卵ヨリ成ル者ナリ、總テ植物ノ種
 子ヲ仁ト云ノ、第百三十三圖ノ如ク仁中ニ薏ヨリ、薏
 ハ乃チ植物生機ノ蘊蓄スル所ノ者ニシテ、艸木ミナ
 此ヨリ萌發ス、種子ノ萌發セザル者ハ、薏中ノ生機敗
 續セルユエナリ、仁薏ハミナ炭素ニテ製造セリ、其構
 造密ナル者ハ、久ク土ニ入ラザレバ、生機損敗セズ、喻

第百三十三圖



下意
 ハバ、菘、蔬ノ類ハ三四年
 高、苜、八五六年、豆、瓜ノ類

八十年ヲ歴レバ、猶發生ノ機ヲ存セリ、麥ノ類ニ至テハ數百年ヲ歴レバ、生機變壞セスト云ヘリ、

○種子土中ニ在テ、空氣水氣温氣ノ為メニ其生機忽

ニ發動シ、怒脹孚拆シ、種子膜破レテ、先ヅ一線ノ根ヲ

萌出シ、次ニ一線ノ莖ヲ萌發ス、然レバ種子ノ萌發ス

ルハ、植物ニ因リテ少異アリ、或ハ種子延長シテ根ト

成ル者アリ、或ハ其根種子ヲ貫テ萌ス者アリ、或ハ其

莖甲ヲ捧ケテ萌出スル者アリ、而シテ其莖已ニ土上ニ

出ヅレバ、莖ノ兩側ニ小圓形ノ葉ヲ生ズ、其兩小葉ノ

間ヨリ、又莖ヲ生ジ、次第ニ長育シ、遂ニ幹トナリ、枝葉

第三百三十四圖



種子ノ漸長者

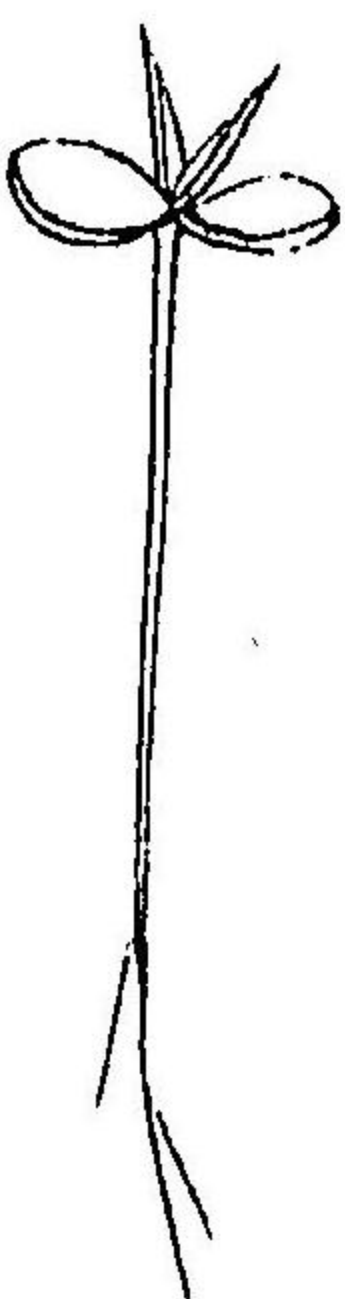


根初下行市者

區類初生



種子膜

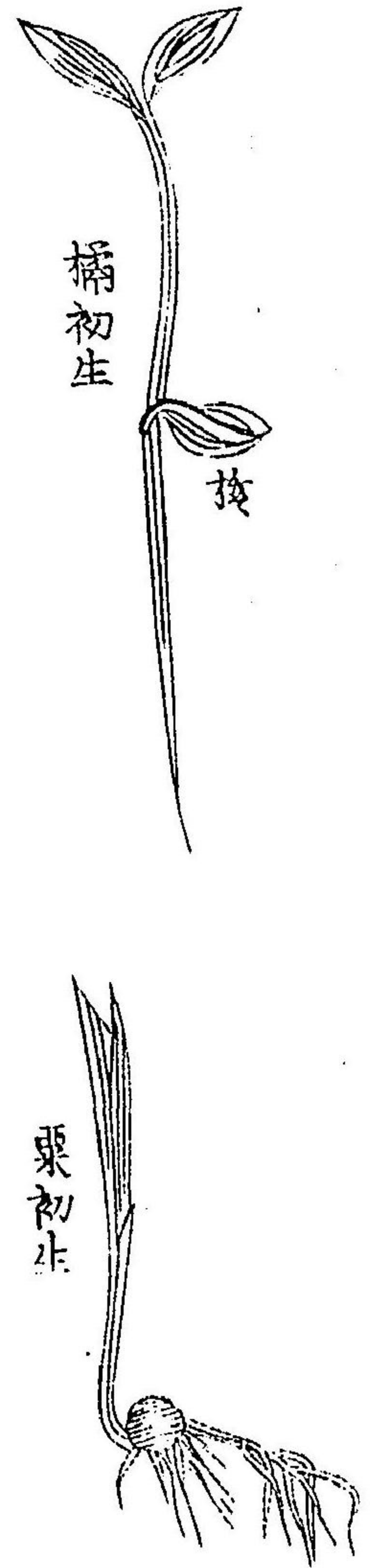


ヲ生ジ、花實ヲ結ブニ至ル、蓋シ種子ノ萌生セントスル機ニ及テ尤モ光ヲ惡ム、光ヲ見レバ生ズルヲ能ハズ、故ニ種ヲ下スニハ宜シク土ヲ以テ能ク之ヲ掩フベシ、又水ヲ溜ルヲ勿レ、水溜レバ土冷ルユエ、又生ズルヲ能ハズ、種子ノ萌生スルニ各遲速アリ、故ニ一

日ノ後ニ萌生シ、蓄積ハ二年ヲ歴テ始テ發生ス、

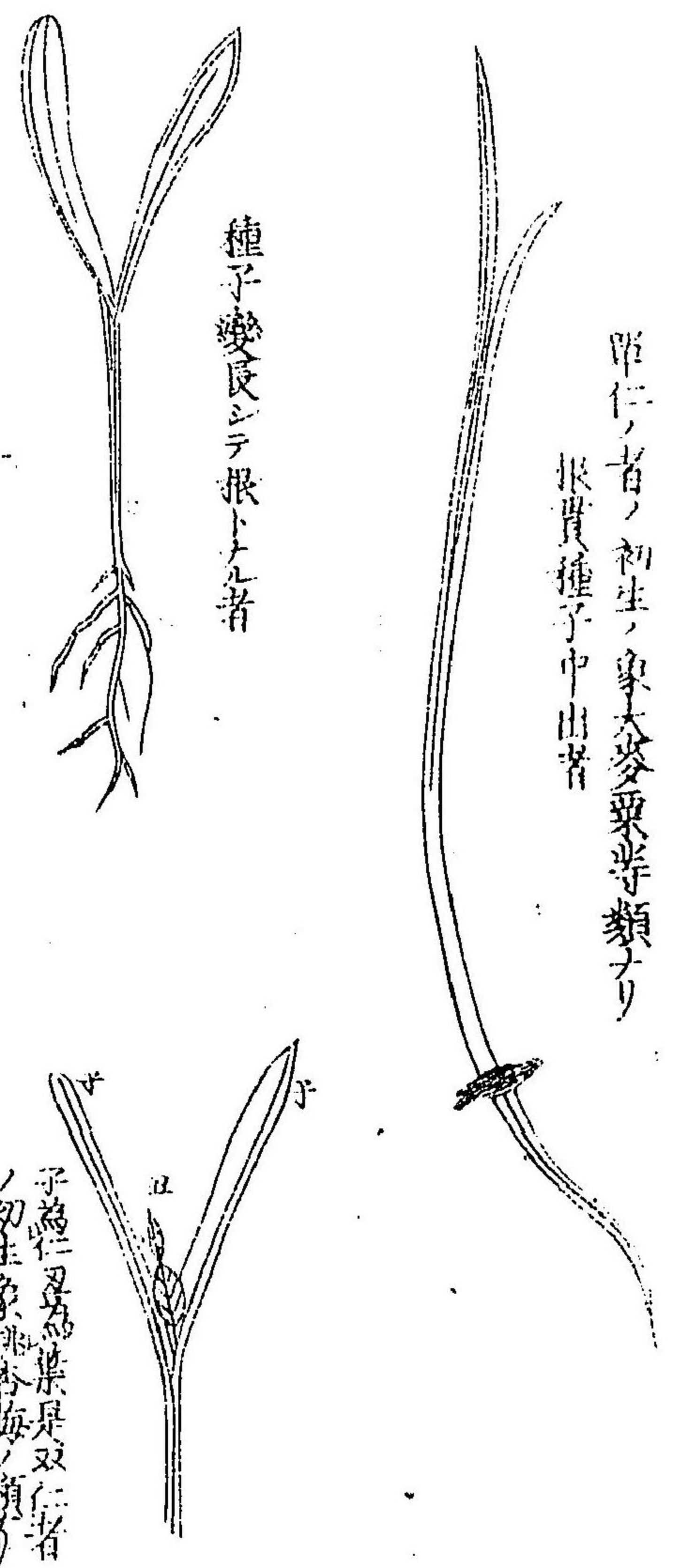
○動物ト植物トハ固ヨリ其科ヲ同フセストイヘ、
動物ノ仲間ニ在テ、其分界殆ンド髪ヲ容ザル者アリ、
喩ヘバ動物ハ常ニヨク動ク、然レモ動カザル者アリ、
牡蠣ノ如シ、植物ハ恒ニ動カズ、然レモ哇里斯涅

第三百三十五圖



單仁ノ者ノ初生ノ象ト麥粟等類ナリ
根貫種子中出者

種子變長シテ根トナル者



里亞ハ花ヲ作シ實ヲ結ブ時ニ於テハ、則ヨク動ク、又
植物ニハ骨ナシ、然レモ其葉ヨク小虫ヲ殺シテ、其液
ヲ吸フ者アリ、動物ハヨク痛痒ヲ知ル、植物モ之ニ觸

レバ、其葉忽ニ収縮シテ知覺アル者アリ、又動物ト植
 物トテ合セテ一體トナル者アリ、則春夏ニハ草ニレ
 テ、秋後ニ至テ枯レ、其根變ジテ虫トナル者アリ、又艸
 アリ仙桃艸ト云フ、三四月ニ實ヲ結ブ、其狀桃ノ如シ、
 激中ニ種子ナクシテ虫アリ、芒種ノ後其虫翅足ヲ生
 シ、遂ニ殻ヲ破テ飛去リ、秋ニ至リテマタ土中ニ蟄伏
 シ、春ヲ待テ其尾ヨリ芽ヲ生シ、虫マタ變ジテ草トナ
 ル者アリ、

○動物説

萬物ヲ無機體有機體ノ二類ニ區別スルヲハ既ニ植

物説ニ於テ之ヲ辯ゼリ、有機體ヲ又再ビ區分シテ、動
 植ノ二類ト為ス、總テ氣血アル者、昆蟲魚介ヨリ鳥獸
 人類ニ至ルマデ、之ヲ概シテ動物ト云フ、其數凡ソ三
 十萬種ニ下ラズ、植物ハ炭水酸窒ノ四元素ヲ吸收シ、
 其枝葉根幹ヲ長育スレド、動物ノ如ク自ラ運動スル
 ノ活機ナシ、動物ハ四元素ノ外尚ホ種々ノ元質ヲ集
 合シ、種々ノ器械腸胃筋骨ヲ具足シ、感覺動作ノ二活
 機ヲ稟有シテ、自由ノ運營ヲ為ス、喩ヘバ肺アリテ呼
 吸シ、口アリテ飲食シ、眼耳アリテ視聽スルガ如シ、是
 植物ニ異ナル所以ナリ、而シテ其感覺ヲ為ス者ハ神

動物説

七三

經ノ効用ニ因リ、動作ヲ為ス者ハ、筋肉ノ効用ニ因レ
 リ、其器械ノ多少精粗ソノ効用ノ鋭敏遲鈍ニ隨テ自
 ラ動物ノ級階ヲ異ニス、今諸動物ヲ概見スルニ、其組
 織各々精粗アリテ、器械亦各々多少アリ、蓋シ器械具
 足シ、組織精巧ニシテ、其精神最モ靈敏ナル者ハ人類
 ナリ、故ニ人ハ動物ノ高級ニ位シテ、實ニ萬物ノ長タ
 リ、之ニ次者ハ獸類ナリ、獸類ハ諸器械大凡人類ニ似
 テ、但テ十全ナラザルノミ、又之ニ次者ハ鳥類ナリ、之ヲ
 獸類ニ比スレバ、諸器械稍減損セリ、魚介昆虫ノ如キ、
 階級愈下ル者ハ、器械亦愈少シ、器械少キ者ハ、其活機

毛亦隨テ鈍シ、魚ハ昆虫ニ於テハ、内臓脈絡五官、鼻、口、
 膚、神經等、此アレバ、彼ナク、彼アレバ、此ナク、喩ヘバ
 牡蠣ハ首ナク、水蛭ハ腸ナク、其他甲殼虫ニ於テ、一二
 ノ内臓ヲ有スル者ハ、五官ヲ具セズ、又無血虫ニ於テ
 ハ、肺臓ナクテ、其皮膚呼吸ノ用ヲ為シ、又魚類ハ腮ヲ
 以テ呼吸スルガ如シ、牡蠣ノ如キハ動物ノ最モ下階
 ナル者ナリ、其身他物ニ附着シ、他物ヲ假リテ、其半身
 トナシ、自ラ運動スルヲ能ハズシテ、感覺尤モ鈍シ、只
 其殼ヲ開閉シテ、食ヲ求ムルヲ知ルノミ、而シテ牡
 蠣ヨリ、其器械少キ者モ、猶ホ之ヲ動物ニ算入スベキ

者アリ、蓋シ其器械極ノテ少キ者ハ所謂植蟲ナリ、是亦其身ヲ他物ニ寄託シ、厩カニ活動スルノミニテ、殆ンド植物ニ近シ、故ニ動物植物ノ中間ニ位シテ、植蟲ノ名ヲ得ル所以ナリ、故ニ器械ヲ多ク具スル者ハ、動物ノ分界益判然タリ、

○脊骨アルノ族類ハ、獸鳥魚等凡テ内部ノ骨路ヲ具スル者ハ其血皆赤色ナリ、虫類ハ其血多クハ白色ナリ、是ヲ無血虫ト云フ、而シテ其赤血族中ニ多ク之ヲ温血ト云フ、二類ニ區別ス、則チ鳥類及ビ哺乳虫ハ温血ニシテ、魚類及ビ匍匐虫ハ冷血ニ屬セリ、魚類ハ血液

運行スレバ、心臟へ血液セザル故ニ、心臟ノ實一個ナリ、

○凡テ動物體ハ生存スル所以ハ、原ハ光素ト温素トニ賴レリ、故ニ甚シキ寒境絶高ノ山嶺ニ在リテハ、生存スルノ能ハズ、煖地ノ物ヲ寒地ニ移シ、明燠ノ物ヲ暗處ニ移セバ、亦隨テ死亡ス、又動物體ニ最モ須要ナル者ハ空氣ナリ、水族者ヲ云ハ、水中ニ在テ、水ヲ呼吸スルモ、亦水中ノ氣ヲ資ル為メナリ、故ニ硝子瓶ニ水ヲ盛り、魚ヲ貯ヘ、瓶口ヲ密封スレバ、空氣通ハズメ、魚斃ル、又氣中ニ生活スル動物ハ、水中ニ入リテハ生

存スル一能ハズ、水中ニ生活スル者ハ氣中ニ來リテ
 ハ其生ヲ保ツ一能ハズ、又水族ニモ淡水ノ魚ハ海水
 ニ耐ズ、海水ノ魚ハ淡水ニ在ル一カタシ然レモ水陸
 共ニ尚其生ヲ保ツ者アリ、龜蛇ノ類ノ如ク又淡水
 共ニ其生ヲ保ツ者アリ、鱷魚鰻等ノ如キ是ナリ、
 ○動物其性命ヲ保續スル者ハ全ク其飲食ニ頼リ植
 物ハ一處ニ在着シテ、其處ノ土水及ビ空氣ヨリ其食
 ヲ資リ動物ハ甲處ヨリ乙處ニ行動シ、或ハ遠隔ノ地
 ニ遊歩シテ、自己適意ノ食物ヲ採用ス、然レモ牡蠣植
 虫等ノ如キハ、他ノ固形物ノ木石等ニ憑託シテ行動ス

ル一能ハズ、但其蓋殼ヲ開閉シ、口ヲ張縮シテ水中ニ
 在ル細虫ヲ取テ食物トナス
 ○動物ノ生活ハ四時其趣ヲ異ニス、鳥獸ハ春夏秋冬ニハ
 季尾希革シ、秋冬ニハ毛毳離毛ス、又虫類ハ四時ニ於
 テ其潜見ヲ異ニスル者アリ、其形ヲ變化スル者アリ、
 蛇蟻蝦蟆ノ如キハ、冬時ニ當テ生機暫ク休止シテ土
 中ニ蟄ス、之ヲ冬蟄ト云フ、又夏時ニ蟄スル者アリ、其
 潜蟄スル間ハ食物ヲ要セズ、且呼吸モ為サザルニ似
 タリ、又フリンテルスポツペン無血虫ハ食セズ動カ
 スシテ、數月ヲ經過ス、又海濱ノ乾沙中ニハ砂虫アリ、

乾泥中ニハ雨虫アリ、常ニ枯死スルカ如クナレドモ、
 水滴ヲ得レバ、忽ニ生機興奮シテ活潑トナル、是一種
 ノ生活力其中ニ伏在シテ、時ヲ得テ發越スル者ナリ、
 猶植物ノ種子ノ年月ヲ經テ生機ヲ存ズルカ如ク、
 ○動物ノ生ズルニ卵生胎生ノ別アリ、卵形ニテ母體
 ヲ離レ、時日ヲ經テ孵生スル者ヲ卵生ト云ヒ、全胎ヲ
 具足シテ母體ヨリ、娩出スル者ヲ胎生ト云フ、虫魚鳥
 類ハ凡テ卵生ナリ、卵生ノ者ハ卵殼ヲ脱スレバ乃チ
 能飲啄ス、獸類人類ハ皆胎生ナリ、胎生ノ者ハ幼稚ノ
 片ハ乳ヲ哺シテ成長ス、故ニ之ヲ哺乳蟲ト云フ、但シ

鯨ノ如キハ魚類ナレバ亦胎生ナリ、
 ○動物至小ノ者ヨリ至大ノ者ニ至ルマデ、智愚各々
 差等アリトイヘ、其自ラ食ヲ求メ身ヲ護リ、種ヲ胎
 スノ性ハ自然ノ天稟ヨリ出テ、教ヘズ學ハズシテ皆
 能スル者ナリ、蜂チ蜂ノ窠ヲ釀シテ窠ヲ作り、鳥ノ巢
 ヲ營テ卵ヲ抱シ、蛛ノ網ヲ張り、蠶ノ絲ヲ吐ク、魚ハ浮
 ムニ浮クヲ以テシ、游グニ鬣ヲ以テス、且ツ鱗アリテ身
 ノ甲タリ、鳥ハ飛ニ翮翼ヲ以テシ、鵝鴨ハ泳グニ掌ヲ
 以テス、且ツ羽毛アリテ寒ヲ禦ク、蝙蝠ハ趾ナケレバ
 翼端ニ鈎アリ、象ハ俯仰シガケレバ、鼻端ニ指アリ

鷹隼ハ肉食スレバ齒牙ナシ、故ニ嘴爪尖銳ニシテ攫
 撃スベシ、鷄鴨ハ穀ナガラ啄食スレバ、解生シテ能行
 ク、蛇蝎ニ毒牙アリ、蜂蠆ニ螫針アリ、鳥賊ハ墨ヲ噴テ
 身ヲ蒙マシ、蝟ハ毛ヲ聳テ、仇ヲ威ス等、其他角ナケ
 レバ牙アリ、牙ナケレバ爪アリ、以テ螺殼解鉗ニ及ブ
 マテ、皆敵ヲ防ギ身ヲ護ルノ具ヲ備ヘザル者ナシ、
 ○昆蟲ヨリ人畜ニ至ルマテ、水陸ノ動物ヲ概シテ之
 ヲ五類ニ區別ス、
 ○第一 無定形類
 細微ノ小蟲ニシテ、其體定形ナク、顯微鏡ヲ用ヒザレ

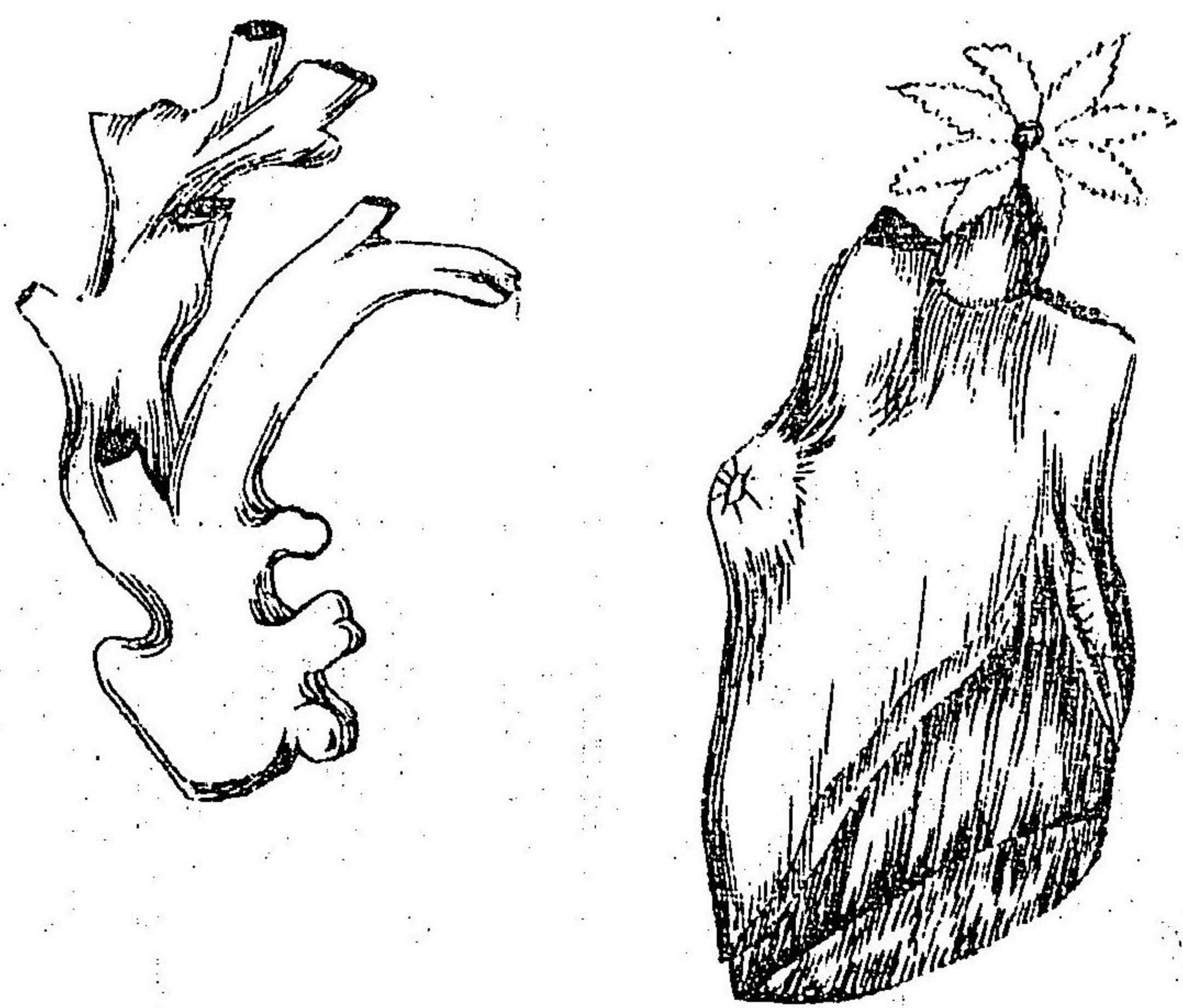
ハ見ルヲ得ザル者ナリ、
 ○其一 ヲリゾボダ族ト云ヒ、
 ○其二 ヲダレガリ子族ト云ヒ
 ○其三 ヲ滴虫類ト云フ、右ノ三品ハ或ハ物ニ寄リテ
 纒ニ生活シ、或ハ同類相群リテ互ニ生活スル極メテ
 微細ナル小蟲ニシテ、沼池雨水海水等ノウチ、又動物
 植物ノ敗液中ニ多ク之アリ、又他蟲ノ體中ニ在テ生
 活スル者アリ、淡水ニアル蟲ハ、間々肉眼ニテ見ルベ
 キ者アリ
 ○其四 ヲ海綿蟲族ト云フ、海綿中ニ居ル小蟲ナリ、

○第二 發光線類

光リアル細蟲ナリ、海水ノ夜光ルハ、即チ此蟲ノ光リ
ナリトイヘリ、酒精中ニアル蟲ハ、肉眼ニテ見ルベキ
トアリ、其形或ハ星ノ如ク、或ハ花ノ如キ者アリ、血管
神經ナク又頭尾ナシ、

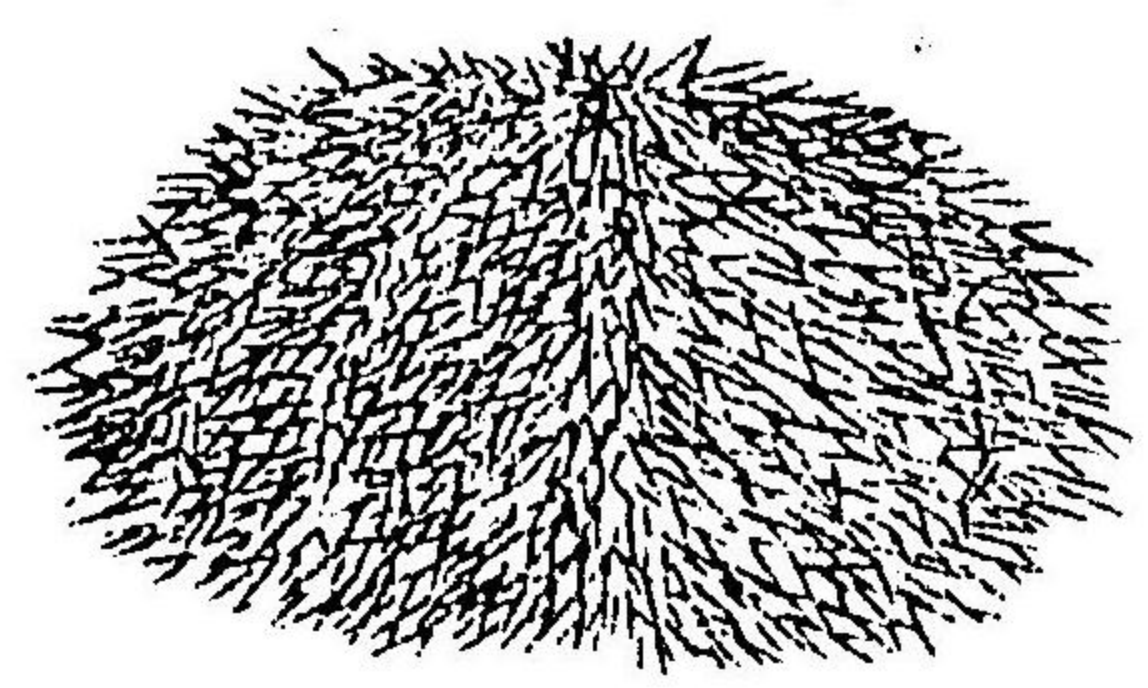
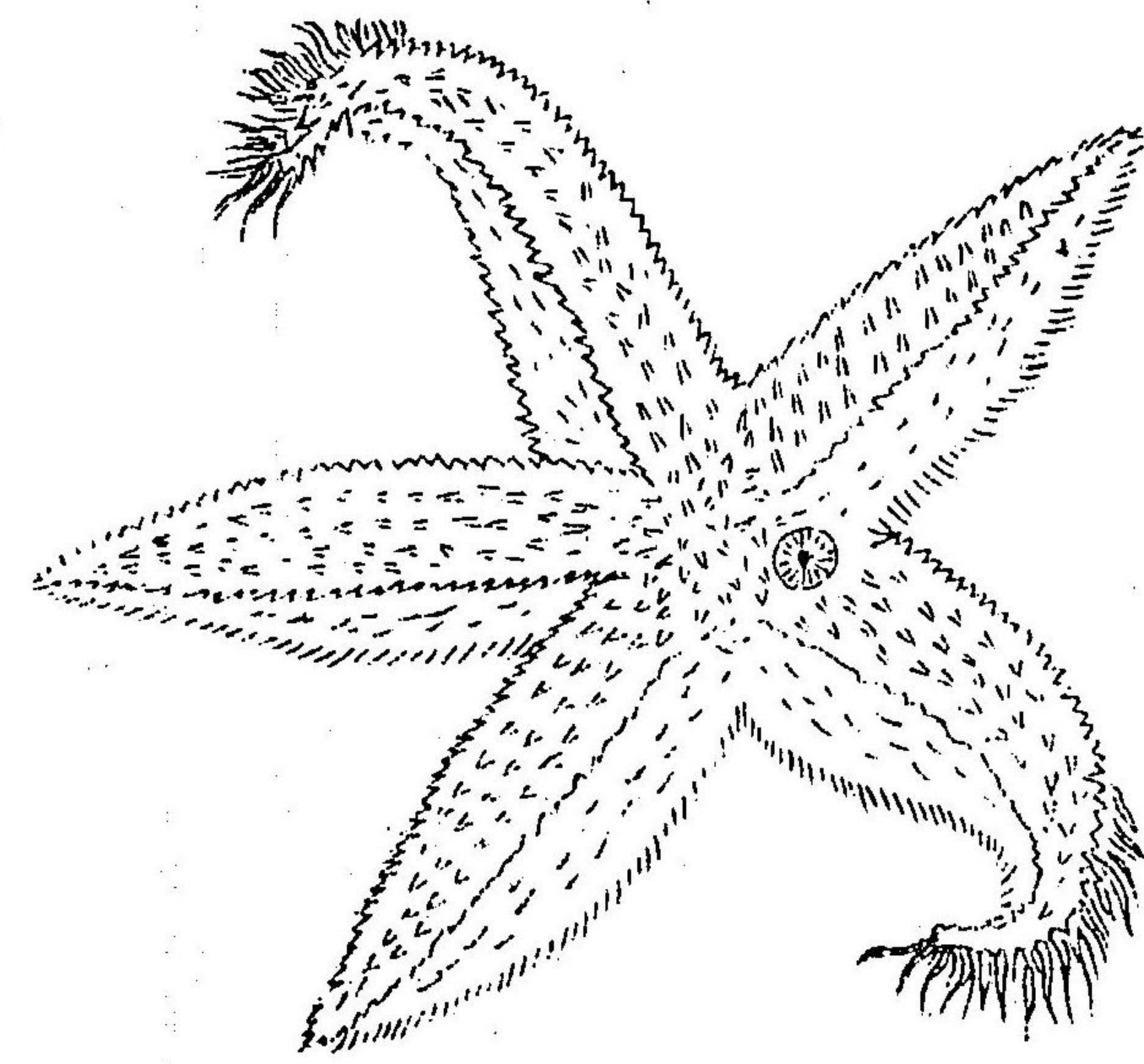
○其一ヲ植蟲族ト云フ、熱國ノ海中ニ、石灰質ニテ赤
色ナル石樹アリ、之ヲ珊瑚ト名ク、其實堅クシテ鹿角
ノ如キ幹枝アレバ、此物モト植物ニ非ズ、海中ニ在ル
片ハ、軟柔ニシテ、其中ニ無數ノ細蟲アリ、畢竟虫ノ巢
窟ナリ、又花ノ如ク扁圓ノ根脚ヲ以テ、岩石或ハ甲蟲
ノ如キ物ニ着テ、

第三百三十六圖



ノ甲等ニ固着スル者アリ、又其根脚ニテ跛行シ、是物ヲ離レテ被物ニ着テ得ベキ者アリ、第三百三十六圖 其類多シ、一ニ圖ヲ出ス、ノ下皆之ニ倣フ、如○其二ヲ蕁麻蟲族ト云フ、蕁麻ノ如ク、細小ノ刺毛アリ、之

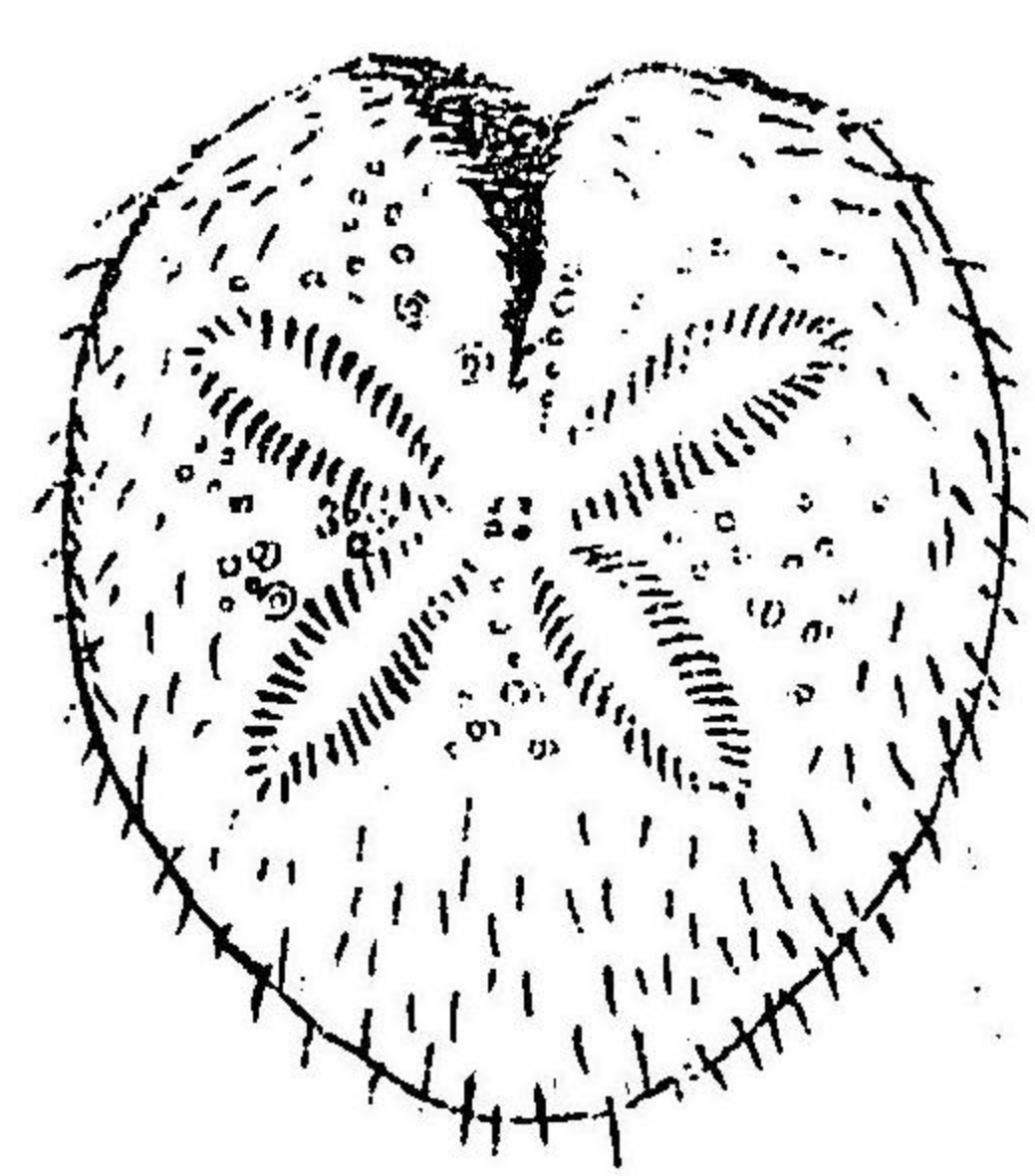
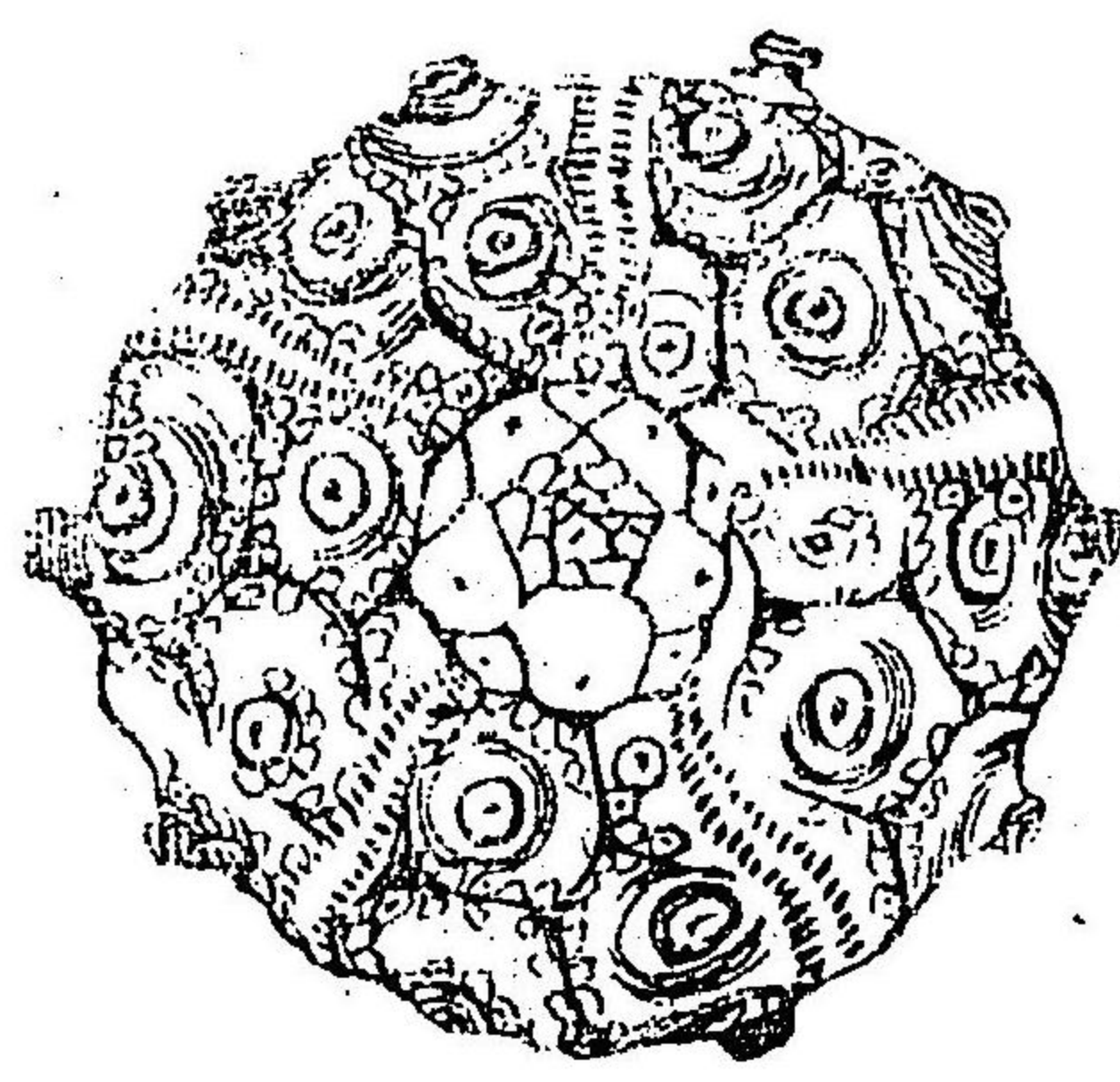
第三百二十七圖



生殖ス、第三百二十七圖ノ如シ

ニ觸レバ、其部赤色ヲ起シ、遂ニ痛ヲ誘起ス、又其形簞類ニ似タル者アリ、多クハ沙中ニ藏ル、此蟲ハ卵ヲ以テ

第三百三十八圖

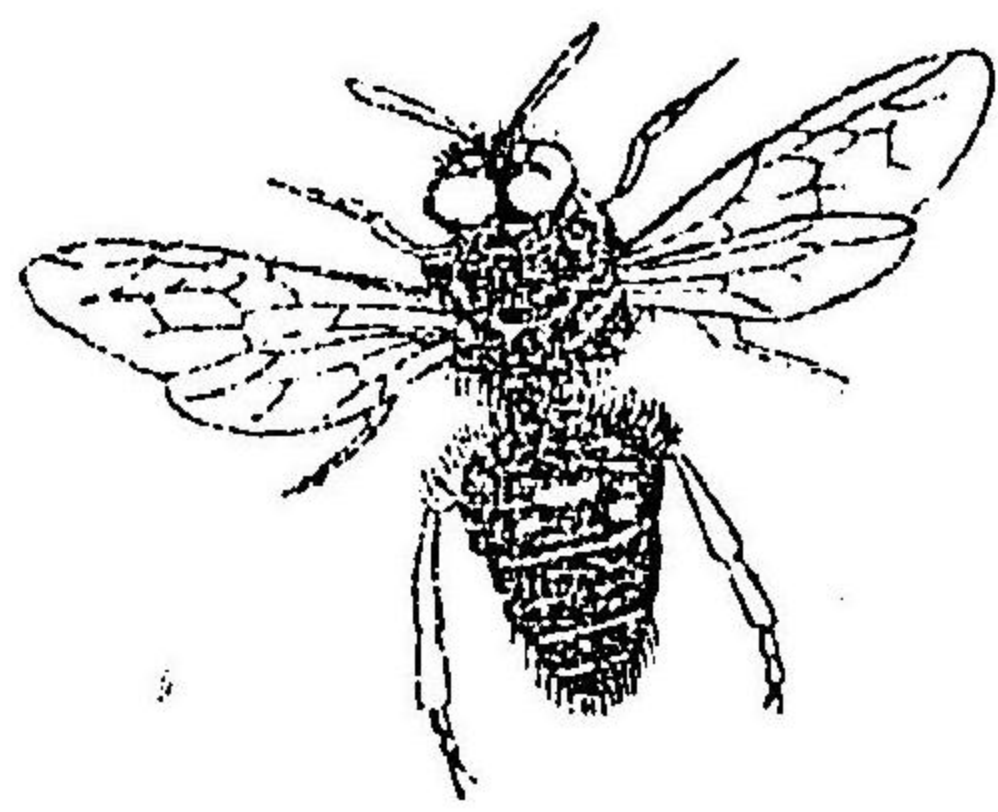


○其ニテ、刺蟲族ト云フ、滿身ニ刺ヲ生ジ、腸及ビ呼吸血行ノ器アリ、又神經アリ、此物海中ニ在リ、其形ヲ星ノ如ク、又鰐ノ如キ者ヲ見ル、故ニ又海星海果等ノ名アリ、第三百三十八圖ノ如シ

○第三 具關節類

首アリ目アリ神經アリ、或ハ聽器ヲ具スル者アリ、内
 臟ハコレナシ、其形輪環ヲ累連セシ如キ者アリ、或ハ
 角様ノ皮層堅ク、或ハ石灰質ヲ含タル皮殼ヲ具スル
 者アリ、其體ハ左右ニ開キテ、上下ニ開カズ、
 ○其一ヲ蠕虫族ト云フ其體環狀ナル者ヲ聚合連綴
 シテ長クセシ如キ者ニテ、神經ナク但少シノ感覺ア
 ル者ナリ、諸物體ノ空隙ニ於テ之アラザル所ナシ、羊
 ノ腦脈ノ肉中ニハ間胞狀ノ小蟲アリ、魚ノ眼中ニモ
 之ヲ生ズ、又人體ニハ蟻虫、蠅虫、蜘蛛虫等ナホ種々ノ蟲

第三百三十九圖



アリ、又淡水中ニ生活スル小虫ハ、小蠅ノ如ク夫矯運
 動スル者アリ、此蠅子ハ水蛭ノ類之ニ屬ス、
 ○其二ヲ無血蟲族ト云フ血質白色ニシテ稍粘稠ス、
 全體ニ三要部アリ、首、胸、胴ナリ、又三對ノ足アリテ、胸
 部ニ着ケリ、或ハ全體ニ着者アリ、多クハ二條ノ鬚ヲ
 具セリ、其鬚其身ヨリ長キ者
 アリ、五官ノ中視官ハ尤モ著
 シク、多クハ六角ナリ、又其聽
 官却テ視官ヨリ敏銳ナル者
 アリ、蠅、蝶、蜂、蚊、金鐘、見ノ類

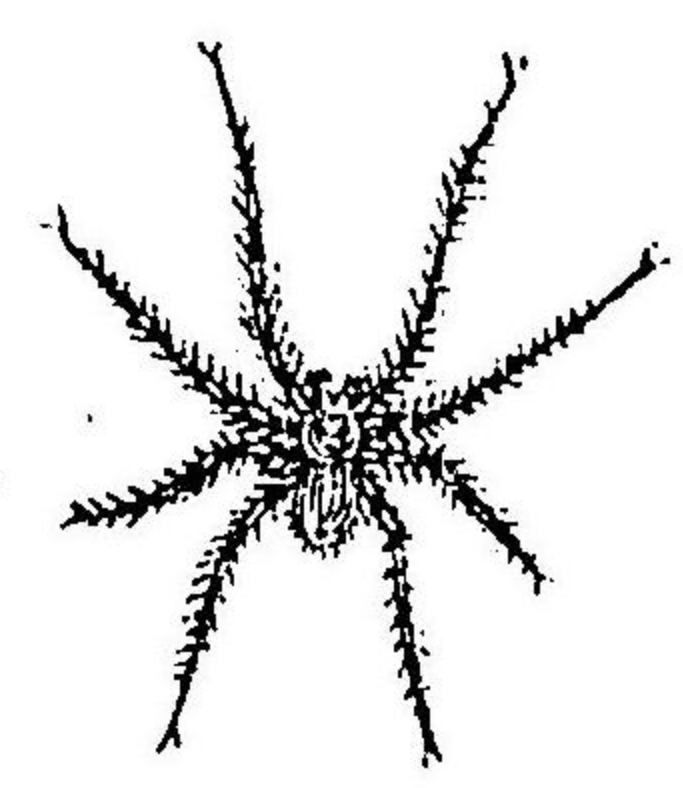
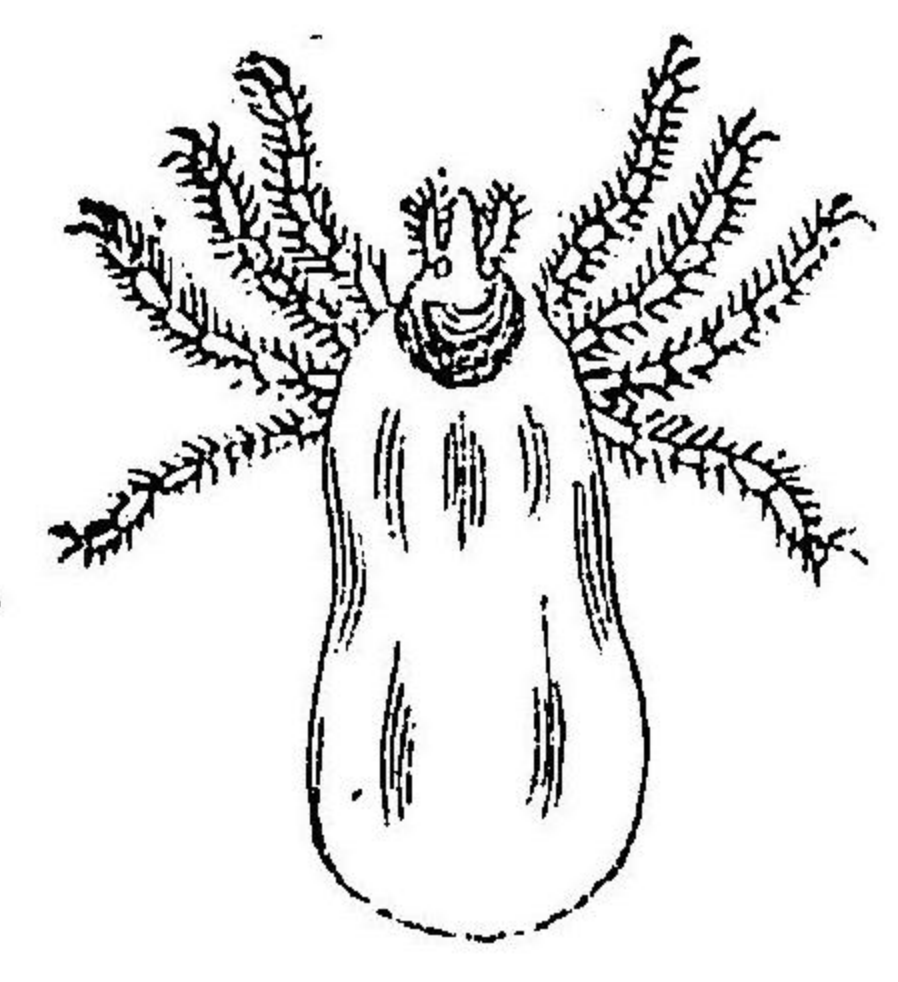
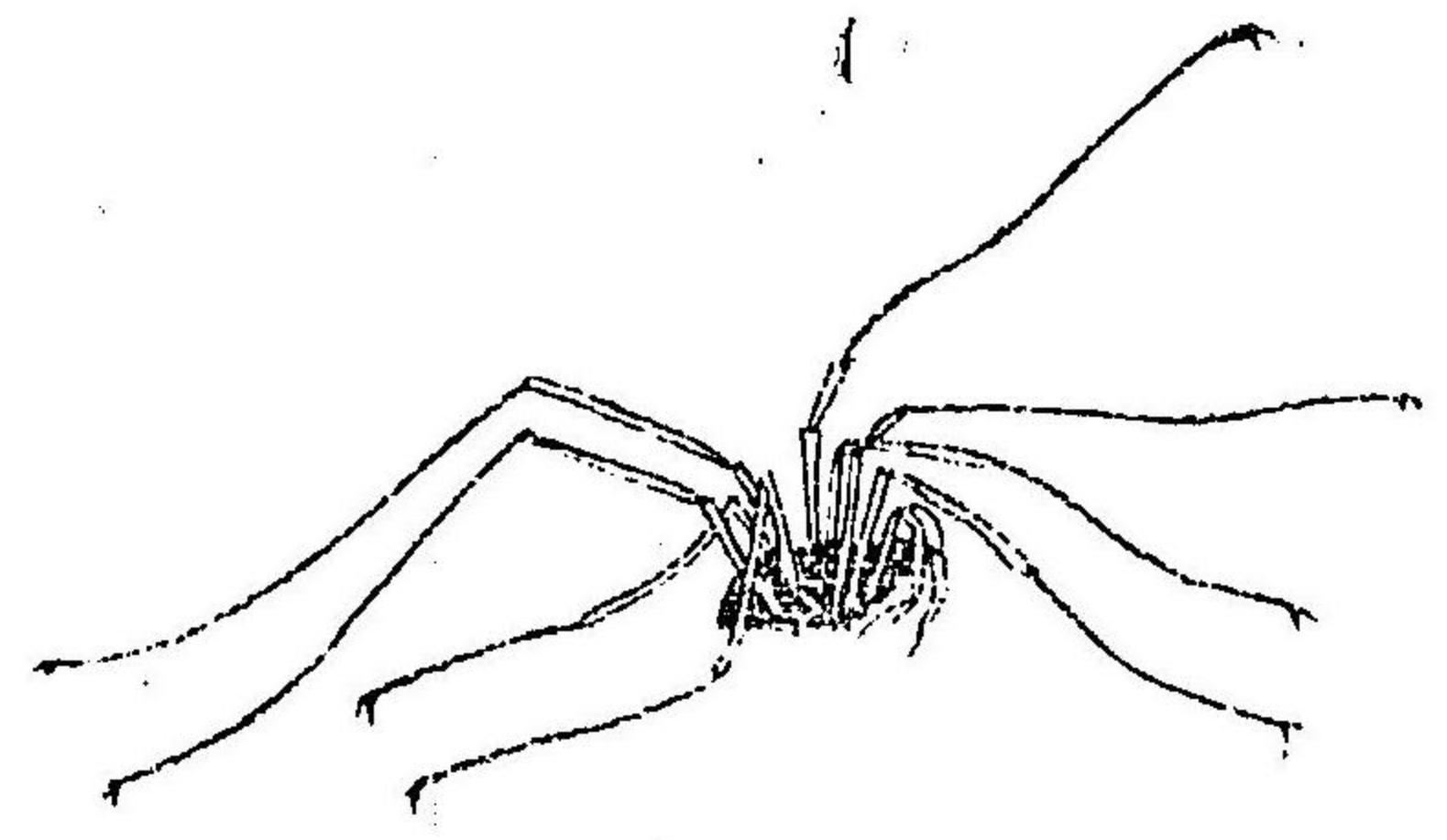
登瀛自序下

此

之ニ屬セリ、第三百三十九圖ノ類ノ如シ

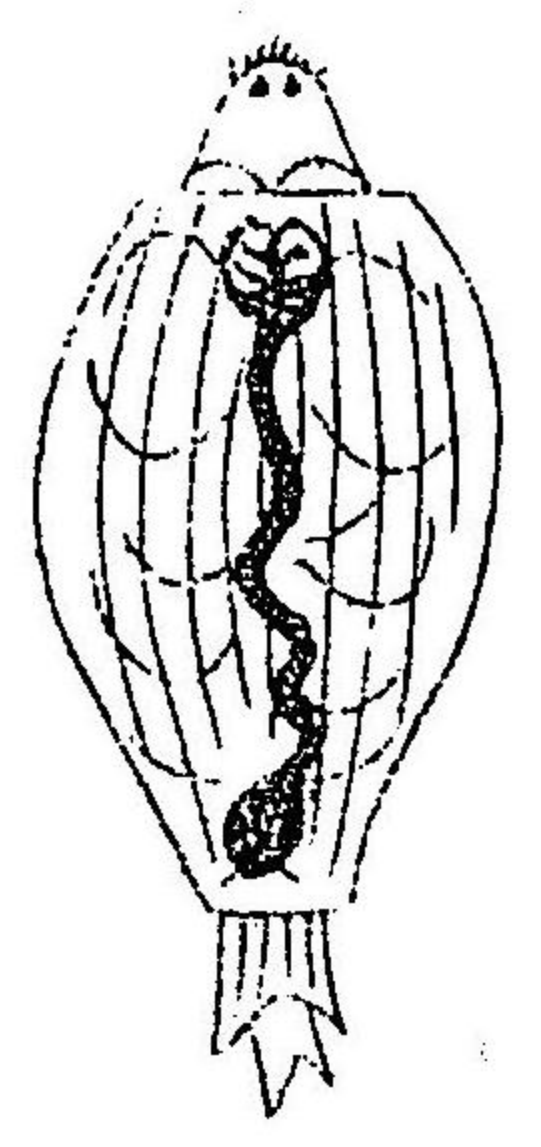
○其三ヲ蜘蛛族ト云フ、首胸ノ兩部密接シ、全體只
胴ノミ巨大ニシテ、無血蟲ノ如ク、三要部ノ區別、然

第四百十四圖

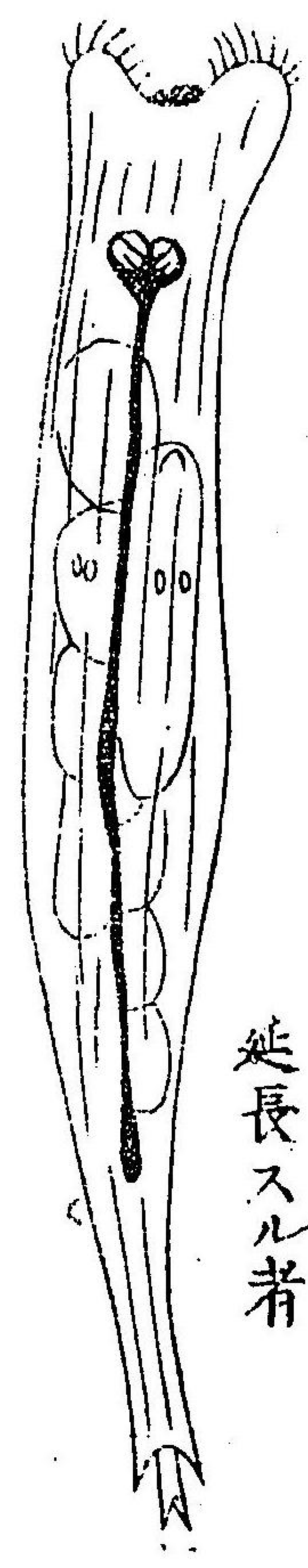


タラズ、眼圓體ニシテ足ハ八脚
ナリ、又細長ノ脚アリテ速カニ

第四百一十一圖



捲縮スル者

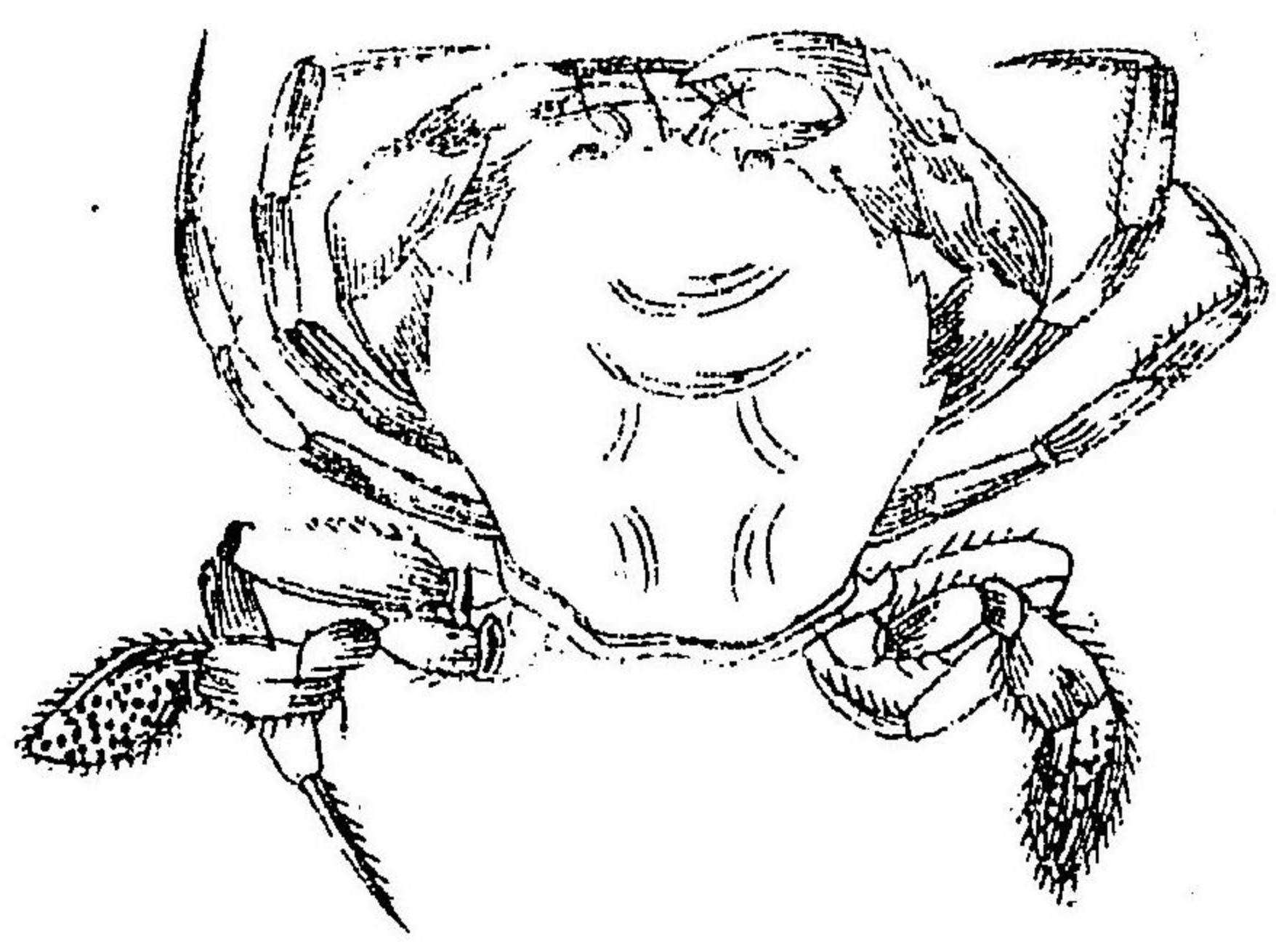


延長スル者

跛行スル者アリ、イキソデムナリキリムナル者ハ大サ豆
ノ如クニシテ、能ク哺乳蟲ニ附着ス、第四百十四圖ノ如シ
○其四ヲ蠶縮蟲族ト云フ、全體ノ前部ニ頸揺スル毛
髪ヲ生ゼシ、輪縁アリテ自ラ閉塞シ、又其身ヨク舒暢

ミテ延長シ又忽ニ蹙縮スル者ナリ水中氣中共ニ之ヲ生ズ第百四十一圖ノ如シ

第百四十四圖

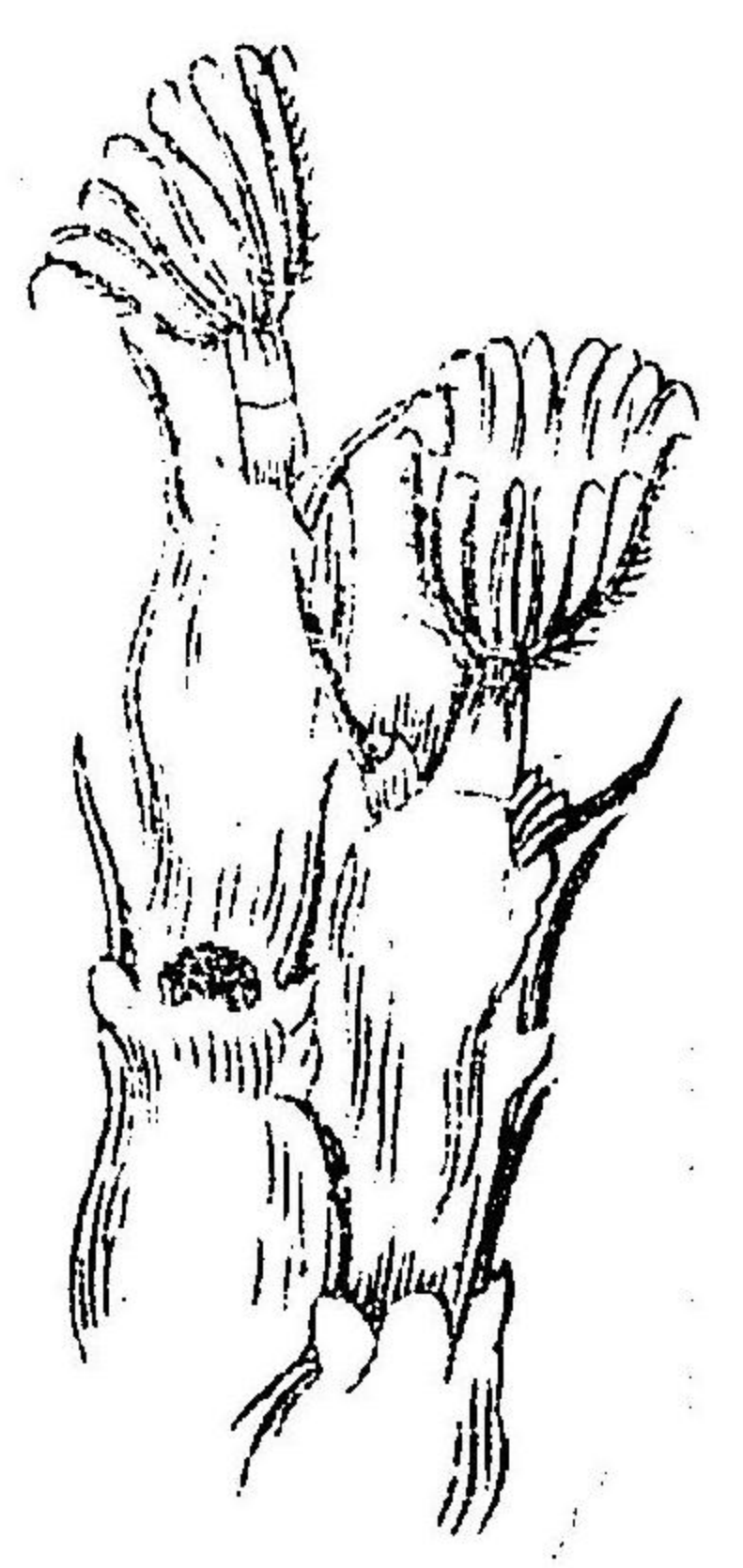


○其五ヲ鉗爪蟲族ト云フニ柄ノ鉗爪ヲ具スル者ナリ海老蝦蟹ノ類之ニ屬ス第百四十二圖ノ如シ
○第四 頰脆肉類
脆軟ニシテ滋潤スル總被アル者アリ又石灰質貝様ノ甲殼ニテ被ハル

者アリ

○其一ヲ蕨苔蟲族ト云フ淡水鹵水共ニ生ズル小蟲ナリ六七十年前マデハ此ヲ植蟲ニ算入セリ然レバ其ニ異ナル所ハ體軀中ニ屈曲セシ腸管アリテ其末遂ニ口トナル者ナリ又長キ毛條ヲ以テ口ヲ圍繞スル者アリ又傑列乙様管様ノ不整透明ナル枝柯アリテ他ノ貝殼海植等ニ附着スル者アリ第百四十三圖ノ如シ

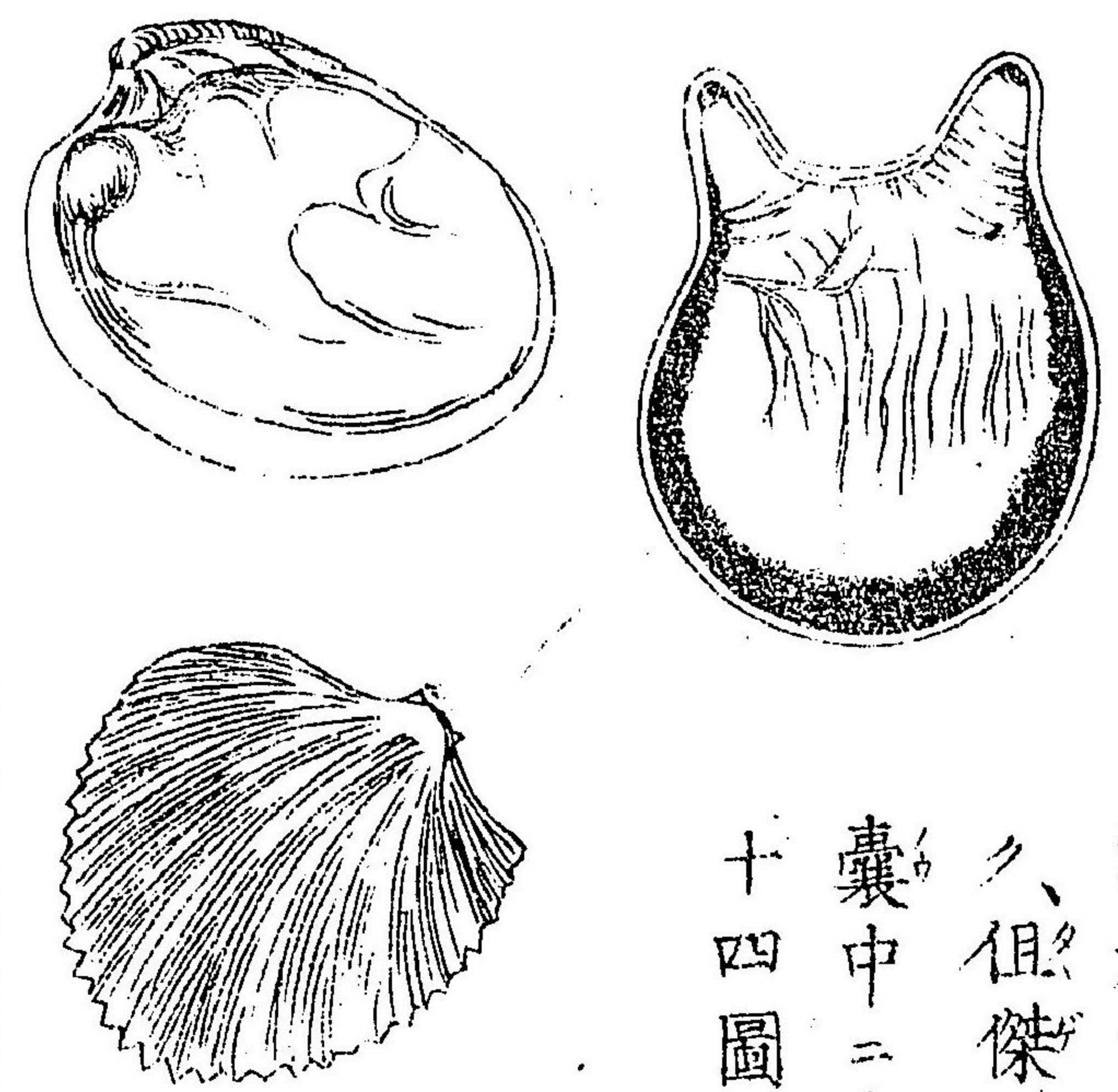
第百四十三圖



第百四十三圖ノ如シ

第四百十四圖

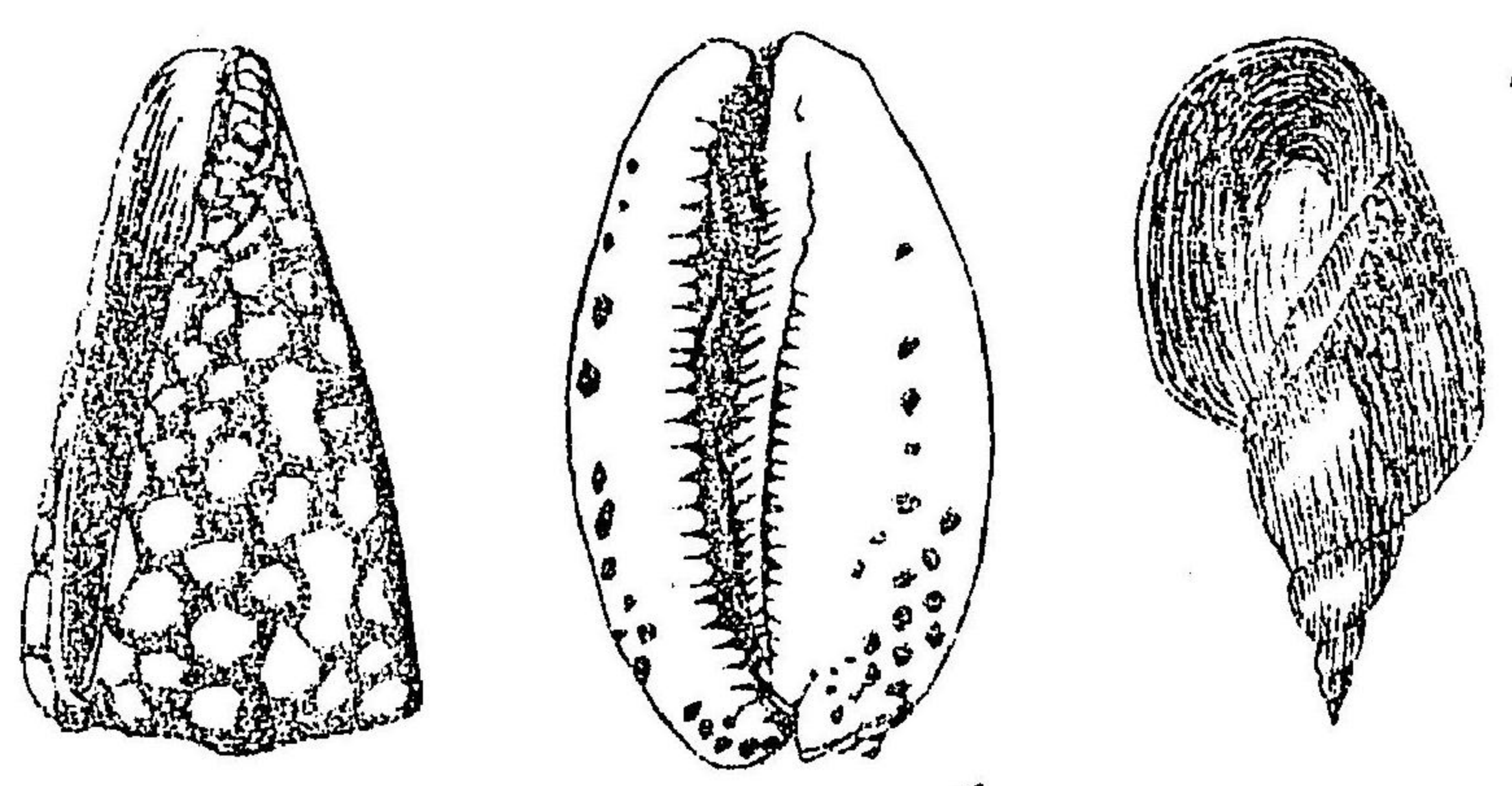
第四百五十四圖



○其二ヲ被囊蟲族ト云フ
 海水中ニ生ズ首ナク甲ナ
 ク、但傑列乙様或ハ堅キ膜
 囊中ニ在ル者ナリ、第四百
 十四圖ノ如シ

○其三ヲ甲殼蟲
 族ト云フ 是皆
 堅殼ヲ荷フ者ナ
 リ而ノ單殼ノ者
 ア、火雙殼ノ者ア

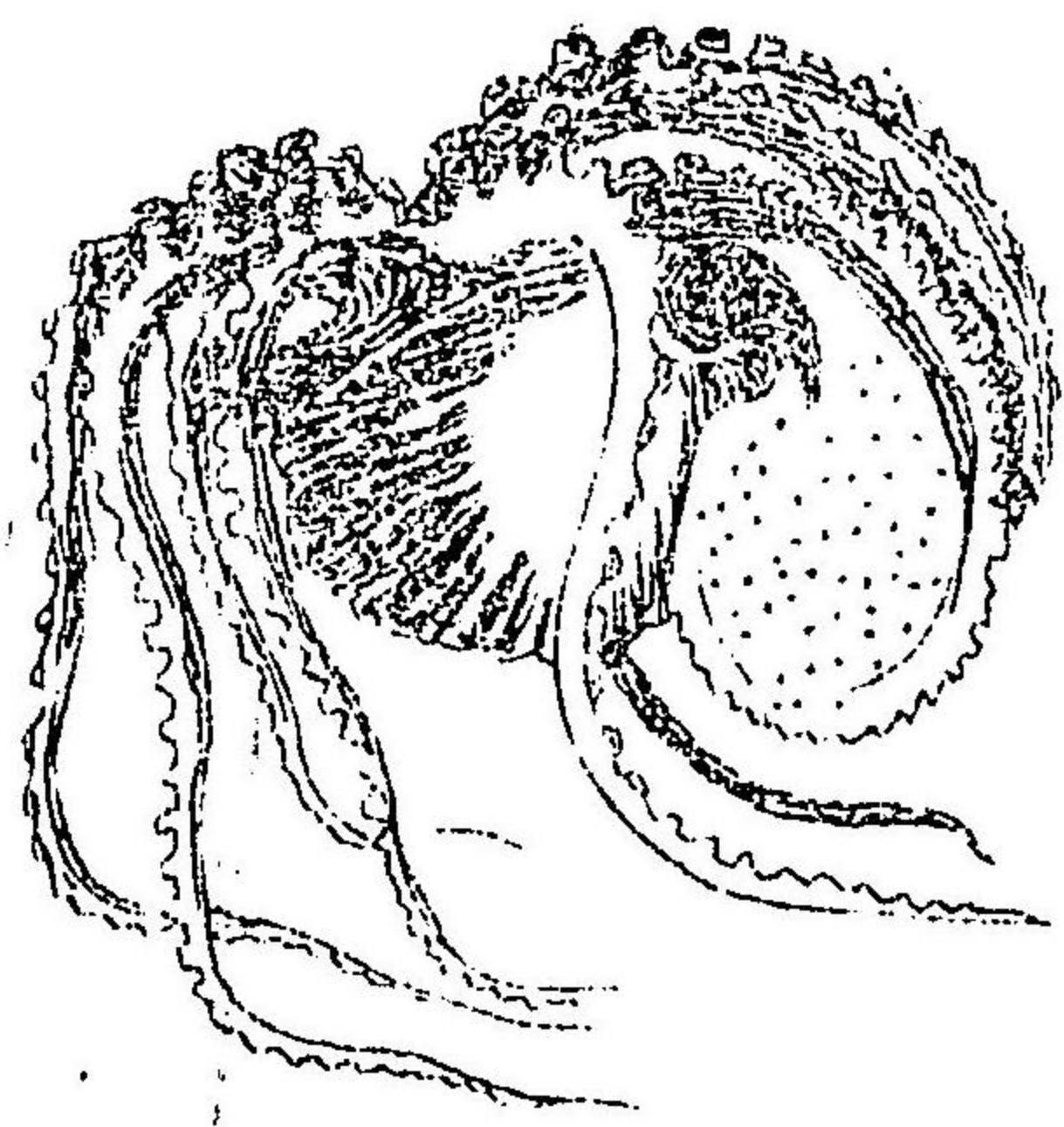
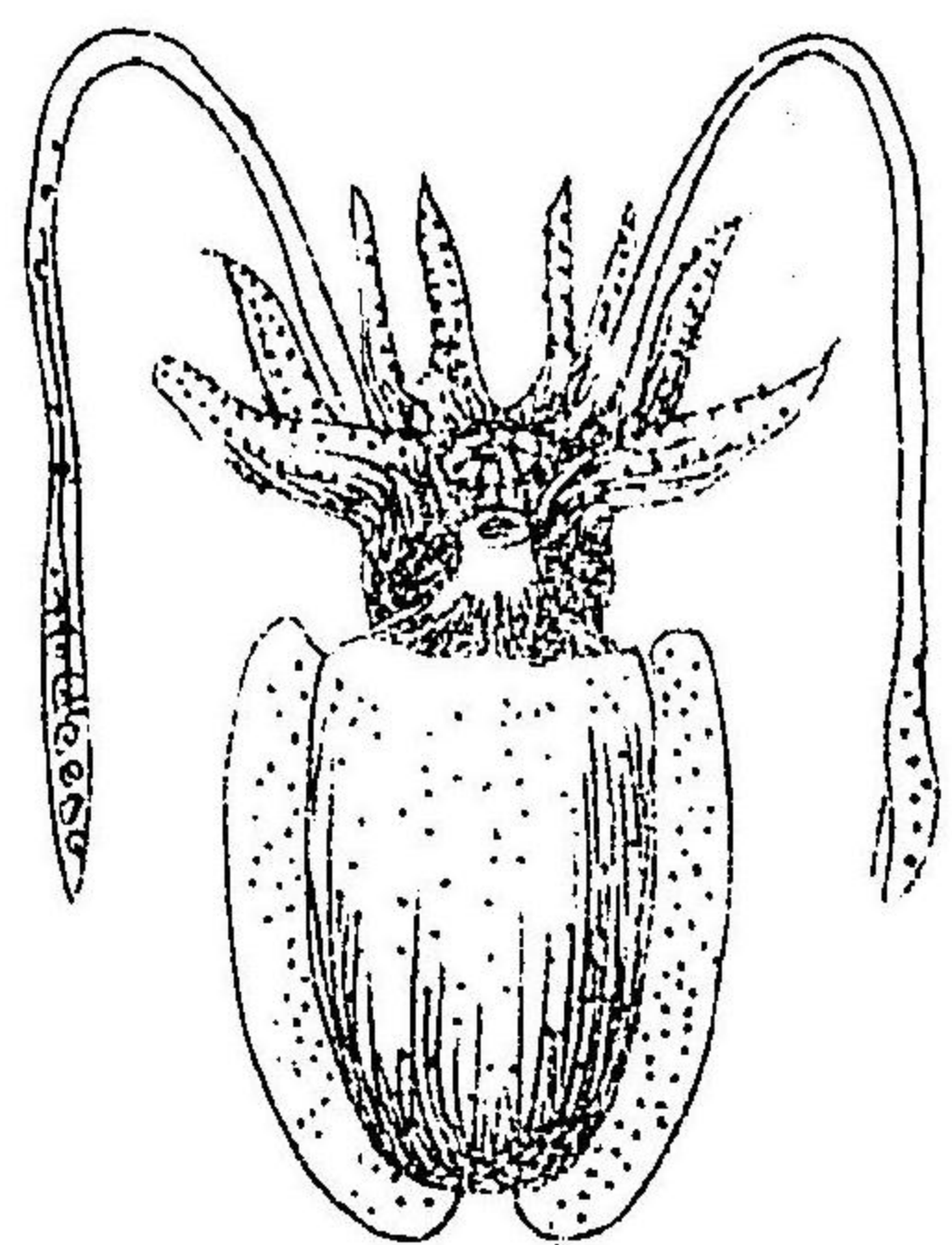
第四百六十四圖



リ、文蛤、蜆、九孔螺ノ類之ニ
 屬ス、第四百四十五圖ノ如シ
 ○其四ヲ帶甲軟蟲族ト云
 フ 或ハ堅甲或ハ貝殼ヲ
 以テ被ハル、者ナリ、其殼
 常ニ單殼ニテ雙殼ナラス、
 多少首部ヲ具シ、又身ヲ抽
 デ、蠢動スル者ナリ、第百
 四十六圖ノ如シ
 ○其五ヲ強項蟲族ト云フ

全體ニ於テ其首部尤モ著シク、其部ニ自ラ動作スベ
 キ、器械ヲ具存スル者ナリ、其衆腕ノ相着テ圍狀ヲ為
 ス處ニ口アリ、又二大眼ヲ具セリ、又囊ノ如キ被包物
 多ク有シ

第四百四十七圖



アリテ全體ノ裏ム者アリ、烏賊章魚ノ類之ニ屬セリ、

第四百四十七圖ノ如シ

○第五 有脊骨類

顯骨アリ脊骨アリ、其鬚上下ニ在テ食物ヲ嚙ム、其血
 ハ赤色ナリ、而シテ此族ヲ温血冷血ノ二類ニ區別セリ、
 其温血ニ屬スル者ハ、鳥及ビ哺乳蟲ナリ、鳥ハ卵生ニ
 シテ、哺乳蟲ハ胎生ナリ、共ニ肺臟ヲ以テ呼吸ス、蓋シ
 血ヲ温ムルノ源ハ食餌ニアリ、而シテ其温度ハ生活
 ニ最モ關係アル者ナリ、大凡水中ニ住ム者ハ、其血ノ
 温度其水ノ温度ニ同シク、氣中ニ住ム者ハ、亦其氣ノ

温度ニ同ジ然レバ哺乳蟲類ハ其血ノ温度其生活ス
ル所ノ水及ビ氣ノ温度ヨリ強クシテ且間々増減ノ
アル者ナリ鳥類ハ其温度最モ甚シクシテ攝氏驗温
器ノ四十度以上ニ在リ其冷血ニ屬スル者ハ魚及ビ
匍匐蟲ナリ其ニ卵生ニシテ匍匐蟲ハ肺臟アリテ呼
吸シ魚ハ腮ヲ以テ呼吸ス但シ鯨ハ水族ナレバ温血
ニシテ胎生シ且肺ヲ以テ呼吸ス故ニ哺乳蟲ニ屬セ
リ
○其一ヲ魚族ト云フ水族ニシテ口腮ヲ以テ水ヲ
呼吸シ水中ニ含ミシ空氣ヲ引攝ス又空氣ヲ吸ハン

為ノ二間々水ノ表面ニ來リ唼喝スルヲアリ水族ハ
總テ水ヲ離レ氣中ニ來ル片ハ其生ヲ保ツヲ得ズ
然レバ鰓鰓ノ如キ其腮ノ小ナル者ハ稍長ク氣中ニ
生存スルヲ得ベシ又九テ魚ニハ氣ヲ充タル胞囊
脊推ノ下ニ在リ之ヲ浮胞ト云フ筋アリテ能ク縮張
スベシ浮バントスレバ之ヲ張り沈マントスレバ之
ヲ縮メテ自由ニ游泳ス鰓鰓ノ如キハ其浮胞小ナリ
故ニ常ニ水底ニ在テ水面ニ浮ブヲ稀ナリ又水族ニ
綱骨軟骨ノ區別アリ鮫海鰻等ハ其骨脆軟ニシテ
曲スベク骨質ヤ透明ナリ之ヲ軟骨類ト為ス其他

八九テ剛骨ナリ

○其ニテ剛骨ナリ 卵生冷血ニシテ、肺ヲ以

テ呼吸シ、徐々ニ地上ヲ匍匐シ行ク者ナリ、又巧

ニ游泳シ、速ニ飛走スル者アリ、其形大小長短一様ナ

ラス、喙ハ蛇ノ如キハ足ナクシテ行ク、其脊椎百

以上、或ハ三百ノ長キニ至ル者アリ、蝦蟇ハ長足短身

ニシテ、其脊椎層ニ八九椎ナリ、又蟻ニ全體ニ薄キ膜

胞ヲ被リ、管ニテ之ヲ吹クバ、全體膨脹スル者アリ、蓋

シ此種類ハ其生機甚々澁韌ニシテ、之ヲ切斷スレバ、

其斷離ヒル部分尚ホ刺衝機ヲ存スル者アリ、又水中

氣中ニ在テ、共ニ生活スベキ者アリ、之ヲ兩性族ト云

フ、龜壁虎、蛇、蟻等ノ類ノ如キ是ナリ、

○其三ヲ鳥族ト云フ 温血卵生肺息ノ者ナリ、前趾

ハ即チ翼ニシテ、只飛翔ノ用ヲナシ、後趾ハ行立捉攪

ノ用ヲナス、指ハ多クハ四指ニシテ、三指ハ前ニ向ヒ

一指ハ後ニ向フ但シ杜鵑ノ如キハ、二指ハ前ニ二指

ハ後ニ向フ是常ニ茂林中ニ在ルユエ、枝柯ニ憑リ易

ラン為ナリ、又趾ノ後側ニ鉅アル者アリ、至テ銳利ニ

シテ、物ヲ蹴刺スルニ便ナラシム、水鳥ハ指間ニ膜ア

リテ、指ヲ併綴シ、以テ水ヲカキ沐浴スルヲ得ベシ、

又嘴ハ只食餌ヲ取ル爲ノミナラス、物ヲ啄裂シ仇ヲ
 防ギ身ヲ保護スルノ用ヲナス、凡テ水鳥ハ其趾短ク
 シテ、稍々身ノ後部ニアリ、故ニ地ヲ行クノ巧ナラス
 蹠蹠スル者ナリ、鴨野鴨白鳥鷓等ノ如シ、又鶴鷺等ノ
 如ク、沼汀河岸ニ食ヲ求ル者ハ、長頸長嘴ニシテ自ラ
 水中ノ物ヲ飲啄スルニ便ナリ、又鷓鴣ノ屬ハ其趾太
 ク強クシテ指ハ長シ、嘴短クシテ其本ニ厚肉アリ、鷓
 鷹等ノ鷓鳥ハ、其嘴銳ク彎リテ鉤ノ如シ、趾ハ強太ニ
 シテ四指アリ、三指前ニ向ヒ一指後ニ向フ、爪亦彎リ
 テ銳尖ナリ、共ニ物ヲ擢啄磔裂スルニ便ナラシム、鳩

衆ノ類モ亦鷓鳥ニシテ、嘴爪銳利ノリ、白晝ニ視力ナ
 ク、只薄暮ヨリ物ヲ見ルヲ得ベシ、又禽ノ一種ニ駝
 鳥ト云ヘル者アリ、沙漠曠野ノ地ニ産ス、身ノ高サ七
 八尺、嘴銳ク羽アリテ翼ナシ、頸腿共ニ長クシテ蹄ニ
 二趾アリテ駱駝ノ如シ、健歩疾走馬モ及ブ、能ハズ、
 怒リ鬪フ片ハ蹄ヲ以テ相ヒ蹴踢シ、又足ヲ以テ砂石
 ヲ抓ミテ後ニ彈擲ス、其勢炮彈弓射ノ如ク、之ニ中ル
 者ハ創傷ヲ受ク、若シ能ク養フテ之ヲ馴熟セシムレ
 バ、亦以テ驟馬ニ代テ之ニ騎ルベシ、第四百四十八圖ノ
 如シ、

第四百十八圖

鳥駝



○其四ヲ哺乳蟲族
 ト云フ 温血胎生
 肺息ノ者ナリ、其皮
 上ニ毛髮多ク、尾生
 ス、四肢アリ故ニ又
 四足蟲トモ云フ、指
 ハ五枝ニシテ、拇ハ
 必ズ離レ、毎指ノ先
 ニ甲アリ、猿ノ如キ
 ハ四足ニナ手ノ如

シ故ニ搦把攢拏自由ナリ、禺類ノナル者ハ尾端ニ亦
 カアリテ、能ク木ヲ捲キ身ヲ懸テ、翻舞セリ、象ハ四足
 他ノ技、脚ナク、耳垂牙長クシテ、俯仰顧盼ニ便ナラス、
 故ニ其鼻長ク且ツ鼻端ニ小指アリテ、蚊粒ヲモ拾掇
 スベシ、獅虎豹猫ノ類ハ爪牙皆銳利ニシテ、其爪伸縮
 自由ナリ、其瞳孔共ニミナ舒縮小大ス、獅子ハ獸中最
 モ獍猛ニシテ百獸ノ王タリ、牛ヲ捉ヘ馬ヲ擱ニシテ
 之ヲ食フ、豺狼狐犴ハミナ犬ノ属ナリ、但犬ハ尾ヲ捲
 アゲ材ハ尾ヲ垂下ス、豺狼ハ其性頑暴、往々人ヲ噬殺
 ス、犬ハ獸中ノ最モ馴柔ナル者ニシテ、門戸ヲ守リ、咬

獵ヲ取クベシ、北地深雪ノ處ニ於テハ、車ヲ引セ以テ
 牛馬ニ代テ、駱駝ハ熱國ニ産シテ能ク暑ニ耐ユ首ハ
 羊ニ似テ角ナク、口ハ免ノ如ク崩唇ナリ、脊上ニ肉鞍
 アリ、其性柔順ニシテ重ヲ負フテ速ニ行ベシ、故ニ陸
 舟ノ名アリ、胃中別ニ水脰アリ、常ニ清水十餘斤ヲ貯
 フ、數日食ハズシテ餓ヘズ、沙漠ヲ行ク人ハ、駱駝ノカ
 ヲ藉ルゝ多シト云フ、牛羊麋鹿ヲ齧獸ト云フ、ミナ腹
 ニ四肢アリ、草ヲ食フテ及芻出嚙ス、鹿ハ其性能ク寒
 ニ耐ユ、且重ヲ負テ冰雪上ヲ行ク其筋ハ強トナリ、骨
 ハ器ヲ作ルベク、角ハ膠トナリ、皮ハ服ヲ製スベシ、故

ニ百鹿ヲ養ヘバ、忽ニ富ヲ致スト云フ、猿猴ノ屬ハ其
 性狡猾好テ跳舞ス、諸獸中最モ靈敏ナリ、尾ナク身長
 キ者ヲ狹ト云フ、第百四十九圖ノ如ク其形ヲ類ル人
 ニ類似ス、其長四五尺、上下ノ齒三十二枚アリ、兩頬ニ
 嚙ナク鼻ニ準梁ナシ、林中ニ在テ枝葉ヲ以テ小屋ヲ
 作り、牝牡アリテ能ク子ヲ愛育ス、其智モ亦頗ル人ニ
 近シ、嘗テ一獵人アリ、山ニ入テ牝狹ノ見ヲ抱テ食ヲ
 覓ルヲ見ル、獵人火鎗ヲ以テ其胸部ヲ彈射ス、狹創ヲ
 負ヒ木ニ縁リ、其見ヲ撫シテ啼號シ、血ヲ吐テ將ニ死
 ニ瀕セルル、其見ヲ高枝ノ梢ニ擲トシ、遂ニ昏絶シテ

第四百十九圖



夫動物植物ハ其末ヨリ之ヲ論スレバ、
トイヘル其本ニ遡リ仔細ニ之ヲ點檢スレバ、
夫動物植物ハ其末ヨリ之ヲ論スレバ、
トイヘル其本ニ遡リ仔細ニ之ヲ點檢スレバ、

地ニ倒ル見
之ヲ視テ枝
ヲ抱キテ悲
多ク其景況
甚ダ悽惋々
リ獵人ツレ
ヨリ其業ヲ
革ムト云リ

蛆ノ微ヨリ以テ喬水人類ノ大ニ至ルマデ一氣呵成
ニシテ其間實ニ毛髮ヲ容ルノ地ナシ、
ノ間ニ捕虫アリ、鳥獸ノ間ニ蝙蝠アリ、
馬アリ、獸類人類ノ間ニ猿公アルガ如シ、
巧妙其端倪ヲ窺ヒ知ル可カラザル者ナリ、
○人ハ脊骨族ニシテ哺乳虫ノ一種ナリ、
器械ノ官能精巧完備スルニ因テ其運動作用活潑靈
妙ナル上ニ更ニ精神ナル者アリテ萬機ヲ主宰シ事
物ニ應ズルノ權アリ、其事物ニ應ズルノ作用其
知覺ト云フ聲色ヲ感シ痛痒ヲ知ルノ作用是ナリ、其

二ヲ辨識ト云フ、善惡是非ヲ辨識スルノ作用是ナリ、
 其三ヲ注意ト云フ、事物ヲ了知スルノ作用是ナリ、其
 四ヲ想像ト云フ、事物ノ憶想スルノ作用是ナリ、其五
 ヲ想得ト云フ、舊故ヲ想記スルノ作用是ナリ、其六ヲ
 才智ト云フ、事物ヲ決訂スルノ作用是ナリ、其七ヲ好
 惡ト云フ、事物ヲ嫌欲スルノ作用是ナリ、此ノ如キ意
 識ヲ保有シテ、身ヲ護リ入ヲ愛シ惡ヲ去リ善ニ遷ル
 ノ徳ノ具フ、是萬物ニ長タル所以ナリ、蓋シ動植ノ品
 類細大智愚ツノ級階差等多シトイヘル、其有機體々
 ル所以ノ理ハ、自テ一途ニ歸スル者ユエニ、動植ノ二

物體ハ其級千差萬別ナレド、之ヲ構造育生スル所ノ
 大成分ハ皆同一ナル者ナリ、則チ下條ニ陳列スル四
 元素是ナリ、

- 第一 炭素 是レ形アル一種ノ元質ニシテ植物ノ大成分ヲナス者ナリ
- 第二 酸素 是レ揮發ナル瓦斯ニシテ無機體礬石土類等ノ成分ナリ 石土等ハ金屬ノ酸
- 第三 水素 是レ甚ダ揮發ニシテ且ツ燃燒シヤスキ瓦斯ナリ
- 第四 窒素 是レ重澁ナル瓦斯ニシテ持ニ動物ノ

動物植物ノ味

大成分トナル者ナリ

右ノ四元素彼是相ヒ互ニ親和シテ又維新ノ物質ヲ生ズ左ニソノ例ヲ示ス

炭素——二物親和シテ炭酸氣ヲ生ズ植物ニ於テ

酸素——最モ必用ノ者ナリ

酸素——二物親和シテ水ヲ生ズ動物植物共ニ必

水素——用ノ者ナリ

酸素——二物相ヒ混清シテ大氣ヲ生ズ動物ニ必

窒素——用ノ者ナリ

水素——二物親和シテ「アムモニア」硝砂精ナリ鼻ニ

窒素——香者ナリ生ズ植物ニ必用ノ者ナリ

○植物ハ右ノ四元素ノ外ニ尚ホ硫黄磷鐵加爾基粘

土刺篤亞斯曹達珪土格羅耳沃陳貌羅繆等ア

リ然レモ植物ミナ盡ク之ヲ含ムニアラズ

○動物ハ右ノ四元素ノ外ニ尚ホ硫黄磷鐵加爾基刺

篤亞斯曹達珪土格羅耳沃陳貌羅繆弗律阿留母麻偃

涅斐母等アリ之ヲ人體ノ十五元素ト云フ

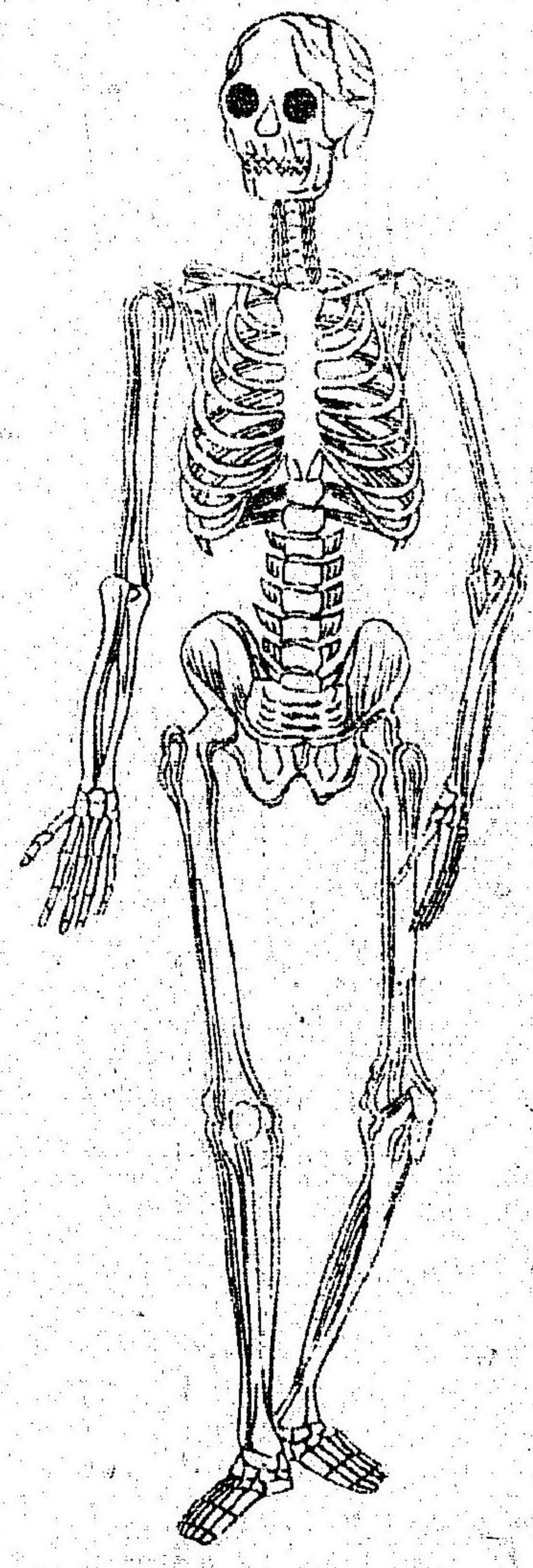
○人畜ハ口鼻ヨリ大氣ヲ吸ヒ其酸素ヲ以テ血質ヲ

活潑循環ヒシメ口ヨリ食餌ヲ資リ其中ノ炭素水素

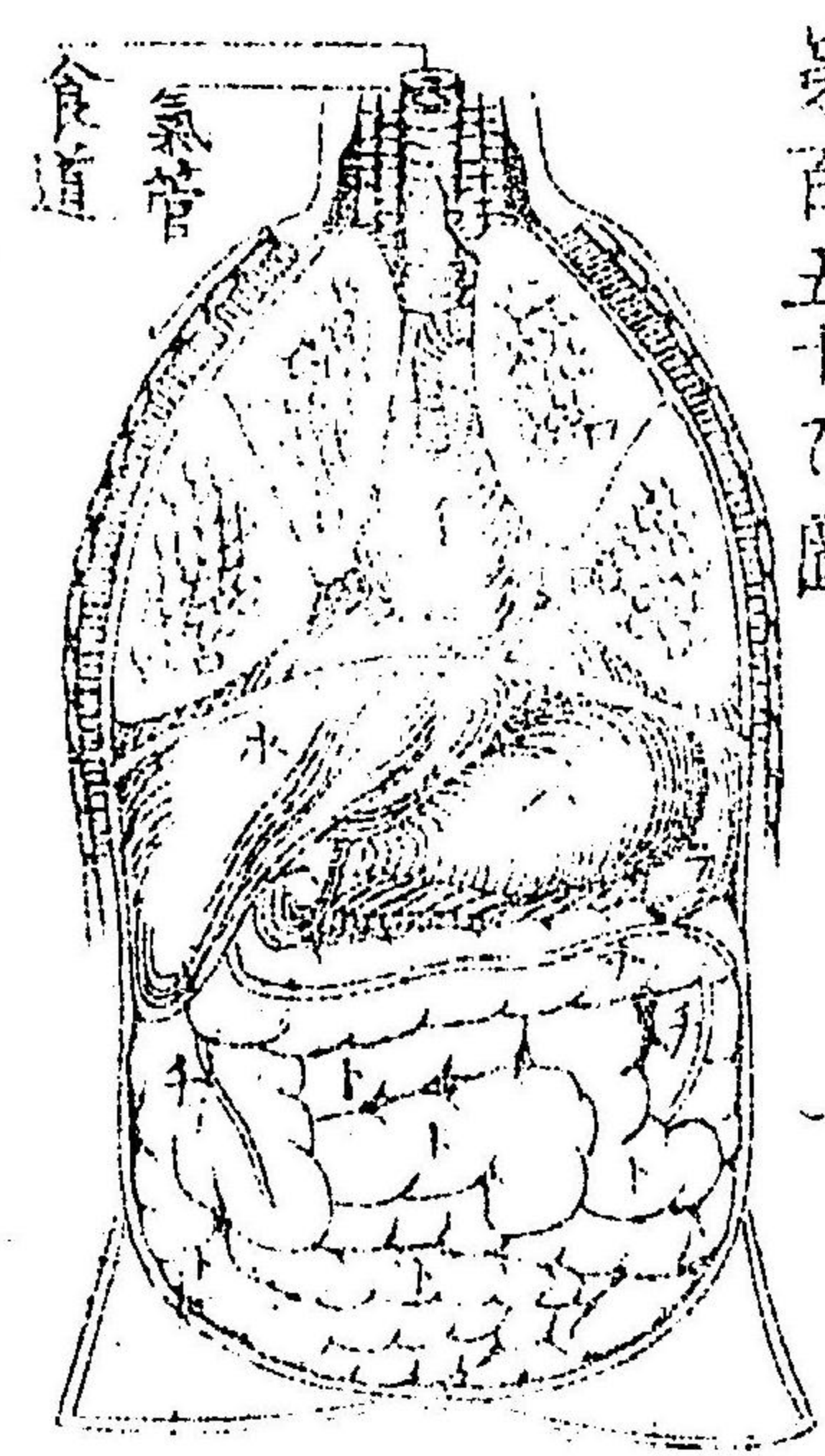
窒素及ビ其他滋養ニナルベキ諸品ヲ以テ筋骨血肉

造營シ身體ヲ長育セシム、老廢剩餘ノ分ハ汗尿呼吸
 氣蒸氣トナリ、又尿糞トナリテ體外ニ謝シ去ル草木
 ハ其根ヨリ人畜ノ尿屎ヲ吸ヒ、葉ヨリ炭酸氣ヲ吸ヒ、
 其中ノ水素窒素炭素ヲ以テ生育シ、剩餘ノ酸素ハ其
 葉ノ表面ヨリ之ヲ大氣中ニ蒸發ス、人畜又ソノ酸素
 ヲ資リテ血液ヲ調理スル原トナス、故ニ植物ト動物
 トハ互ニ相依相待テ互ニ相成育スルモノナリ、喩ヘ
 テ言ハハ植物ハ動物ノ食物トナリ、動物ハ又植物ノ
 食物トナルナリ、
 ○人畜ノ食餌ヲ以テ身體ヲ長育スルノ理如何ヲ知

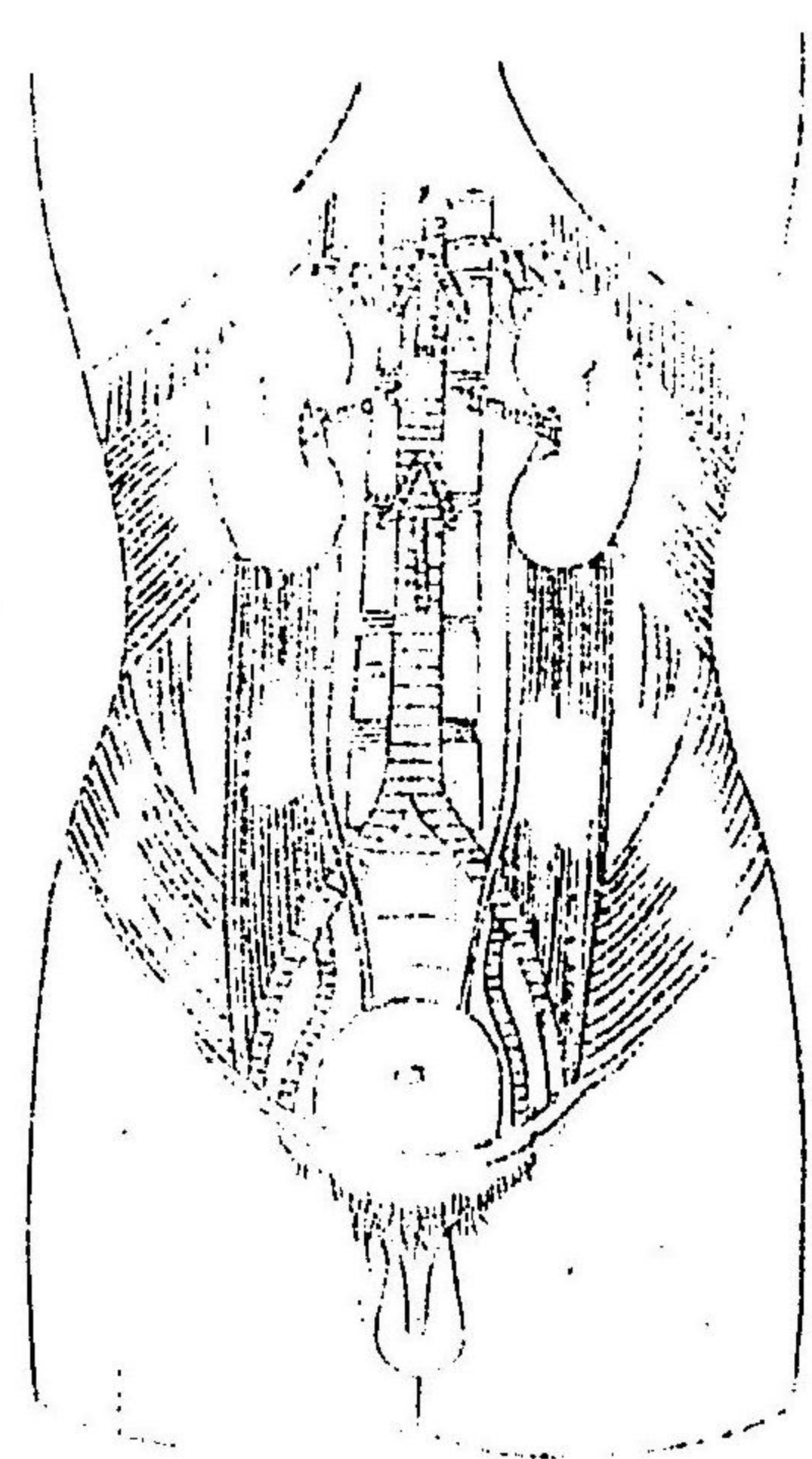
第百五十甲圖



ラント欲セバ先ツ其構造機關ヲ畧知スニハアルベ
 カラス、夫レ人畜ノ體軀ハ第百五十甲乙丙圖ノ如ク
 骨ヲ幹トシテ三區ノ要部ヨリ成レリ、乃チ頭ハ神靈



第百五十五圖 丙



腹内諸臟圖
①心臟
②肺臟
③胃腑
④脾臟
⑤肝臟
⑥膽臟
⑦小腸
⑧大腸ナリ

腹内ノ諸臟脾胃膽
肝大小腸等ヲ除キ
其下層ニ在ル諸臟
ヲ示ス ①腎臟 ②膀
胱 ③尿管 ④脊椎ナ
リ

ヲ舍シ胸ハ氣息ヲ呼吸シ血液出納シ腹ハ食物ヲ消
化シ後嗣ヲ育成スル所ニシテ之ヲ三腔ト云フ手足
ハ唯運動操作ノ用ヲ辨スルマデナリサテ食物口ニ
入レバ齒牙ニテ之ヲ咀嚼スル間ニ口中ヨリ津液ヲ
生ジ食物ニ混和シ食物ヲ消化シ易カラシメ舌ニテ
之ヲ燕下シ胃腑ニ輸レバ胃腑ヨリ胃液トテ清タル
唾ノ如キ水出デ之ニ加ハリヨク消化糜爛セシメ
胃ノ下口ヨリ徐々ニ小腸ニ輸レバ又膽液トテ苦ク
脾液トテ甘キ汁之ニ加ハリ益々飽熟醸化シ大腸ニ
輸ル此小腸ハ延長ニシテ食物其中ヲ通過スル片ニ

小腸ノ裏面ニ吸收管トテ、微細ナル小管許多アリテ、
 其管ヨリ食物ノ純粹ニシテ、身體ノ營養ニナルベキ、
 乳糜ト云乳汁ノ如キ液汁ヲ吸ヒ取リツノ剩餘養ニ
 ナラザル滓渣ハ、大腸ニ至リ尿糞トナリテ、肛門ヨリ
 排泄スルナリ、サテ吸收管ヨリ、吸ヒ取リタル乳糜ハ、
 乳糜囊ト云囊ニ湊會シ乳糜管ヨリ、漸徐ニ上流シ鎖
 骨ノ下ニ來リ、血ノ廻リ路ナル、迴血管ノ内へ入り血
 ト混化シテ、終ニ心臟ノ右室ニ注入ス
 ○心臟トハ、血ヲ出納スル器械ニシテ、胸ノ内ニ在リ、
 形ハ齒莖ノ如ク、其内ニ縦隔アリテ、左右兩室ヲナス、

而シテ心臟ハ縮脹トテ、自ラ收縮シ、又自ラ膨脹スル
 モノナリ、左ノ乳ノ下ニ手ヲ按レバ、筑ト手ニ應ズ
 ル鼓動ハ、心臟ノ縮脹スル響ニシテ、即チ脈ナリ此ノ收
 縮スル勢ニテ、心臟ノ左室ヨリ、血ヲ偏射シ、大動脈ト
 テ血ノ進行スル脈管へ輸送シ、其脈管枝ヨリ枝ヲ生
 ジ、末ハ毛髮ヨリモ細キ、微細管ニナル末梢マテ、血ヲ
 運送シ、全身ニ瀰漚シテ、後マタ迴血管ヨリ心臟へ廻
 ルナリ、迴血管モ本ハ太クシテ、末ハ亦夕毛ヨリモ細
 キ管ナリ、此末細管動脈ノ末細管ト連接シ、動脈ノ血
 ヲ受領シ、漸次ニ太キ管ニ遡洄シ、遂ニ又心臟ノ右室

ニ注入ス、サテ血ハ脈絡ニ由テ周身ヲ循環シ、局處ハ
 於テ種々ノ作用ヲナス、喻バ眼耳ニ於テハ物ヲ
 視聽スル器械、胃腑大小腸ニ於テハ食物ヲ消化スル
 器械ヲ補給シ、筋骨皮肉ヲ長育シ、百體ヲ滋潤シ、老敗
 ノ餘殘ハ汗尿トナリテ、體外ニ排泄ス、斯ク全身ニ於
 テ、百般ノ運管ヲナスエ、細管ノ末ニ至リテハ、血ノ
 性質惡クナリ、黑色稠厚トナリテ、心臟ノ右室ニ來ル
 ヲ、心臟ノ收縮力ニテ、復タ肺動脈へ偏射シ、肺臟へ輸
 送ス

○肺臟ハ胸中ニ在リテ、呼吸ヲスル器械ナリ、肺動脈

トハ肺臟ノ環ル脈管ナリ、コレモ亦枝ヨリ枝ヲ生ジ
 末ハ微細管トナル、廻血管ヨリ心臟へ來レル稠厚ナ
 ル血、其右室ヨリ出テ肺動脈ヲ進行シ、全肺ヲ循ルヲ
 夫肺臟ニテ大氣ヲ吸ヒ、大氣中ノ酸素ヲ得テ、血ノ性
 質善良ニ復シ、血中ノ炭素ハ酸素ト和シ、炭酸氣トナ
 リ、呼吸ニ隨テ飛散シ、其善良鮮活ニ成シ、血ハ肺ノ廻
 血管ヨリ、又再ビ心臟ノ左室へ廻リ、左室ヨリ復タ前
 ノ如ク、大動脈へ輸送ス、斯ノ如ク、周身ヲ環流シ、人
 畜此世ニ生レ來リシヨリ死スルマデハ、晝夜寤寐ノ
 休歇ナク、循環スルモノナリ、而シテ健康無病ノ大人

ハ一分時間ニ脈搏大約七十至ノ者ナリ八十至以上
ニ騰レバ熱アルノ徴トナス身體ノ衆血三十分時間ニ
渾身ヲ一周シ一晝夜二十四時間ニ血液運行シテ全
身ヲ周流スル一四百八十細ナリ酒類ヲ飲ミ又勞動
甚シキハ脈搏疾數ニシテ身體溫度ヲ増スハツノ
刺戟激動ニ因テ血行旺盛スレバナリ
○頭顱ニハ腦髓脊髄ニハ脊髓アリ神靈其中ニ靈契
妙合ニテ周身ノ政機ヲ主宰ス腦髓ト脊髄トハ相ヒ
連ナル者ニテ此ヨリ神經ナル者幾線トナク條出ス
神經トハ神靈ノ往來スル路ニシテ細微ノ白纖維ナ

リ其原ハ腦髓脊髄ヨリ出テ血管ノ如ク亦枝ヨリ枝
ト分岐シ末ハ微細ノ纖維トナリ遍身ニ錯綜瀰綸シ
百體ヲシテ各々其功用ヲナシムルモノナリ腦髓
ヨリ出ル神經ハ多ク眼耳鼻口鼻胃肺肝臟等ニ循リテ
視聽嗅味ノ用ヲナシ脊髄ヨリ出ル神經ハ多ク手足
腹内ノ諸臟ニ循リテ手足ヲ運動シ飲食ヲ消化シ胎
胎ヲ育成シ汗尿ヲ泌スル等ノ功用ヲナス凡テ身
體上ノ事件一切ミナ神經ノ功用ニ關ラサル者ナシ
喩ヘバ指頭ニ針尖ヲ觸レバツノ痛ヲ知リ蚊蟻皮膚
ヲ刺セバツノ痒ヲ覺ヘマタ聲色ヲ辨ヘ喜怒哀樂等

醫學自序下末

四

ノ事情ニ感ス、是皆神經ヨリ腦髓ニ郵知シテ、神靈ノ
 ノ痛痒好惡ヲ領承スレバナリ、故ニ絲ニテ指ヲ緊シ
 ク縛スレバ、指ヘ循ル神經絶ルユエ、指ノ先頑麻シ、久
 シク固坐スレバ、足ヘ循ル神經滯スルユエ、足部酸
 麻スルナリ、又行走動作等、總テ運動ニ關ルハ、脊髓
 ノ主宰スル所ニシテ、中風ノ如キ半身癱瘓不仁スル
 ハ、偏側ノ神經萎廢スルユエナリ、思慮分別總テ神識
 ニ關ルハ、腦髓ノ主宰スル所ニシテ、腦髓病ヲ受レ
 バ、則チ失神昏瞶人事不省トナル者ナリ
 ○皮膚ハ身體ヲ被包スル為メノミナラズ、體中ノ惡

氣ヲ排泄スルノ要路ナリ、其外表ニ數方ノ細微ナル
 鍼眼孔アリテ、其ヨリ常ニ蒸氣ヲ發散シ、隨テ惡氣ヲ
 誘導ス、之ヲ蒸發氣ト云フ、健全無病ノ人ハ晝夜大約
 二三百目ノ水氣ヲ蒸發ス、此蒸發氣ハ瓦斯ニテ眼ニ
 見エザレバ、手掌ヲ鏡面ニ當レバ、鏡面曇醫シ、寒冷ノ
 時ニハ氣息ノ出ルモ猶霧ノ如シ、以テソノ水氣ナル
 ヲ知ルベシ、又甚シク蒸發スル片ハ、汗トナリテ流
 ル、者ナリ、蒸氣ヲ發散スル片ハ、必ず體中ノ濕熱ヲ
 誘引スルユエ、汗多ク出レバ、身體ノ溫度減ス、炎暑ノ
 時ハ汗多ク出テ、體中ノ濕熱ヲ誘出シ、身體ヲシテ清

涼ナラシム寒冷ノ時ハ蒸氣ヲ發スルコト少ク、皮表ヨリ排泄スベキ水液道ヲ換テ腎臟へ廻リ尿ヲ利スルコト必ス多シ、故ニ汗ト尿トハ、モト同質ノ者ニシテ、體中ノ惡氣ヲ此ニ物ヨリ排泄ス、若シ皮表ノ針眼孔閉塞シ蒸氣開達セザル片ハ蒸發スベキ水液皮下ニ滯リ、頭痛倦怠ヲ覺へ或ハ清涕ヲ流ス是ヲ感冒ト云フ、○サテ右ニ謂ヘル、腦髓モ神經モ、筋骨モ皮肉モ、其基ハミナ其處へ循レル動脈ノ血ヨリシテ、造營化成スルモノナリ、又血ハ前ニモ謂シ如ク、飲食ノ消化シ乳糜トナレル者ヨリ化成セシ者ナレバ人畜ニ於テ最

モ切要ナル者ハ飲食ナハ故ニ三日食ハザレバ身體疲勞シ、十日飲食セザレバ死ヲ致スモノナリ、○動物體ハ運動操作ノ為ニ、諸部ノ皮肉筋骨隨テ消滅損ス、故ニ飲食シテ、續々其減損スルヲ補充シ、隨テ減スレバ隨テ補ヒ、常ニ新陳交代スル者ナリ、故ニ動物體三年ヲ歷レバ、其皮肉筋骨總テ皆一新ストイヘリ、而シテ其飲食スル者動物體ノ營養ニナルベキ所以ハ、蓋シ二様ノ道理ニ歸ス、
甲 食物中ノ窒素及ビ些少ノ鹽分及ビ鐵分等ハ血中ノ線質トナリ、體力ノ基ト成ル、是ヲ造成質ト云フ、

(乙) 食物中ノ炭素、水素、酸素等ハ澱粉、糖、油、脂等ハ此三
 身體ノ溫暖ヲ保タシムル源ト成ル是ヲ燃燒質ト云
 フ、

○凡テ食物ハ此二件ノ物質ヲ含蓄シテ、適宜ノ稱量
 ニ協フ者ヲ良トス、造成質、燃燒質ノ二種又適度ニ含
 蓄シ動物體ノ營養ニ尤モ恰合スル物品ハ乳汁ナリ、
 此物ハ鶏子白質、乾酪質、造成質、糖、油、燃燒質等アリテ、
 尚些少ノ燐、加爾基、骨ニナルニテ、含有ムニ、嬰兒ヲ養
 フニハ最モ能ク適合セリ、其次ハ鶏卵ナリ、此物ハ蛋
 白質、越幾斯鹽、此等ハ蛋白、蛋黃油、蛋質油、是等ハ蛋黃
 中ニアリ

等ヲ食シ、滋養ノ効多シ故ニ瀧衰耗脱シテ死ニ瀕ス
 ハ病客モ乳汁、雞卵等ヲ用ヒラレバ性命ヲ保續スル
 ニ足リト云フ

○動物ハ其性質ノ異ナルニ随テ、食餌モ亦各々異ナ
 リ、喩ハ虎狼ノ類、運動劇烈ナル者ハ、筋骨ヲ勞テ、
 甚シ故ニ肉類ヲ食トナスベク、其牙モ尖リ、腸モ短ク
 肉類ハ消化シシテ自ラ肉食スルニ恰適セリ、又牛馬
 易キユエナリシテ自ラ肉食スルニ恰適セリ、又牛馬
 ノ如ク、劇動スルニ甚ダシカラザル者ハ、體中ノ溫暖
 ヲ多ク食物ヨリ資ラザルヲ得ズ故ニ植類ヲ食トシ
 テ、齒モ齧ニシテ腸モ長キ植物ハ消化シ者ナリ、人類

ハ此兩種ノ中間ニ位シ、肉類植類ヲ併食スベキ者ナ
 ルユエニ、齒モ種々ノ形ヲ具ヘ且ツ腸モ長短ノ中庸
 ヲ得タリ、上文ニ記載セシ如ク人體ハ其構造殊ニ精
 密ナルユエニ、疾病ニ罹ルテ畜類ヨリモ多キ者ナリ、
 諺ニ云フ、人身ハ靈敏ナル時辰計ハ如シ一塵ノ失調
 アレバ全身其弊ヲ受クト故ニ常ニ省察注意シテ宜
 ク強壯健康ナラシム、平生快意ニシテ以テ天命ヲ樂
 シムベキナリ

○攝生畧説

○夫動物ノ生命ハ其壽大同シカラズ、朝ニ生シ夕ニ

死スル者アリ、或ハ數月或ハ數年ニシテ死スル者アリ、
 其壽ノ長キ者ハ象ナリ、稀ニハ百年ヲ逾ル者アリ
 ト云フ、惟人ハ其壽最モ長クシテ、歴史ヲ閱スルニ上
 古ノ人ハ往々數百年ヲ逾エ、中古ノ人モ亦百年ヲ逾
 ル者少シトセズ、然レモ近世ニ迫ンテ、其壽漸ク短ク、
 大概四五十年ニシテ死スル者多ク、人世七十古來稀
 ナリト云ヘルニ至ル、稀ニハ八九十或ハ百年ニ至ル
 者アレモ甚ダ少シトス、此ノ如ク古今其壽大ノ迥ニ
 異ナルヲハ、其理未ダ解ス可カラズ、蓋シ人生レテ二
 十年マデハ、身體日々ニ増シ月々ニ長シ、四十五十二

至テ、氣力筋骨全ク完成ス、是ヲ人生極盛ノ期トナス、
 五十ヨリ以後復タ日々ニ漸ク衰耗シ、肉瘦層皺ミテ
 老衰ノ容貌ヲ露シ、衰極リテ死ヲ致ス、是天然ノ死ナ
 リ、而シテ人ノ死スルヤ、其天然ニ終ル者少ク、疾病膏
 災等ニヨリテ、其期ヲ促ス者多シ、禽獸ノ如キハ其智
 少ク、只食ヲ求メ子ヲ育スルヲ知ルノミニシテ、其
 生理スベテ天ノ爲ス所ニ從ヒテ、私心ヲ交フルナ
 シ、人ハ智慧穎敏ニシテ、宮室衣服ヲ造製シ、穀肉果菜
 ヲ烹飪シ、土地ヲ闢キテ貨財ヲ殖シ、貿易ヲ興シテ有
 無ヲ通ジ、其他物理ヲ考究シ、事情ヲ討論シテ、以テ世

營ノ善美ヲ盡ス、故ニ常ニ思慮ヲ勞シ、精神ヲ費ス、
 甚ダレク、動スレバ病ヲ招キ、性ヲ戕フ、少シトセズ、
 是多ク夭折シテ、天年ヲ終ヘザルユエシナリ、然レモ
 其智慧アルニ頼テ、復ヨク己ヲ責メ、身ヲ省ミ、其言行
 ヲ慎ミ、飲食ヲ節シテ、疾病禍災ヲ未然ニ防グ、片ハ
 則、其天年ヲ全フシテ、壽域ニ躋ル、トヲ得、而シテ其
 攝生ノ要領ハ、精神ヲ安怡シ、身體ヲ適動シテ、衣食住
 ノ三件ニ注意スルニ在リ、左ニ其大略ヲ示ス、
 ○精神ノ安怡ナルハ、其身ヲ省テ、自ラ耻ル、トナキヨ
 リ、大ヒナルハナシ、其身ヲ省テ、耻ル、トナキハ、我心ニ

邪ナケレバナリ、善ヲ善トシ、惡ヲ惡トシ、已ヲ正クシ
 テ事ニ應ズルハ、是心ニ邪ナキナリ、概シテ之ヲ謂ヘ
 バ、只信ト愛トノニツナリ、之ヲ以テ身ヲ脩ムルハ敬
 ナリ、之ヲ以テ人ニ交ルハ忠ナリ、内敬ニシテ外忠ナ
 レバ、安逸ニ居ルトモ怠リナク、艱難ニ處ルトイヘバ、
 禍災ノ其身ニ及ブナシ、是精神ノ安怡ナル所以ナ
 リ、又身ヲ謙シテ事ヲ慎ハ、世ニ處ルノ道入ルヲ計
 リテ出ルヲ制スルハ、家ヲ保ツノ法、其器ニ應ジテ其
 カヲ盡スハ、務ヲ為ノ要ナリ、能ク此三條ヲ守ルハ、
 心身安寧ニシテ憂患アルナシ、之ニ違フハ精神

安カラス、隨テ身體失調シ、疾病禍災ヲ誘導スル者ナ
 リ、故ニ精神ヲ安怡ニスルハ、攝生法ノ最大一ナリ、
 ○身體ヲ適宜ニ運動スルハ、血液ヲ調理スルノ良法
 ナリ、血液調理スレバ、骨肉俱ニ強健ニシテ、疾病ヲ生
 ズルノ憂ナシ、允テ日用ノ諸器械ハ、之ヲ使用スレバ、
 多ク少ク必ズ減損スレバ、人身體ハ之ヲ使用セザレバ、却
 テ其弊ヲ生ズ、故ニ幽室ニ閉居シテ、勞動セザル者ハ、
 筋肉軟弱ニシテ、色澤鮮活ナラス、隨テ精神沉鬱ス、以
 テ知ルマシ、然レバ、天稟ノ賦與スル處人ニ強弱ヲ同
 フセズ、其分ニ過タル過剰ノ勞動ハ、却テ害ヲ生ズル

一アリ、但適意ノ事業ヲ操作シテ、筋骨ヲ運轉シ、又時
 々園庭ヲ緩歩シ、野外ニ逍遙シテ、新鮮ノ空氣ヲ吸收
 スベシ。九テ山水ノ光景樹木ノ蓊葱タルハ、只眼目ヲ
 悦バシムルノミナラズ、能視力ヲシテ健ナラシム、朝
 ハ黎明ヨリ蚤起シ、夜ハ人定ヲ限テ、寢ニ就クヲ宜ト
 ス、一晝夜間ニ大約八洋時間寢息スルヲ度トナスベ
 シ、睡眠ヲ忍ンテ深更マデ夜ヲ侵シ、又日中マテ飽睡
 スルハ害アリ、皮膚ハ日々水ニテ洗淨スベシ、能ク氣
 孔ヲ壯健ニシテ、胃感ノ癖ヲ除ク、又全身浴半身浴ハ
 血液ヲ進運シ、惡氣ヲ表發スルノ効アリ、而シテ沐浴

二寒冷温熱ノ數法アリ、蓋シ之ヲ華氏驗温表ニ照シ

元其等級ヲ設ル一左ノ如シ、

寒水浴 五十度ヨリ六十度ヨリ 冷水浴 六十八度ヨリ 微温

浴 八十三度ヨリ九十九度ヨリ 温湯浴 九十五度ヨリ 百

度ヨリ百十五度ヨリ 寒水 冷水浴ハ、概シテ皆之ヲ良ト云ベ

カラズ、但浴後努力操作シテ、温熱ヲ起ス者ニハ宜シ

シトス、又過熱ノ浴ハ皮膚ヲ遲緩セシメテ宜シカラ

ズ、又身體熱シ或ハ勞倦スルニ當テ、直ニ冷氣濕氣等

二遇ハ大害アリ、

○宅地室家ハ、都鄙燥濕ノ異ナルニヨリ、貧富貴賤ノ

差アルニ應ジテ其廣狹大小構架下築ノ趣ヲ異ニス
 トイヘドカ所及其水脈ヲ利シ汚穢ヲ除クベシ且東
 南ヲ開窓ニシテ日光ヲ受ルニ宜シ樹木ハ植ル凡甚
 ガ多カルベカラズ居室ハ最モ清楚ナルベク空氣ノ
 流通ヨクシ日輝ノ宜キヲ貴ブ床ハ高ク要シテ床
 下ニ濕氣ナカラント欲ス吾邦俗ノ藁疊ハ自然ニ
 塵埃ヲ包藏シ濕氣ヲ吸收シ再ビ之ヲ蒸發シテ人ノ
 氣息ニ入り病原ヲ醸スニアリ故ニ厚板ヲ以テ之ヲ
 張り毛席ヲ鋪キ或ハ圓座ヲ設ルニ宜シ便室寢房ハ
 殊ニ高窓ニシテ空氣ヲ交替セシムベシ然シ風ノ洞

通スルハ宜シカラズ又戸障子等ノ間隙ヨリ射入ス
 ル風ハ甚ダ害アリ廁圍ハ最モ清淨ニナスベシ殊ニ
 前渡ノ壺中ニ在テ腐敗シ臭氣アルハ其氣人身ニ中
 リテ大害トナルモノナリ
 ○衣服ハ人身ニ在ル温暖ヲ保持シ大氣ニ奪了セラ
 レザル為ナリ人身ノ温度ハ四時ニ論ナク必ス常ニ
 九十八度温器ナリ驗ノ者ナリ大氣六十度ナレバ體温
 外氣ノ為ニ此シク誘泄セララルヲ以テ之ニ平均セ
 ント欲シ内部ノ諸器健運シテ血液順流スルニ心
 身愉快ナリ故ニ之中和ノ度トナス大氣六十度ヨ

リ寒冷ナレバ、身温ヲ外氣ニ奪ハル、一多キユエ、其
 寒ヲ覺ス、之ニ反シテ、大氣甚ダ温熱ナレバ、身温外ニ
 泄レズ、血中ニ滯留スルユエ、身體倦怠シ、或ハツノ熱
 キヲ覺ス、故ニ冬時ニ衣ヲ重襲スルハ、其體温ヲ保ツ
 ガ為メ、夏時ニ麻衣ヲ服スルハ、其體温ヲ泄サシガ為
 メナリ、凡テ綿布ハ、其質温氣ヲ引テ速ク、又温氣ヲ放
 ツテ速ナリ、絹布ハ、温氣ヲ引テ遅クシテ、故ツテモ亦
 遲シ、故ニ綿衣ハ、木綿ヲ良トス、是體中ヨリ謝シ去ル
 惡氣ヲ速ニ驅泄スレバナリ、綿衣ハ、屢洗濯シテ其清
 キヲ要ス、然ラザレバ垢膩ノ組織際ニ滲着シテ、體

氣ノ蒸發ヲ妨グ、衾褥モ亦木綿ヲ良トス、綿胎ハ新シ
 キ綿花又能打タル藁等ニ宜シク毛羽ノ類ヲ裝スルハ、
 温煖ニ過ギテ宜シカラズ、衣類ノ襟領ハヨク緊合シ
 テ風ノ入ラザルヲ要ス、胸領ヲ風冷ニ暴露スレバ、肺
 病ヲ誘起スルノ恐アリ、帶紐ノ類ハ寬締ナルヲ良ト
 ス、緊縛スレバ、血液ノ循環ヲ妨グ、
 ○飲食ハ人身百體ノ基礎ニシテ、一日モ欠ベカラザ
 ル者ナリ、然レバ其量ヲ過セバ、腸胃ニ澁滯シテ百病
 ヲ醸ス、又減少スレバ、身體甚ダ倦怠ス、故ニ食物ハ常
 ニ其量ヲ定メ、其時ヲ期スベシ、且宜シク消化シ、易ク、

牛肉	猪肉	豚肉	魚肉
一七、五五、六一、六八、一一二	二、二三、二二、四、五、六	一、五、一、一、一、七、一、二	一、三、一、〇、〇、八、一、七
筋纖維	蜂窩巢體	脈管	神經
卵白質及血	赤分	亞爾簡兒	性越幾斯
水性	越幾斯	水及	飛散スル者
七七、五、九、七、七、八、三、八、八、三			

營養ニ可ナル物品ヲ採用スベシ、凡テ肉類ハ蔬菜類ニ比スレバ消化シ易ク血ニ化スルノ最モ多シ而シテ魚肉ハ鳥獸ノ肉ニ比スレバ、其質水分多クシテスルベルダ、氏各種ノ肉類ヲ驗査セシ比例ヲ左ニ示ス

五穀類ハ其中ニ含有セル粉質、糖、脂肪等身體中ニ於テ、血質ヲ造リ脂肪ヲ生ズレバ、赤血ニ化スルノ質分少キユエ、其人肥満スレバ、皮肉柔軟ナリ、蔬菜類ハ消化宜シカラザレバ、血質ヲシテ清淡ナラシムルノ能アリ、菓實類ハ血質ヲ清涼ニセシムル者ナレバ、多食スレバ、下利ヲ起シ易シ、凡テ食物ハ口中ニテ能咀嚙シ、徐々ニ飲食スベシ、一時ニ多種ヲ交ヘ食フヲ勿レ、又一時ニ飽食スルヲ勿レ、蓋シ食量ノ多少ハ人ニ其體格ノ強弱ト動作ノ勞逸トニ隨テ、其宜キニ適セシムベシ、率子夏日ハ蔬菜類ヲ多ク用ヒ、冬日ハ肉類ヲ多

ク用フベシ、朝餐ハ其味淡泊ニシテ、消化シ易キ者ヲ
 良トシ、午飯ハ滋味ニシテ、養分多キ者ヲ良トシ、夕飯
 ハ又淡泊ナル者ヲ良トス、凡テ飲食ハ常ニ其時期ヲ
 刻シテ用フルヲ宜シトス、夜半ニ飲食スルハ害アリ、
 又食後直ニ寢ニ就キ、又直ニ劇動スルハ宜シカラズ、
 但シ少時間緩歩運動シテ胃ノ消化機ヲ助ルニ宜シ、
 凡テ熱物ハ消化機ヲ傷リ、冷物ハ腸胃ヲ健ニス、甘味
 ノ物ヲ過食スレバ腸胃ヲ弱クシ、血液ヲ滯滞セシム、
 殊ニ小兒ニ於テハ脾疳濕瘡ノ原トナル、味噌類ハ酸
 敗シ易ク、餡餅菓子ノ類ハ、蛔虫ヲ生ジ易シ、

○胃中ニ入りテ消化スルニ難易アル物品ノ大畧ヲ
 左ニ掲示ス

○其消化シ易キ者ハ則チ
 羊乳 牛乳 黄牛最 半熟蛋 鶏卵最 魚類膏少キ
 牛肉 猪肉 瘦者良 鳥類肉 鶏鴨鳩雀 鹿肉 穀類

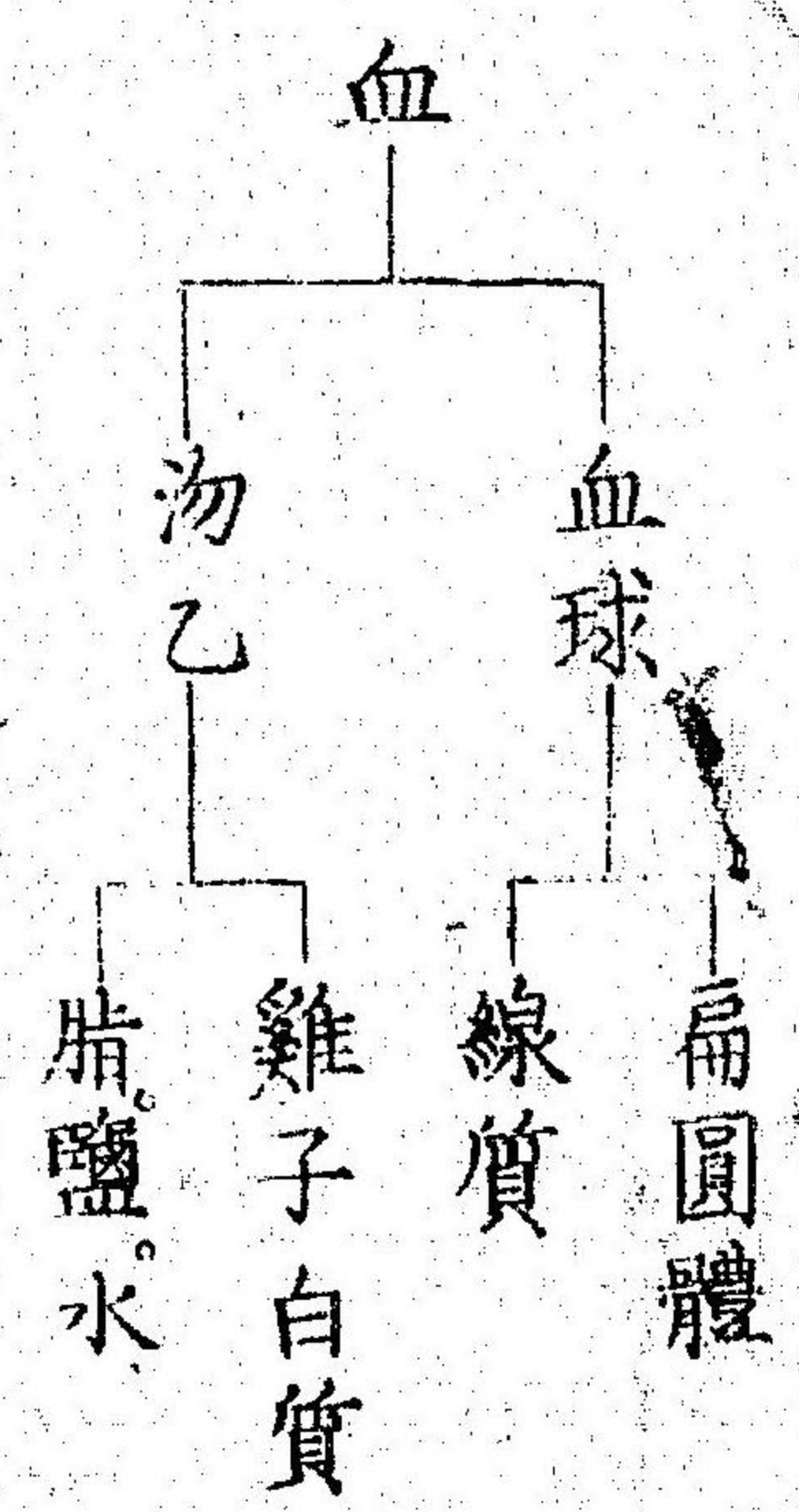
類 瓜類 蔬菜類 芋類 蕙苡 茨菇
 肥肉 老肉 鳥獸何レモ肥老ノ肉 鵝雁肉 老菜
 老瓜 蒜葱類 果實 鹹魚 鹹菜 蕈類 麵類

類 蝦類 狗馬鼠肉 切ニ食フ

○諸果ノ熟セル者ハ砂糖ヲ含テ窒素ナシ小麦芋蠶豆ハ窒素ヲ含テ滋養ノ功多シ馬鈴薯稻ハ些ノ膠質ヲ含メル澱粉アリ凡テ根幹葉等ニ液汁多キ者ハ澱粉雞子白質ヲ其液中ニ含メリ扁桃等ノ子仁ハ大概雞子白質ヲ含メリ凡テ脂油ノ類ハ澱粉ニ比スレバ酸素ヲ含ムト少ク窒素水素ヲ含ムト多キ者ユ正人身體ニ溫熱ヲ與フルト大ナリ

○植類肉類ノ元質ハ種々有トイヘ凡著シク人身體ヲ營養スベキ者ハ則チ雞子白質乾酥質軟的膠質是ノ者ハ多ク窒糖脂油粉質雞子黃護謨華兒斯是等ノ素ヲ含メリ

炭素水素等ノリ何レモ血中ニ融化混合シテ身體ヲ滋養長育スル基トナル而シテ血質ヲ驗査スレバ其各種ノ物品ヲ現出スルト左ノ如シ



○水ハ諸種ノ食物ヲ溶解シ百體ヲ滋潤シ内部ノ元温ヲ順整スルノ能アリテ一刻モ欠ベカラザル者ナリ血ト混和シテ身體ヲ循流シ汗尿蒸氣呼吸トナリ

テ體外ニ謝シ去リ、隨テ體中ノ老敗物ヲ排除ス、但シ
 水ニハ多ク種々ノ物質ヲ混合セルコト、最モ善良清
 冽ナル者ヲ採用スベシ、井水長流水等ヲ宜トス、蒸餾
 水ハ炭酸氣ヲ含マザルコト却テ味ヒナシ、
 ○茶ハ消化機ヲ補ヒ、精神ヲ鼓舞スルノ功アリ、然レ
 凡多量ニ用レバ却テ消化機ヲ傷ル、其元素テ子ナル
 者、入ラシテ睡ラザラシム、烟草モ亦一時精神ヲ挽回
 シ、鬱氣ヲ開散スルノ功アレド、其元素ニコチムナル
 者、麻酔ノ毒ヲ含メリ、故ニ多ク用フレバ眩暈ヲ發ス
 ○酒ハ精神ヲ舞揚シ、血行ヲ旺盛セシムルノ効アリ、

然レ凡亦多ク用フレバ必々害アリ、適宜ニ之ヲ用フ
 レハ蒸氣ヲ開發シ、惡疫ノ氣ヲ攪斥ス、而シテ酒ノ人ヲ
 醉シムル者ハ其中ニ亞兒箇兒ノ最モ猛ヲ含有
 スルニ因レリ、亞兒箇兒ハ炭酸氣ヲ多ク含ム者ニテ、
 血中ニ自ラ其毒ヲ貯シ、漸浸ノ久シキ終ニ精神ヲ亂
 シ、身體ヲ虧損セシムルニ至ル故ニ亞兒箇兒分ヲ
 含ムコト多キ酒類ハ、人身ニ害ヲ貽ス、一モ亦多シト知
 ルベシ、今酒類中亞兒箇兒分ヲ含ム多少ノ比例ヲ左
 ニ掲示ス、蓋シ全量百分ヲ以テ率トス
 ポルト酒 二十一 分 乃
 至二十三 分
 マデラ酒 十八 分 乃 至
 二十 分

セルリ酒	十五分乃至	マルサラ酒	十四分乃至
クラレト酒	九分乃至	ポルゴニチ酒	七分乃至
トカイ酒	九分	莱尼酒	八分乃至
ムウセル酒	八分乃至	三鞭酒	五分乃至
コダナク酒	五分乃至	リュム酒	七分乃至
ゼーブル酒	五分	井スケイ酒	五分乃至
稀麥酒	一分乃至	ポルトル酒	五分乃至
干ル酒	半分乃至	ブロウニストウ酒	五分乃至
丹釀上酒	九分乃至	銘酒	五分
味醂酒	五分乃至		

燒酒

○上文ニ記載スル所ノ件ニ由テ之ヲ考フレバ、今

日攝生ノ大綱ハ蓋シ左ノ箇條ニ歸ス。

- 第一 飲食ヲ節シ適宜ノ滋養物ヲ用フベシ
- 第二 不消化ノ食餌ヲ避ケ、銳烈飲料ヲ廢スベシ
- 第三 常ニ新鮮ノ大氣ヲ吸引スベシ
- 第四 日々清氣中ニ運動スベシ
- 第五 身體ヲ清淨ニシ、屢々沐浴スベシ
- 第六 適宜ニ筋骨ヲ勞動スベシ
- 第七 已ガカニ應スル事務ニ從事シテ、精神ヲ勵マ

御意ナカルベシ

第八一晝夜間ニ大約八洋時間寢息安眠スベシ

登高自車下未畢

明治五壬申歲四月

書

東京芝神明前

和泉屋市兵衛

同 大傳馬町三丁目

袋屋龜次郎

西京寺町四条上ル

田中治兵衛

大坂心齋橋南壹丁目

敦賀屋九兵衛

同所

秋田屋市兵衛

肆

静岡江川町

本屋市藏

兒護



